

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|---------|--------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 美しく生きる N11001 | 前期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 高松 彰充 | | | | |
| 授業の概要 | <p>宗教とは、教えを自己の中心におくことである。自己の内面を見つめ、自分はどのような存在か、いかに生きるべきかを探求する姿勢を親鸞聖人の教えを書き記した『歎異抄』を中心として学ぶ。本講義は実務家教員の授業で、寺院住職である教員が担当する科目である。宗教に携わる実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | <p>本学建学の精神、親鸞聖人の教えを通し、真の生きがいを自ら探求する姿勢を養う。</p> | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 美しく生きるとは 2. 思い立つところ 3. 平等とは 4. 信じるということ 5. 善人・悪人 6. 生老病死 7. 他人のために生きる（親切とは） 8. 大切な人 9. 思い通りになる人 10. 縁とは 11. 壁 12. 何のために 13. 欲 14. 不可称・不可説・不可思議 15. 美しく生きるとは（総括） | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>特別予習は必要ありません。講義を受けた後、配布資料やテキストを見返して自分自身と照らし合わせてください。そこから自身の学びや考えを深めていってください。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>日常生活の中で、講義で学んだこと・配布資料・テキスト等を使用し、自己の内面を見つめ振り返りを行うようにして下さい。（学習に必要な時間 30 分程度）</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 85 | 講義内容の理解 | | |
| | その他 | 15 | 授業態度等 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>講義を受講するにあたり、指定された座席で授業を受けるようにしてください。</p> | | | | |
| 使用テキスト | <p>授業時にレジュメを配付します。</p> | | | | |
| 参考書 | <p>雑草の輝き（著者：高松信英 東本願寺出版）</p> | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|----------|---------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | ビハラー・ケア論 N11002 | 通年（前・後期） | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 鳥居 優美子 | | | | |
| 授業の概要 | 看護は人の生老病死に向き合う仕事である。死と向き合う患者のスピリチュアルな苦悩に寄り添うということについて仏教的な観点からケアの在り方を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 1. いのち観・生死観を培うことができる。 2. 仏教ホスピスであるビハラーケアについて理解でき、ケアの在り方がわかる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <p>【1～3回】</p> <ol style="list-style-type: none"> ビハラー・ケアを学ぶにあたって <ol style="list-style-type: none"> ホスピスって何？ <ul style="list-style-type: none"> 日本におけるホスピス・緩和ケアの導入 ホスピスの理念 スピリチュアルケアとは？ <ul style="list-style-type: none"> ターミナルケアとは？ WHO 健康の定義、スピリチュアルの定義 4つのケア（全人的ケア） スピリチュアルケアとは ナイチンゲールはスピリチュアルケアを含めた全人的ケアの先駆者 ケアとは いのちについて考えてみよう なぜ、ビハラーを学ぶのか <ul style="list-style-type: none"> 日本人の生死観 日本的なケア 生死観の確立 ビハラーとは <ul style="list-style-type: none"> 「宗教的ケア」と「スピリチュアルケア」 宗教的ケアによる心の安寧 仏教をベースにしたスピリチュアルケア <ol style="list-style-type: none"> ビハラーケアの理解を深めよう <ul style="list-style-type: none"> 仏教とは ビハラーの歴史と役割 仏陀の教え 仏教看護「病い観」 <p>【7～9回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験より見るスピリチュアルペインとスピリチュアルケア <ol style="list-style-type: none"> 事例 グリーフケア 寄り添う <p>【10～12回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 寄り添う <p>【13～15回】</p> <ol style="list-style-type: none"> チーム医療とビハラー・ケア 臨床瞑想法・まとめ 総括・評価 | | | | |
| 事前・事後学習について | テキスト：第1章 p2～18、第4章 p58～77、第5章 D スピリチュアルケア p130～149、第8章 D グリーフと遺族ケア p249～254 を事前に読んで授業に臨んでください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前にテキストを読む時間として約1時間。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 40 | 筆記試験 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 40 | レポート課題2回あり | | |
| | その他 | 20 | グループワーク参加度、課題・ワークシートの取り組み | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | ワークシートを活用し、自分と向き合う作業やグループワークを通じて学びを深めていきます。演習では、ふざけずに真摯にご参加ください。また、グループワークでは、他者の意見を頭と心をつかって聴いてください。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 2025年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 『仏教とビハラー運動』田代俊孝著(法蔵館)、『ビハラー往生のすすめ』田代俊孝著(法蔵館)、『スピリチュアルケア学序説』窪寺俊之著(三輪書店)、『スピリチュアルケアを語るーホスピス、ビハラーの臨床からー』谷山洋三、伊藤高章、窪寺俊之著(関西学院大学出版会)、『癒し癒されるスピリチュアルケア 医療・福祉・教育に活かす仏教の心』大下大圓著(医学書院)『ターミナルケアとホスピス』柏木哲夫著(大阪大学出版会)、『実践的スピリチュアルケア ナースの生き方を変える“自利利他”のこころ』大下大圓著(日本看護協会出版会) | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 哲学 N11003 | 前期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 奥井 現理 | | | | |
| 授業の概要 | この授業は、学生の皆さんが哲学のもたらす知的興奮を味わえること、かつ、日々の学習や生活における思考に学んだことを生かせること、の二点を目指して行われます。 | | | | |
| 到達目標 | 哲学を学ぶことを通して、思考の質を高めることができる。 哲学史を学ぶことを通して、未来の見通しを立てる視点をもつことができる。 哲学を学ぶことを通して、健全な批判力を涵養することができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学すること 「哲学すること」は、「哲学を学ぶこと」とは少し違います。 まずはオリエンテーションとして、簡単な思考体験をしてみましょう。 2. 自分の哲学(1) 自分のことは自分が一番わかっている、とは本当でしょうか。 オーソドックスな自分／他人の違いから考えてみましょう。 3. 自分の哲学(2) 個性とは何であるのか、個性的であることとはどういうことか、考えてみましょう。 4. 心の哲学(1) 心と脳の関係から考えをスタートしてみましょう。 5. 心の哲学(2) 心とは何であるのか、正確には私たちは何を心と呼んでいるのかを考えてみましょう。 6. 生の哲学(1) 生とは何か、生命とは何か、大昔から多くの人たちが考えてきました。 過去の哲学者たちの思想を学んでみましょう。 7. 生の哲学(2) 「生」「死」「自殺」「安楽死」等の、生命に関する実践的な問題を考えてみましょう。 8. モラルの哲学(1) 誰かが作った決まり、礼儀、伝統、上っ面だけ…というイメージを疑って考えてみましょう。 9. モラルの哲学(2) モラルの源流はどこにあるのか、そして今はどこを流れているのかを踏まえた上で、現代的なモラルの問題に取り組んでみましょう。 10. ことばの哲学 「語の意味とは何か」はウィトゲンシュタイン『青色本』冒頭の一句です。ことばの不思議に取り組んでみましょう。 11. 宗教の哲学 なぜ宗教で争いが起こるのでしょうか。代表的な宗教を題材に考えてみましょう。 12. 科学・技術の哲学(1) 初歩的な科学の哲学から、思考を始めましょう。 13. 科学・技術の哲学(2) 技術倫理の世界から、私たちの学習・生活まで、哲学してみましょう。 14. 社会の哲学(1) 「社会で通用する・しない」とはよく聞きますが、その「社会」って何のことを指しているのでしょうか。 15. 社会の哲学(2) アダム・スミス、マルクス、ケインズ……経済の哲学を扱ってみましょう。 | | | | |
| 事前・事後学習について | 特別な事前学習・事後学習を課すことは原則としてありません。ただ、配付した資料をノートに貼り付ける等の、学習成果が散逸しないようにするための作業は怠りなく行ってください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各自、必要ならば 90 分程度参考書等を学習して下さい。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 100 | 知識ではなく思考・判断、理解が主たる評価観点になります。 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 私語は厳禁です。 | | | | |
| 使用テキスト | 使わない。授業時にプリントを配る。 | | | | |
| 参考書 | 授業中に有益な参考書を示す。 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------------|-------|------|-----|-----------|--|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | |
| 科目名 | 心理学 | N11004 | | 後期 | 講義 | 2 | | | | |
| 担当教員 | 黒岩 長造 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | この授業では、心理学全般についての講義を行います。毎回のテーマ毎にその変遷と現在の考え方について説明していきます。日常生活における事例を紹介しながら、心理学的視点についての講義も行っていきます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・心理学の学問領域が理解できる。 ・人間の考え、感情、行動の概略について理解できる。 ・日常の出来事について心理学的視点で考察できる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学を学ぶとは 2. 心理学の歴史 3. 脳と知覚について 4. 知能と学習について 5. 感情や欲求について 6. 性格について 7. 発達について 8. 社会と性差について 9. 集団について 10. 社会と仕事についての心理学 11. 子どもと家庭について 12. 深層心理について① 13. 深層心理について② 14. 「こころ」の病について 15. まとめ | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>自分の「こころ」はどこにあるか、最初の授業で400字で書いて提出を求めるので、あらかじめ準備しておいてください。</p> <p>毎回、授業内容について、ワークシート形式で記述し提出してもらいます。成績評価の対象となるので、テキストや図書館での資料を読んで予習を行ってください。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業に集中できるように事前に毎回1時間程度教科書を読んで理解しておいてください。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 100 | 対人援助における心理学的な考察の習熟度 | | | | | | | |
| その他 | 0 | | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 面白いほどよくわかる心理学 渋谷昌三 西東社 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜授業中に紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|-------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 発達心理学 N11006 | 前期 | 講義 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | 坂上 ちおり | | | | |
| 授業の概要 | 乳幼児期を中心に老年期までの人の心について、発達心理学の基本的な考え方を学びます。発達心理学の理論を学ぶことで、「子ども」の発達の様相、メカニズムを理解することができます。 | | | | |
| 到達目標 | 乳幼児期から老年期までのライフスパンにわたって、発達のメカニズムを理解し、説明することができる。発達のメカニズムや理論に沿って自身の心理的発達や変化を説明することができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：発達心理学の基本的な考え方 2. 赤ちゃんの不思議 3. 赤ちゃんとの関係：愛着・愛着障害 4. 子どもの力：情緒の発達・共感性、情動調律、マラー 5. ピアジェ、ことば・遊び 6. 児童期・青年期の発達 7. 性役割・親になること 8. 臨床発達心理のトピック | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：シラバスの授業計画で示された理論について、該当する教科書のページを読んでおくこと。事後学習：講義のなかで示された理論について、自分のことばで説明できるようにまとめる。さらに、理論に沿って日常の子どもの様子を説明できると良い。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各回で紹介する理論について、教科書の該当ページを事前に読んでおくこと（毎回20分程度） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 60 | 最終レポート | | |
| | その他 | 40 | ワークに対するリアクションペーパー | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | リアクションペーパーについては、採点次第、授業内で返却をしています。その際、修正すべき点や加筆ポイントをアドバイスしています。提出済みのリアクションペーパーに加筆して、再提出した場合には加点して、返却します。 | | | | |
| 使用テキスト | 小児看護学概論・小児臨床看護総論、医学書院 | | | | |
| 参考書 | 柏木恵子・古澤頼雄・宮下孝弘（2005） 新版 発達心理学への招待. ミネルヴァ書房. | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------------------|--------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 音楽 N11007 | | | 前期 | 講義 | 2 | | | |
| 担当教員 | 若原 真由子 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 現現在われわれが一般教養として学ぶ「音楽」とは西洋音楽（クラシック）であることを踏まえ、西洋芸術音楽の成立や歴史について知識を得て、作曲家自身の人となりやその当時の歴史的の背景を学び、クラシック音楽に親しむ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 西洋音楽の基礎知識として、西洋音楽史の大きな流れや、作曲家、有名な楽曲等に触れることにより、敷居が高いように思われる西洋音楽（クラシック）に親しみを持って、より音楽を楽しめるようになる。 また普段あまり意識されないが、確実に我々に影響を与えている音や音楽の存在に気づき、さまざまな視点から音楽をとらえられるようになる。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、西洋音楽（クラシック）とは何か、西洋音楽史概観、使用される楽器の紹介 2. 交響曲/ベートーヴェン、ブラームス、マーラー 3. 交響曲/ブラームス、マーラー他、古典からロマン 4. 声楽曲①/シューベルト、シューマン 5. 声楽曲②/ドイツリート以外の世界の歌カンツォーネ（伊）、シャンソン（仏）等 6. オペラ①、声楽+管弦楽+演劇+美術等総合芸術として/ヴェルディ、プッチーニ 7. オペラ②/イタリアオペラとドイツオペラ/ワーグナー 8. 独奏曲①、ピアノ曲、ヴァイオリン曲等/ショパン、 9. 独奏曲②/リスト、ドビュッシー 10. 協奏曲①、独奏楽器（ピアノ）+管弦楽/ラフマニノフ、チャイコフスキー 11. 協奏曲②、独奏楽器（ヴァイオリン）+管弦楽/メンデルスゾーン・バルトルディ 12. 宗教曲①、バロック/バッハ、ヘンデル 13. 宗教曲②/古典からロマン 14. オールマイティな作曲家/モーツァルト、R. シュトラウス 15. 音楽療法と西洋音楽の関係 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 特に予習は必要ありませんが、途中で小課題を課す。 ワークシートの確認を行うこと。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 次回のテーマに沿って、薦める作品を可能な限り視聴の事。10分から20分程度。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 20 | 発表の場を設ける。 | | | | | | |
| | レポート | 70 | 簡単な課題を複数回、最終授業で総括的レポート課題を課す。 | | | | | | |
| | その他 | 10 | 授業毎にレポートを作成、提出 | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 毎時間のワークシートへ記入を行い提出後添削して返却する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 特になし。 必要なプリントを随時配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|---------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 日本国憲法 N11008 | 後期 | 講義 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | 長谷川 敬子 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「法学入門及び憲法について」 現代のように自由と人権が保障された法制度のもとにあっても、民主政治を更に深めていくためには、市民が憲法に対して正しい理解を持ち、自らの手でより良い国をつくるために国政に参画してゆくことが不可欠である。このような民主政治を担う市民を教育する者にふさわしい憲法に対する常識の涵養を最小限度の目標とし、時間の許す範囲で女性の法的地位に対する考察を深める。</p> <p>本講義は実務家教員の授業で、現在弁護士である教員が担当する科目である。法律に携わる実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | 日本国憲法に対する知識・理解を深め、主権者たる国民を教育する立場あるいは福祉に関わる立場においてその知識が生かせるようにする。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. (1)はじめに (2)法律を学ぶ 2. (3)憲法とは何か (4)憲法の特質 3. (5)立憲主義と現代国家、法の支配 4. (6)国民主権の原理 (7)基本的人権の原理 5. (8)基本的人権の限界 6. (9)包括的基本権と法の下での平等 7. (10)精神的自由権 8. (11)経済的自由権、人身の自由 9. (12)受益権、参政権、社会権 (13)統治の原理 1 10. (14)国家機関の見学ないしグループ研究 11. (15)国会、統治の原理 2 12. (16)内閣 13. (17)裁判所 14. (18)地方自治 (19)憲法保障 15. (20)平和主義の原理 | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>大教室での授業となるため、講義が主体とならざるを得ないが、法的な物の考え方に習熟してもらいたいので授業中に随時質問を行うことがある。</p> <p>事前に、使用テキストの予定する講義分野を読んでくること。</p> <p>事後に、もう一度読み直すことで、疑問点がでたら次の講義にぶつけてもらいたい。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前に1時間程度、事前に30分程度は、使用テキストの講義分野に目を通す | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 憲法ないし憲法的なものの考え方に関する知識の涵養度 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 5 | 課題について適切に検討しているか | | |
| | その他 | 5 | 授業に真摯に取り組んでいるか | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポートについては、確認し、返却する。その際解説するので、りかいを確実にすること。 | | | | |
| 使用テキスト | 「伊藤真の憲法入門」 伊藤真 日本評論社 | | | | |
| 参考書 | <p>「憲法」伊藤正巳</p> <p>「憲法 第三版」芦部信喜、高橋和之改訂、岩波書店</p> <p>「世界の憲法集」阿部照哉、畑博行編、有信堂</p> | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------------------------|-------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 教育学 | N11009 | 後期 | 講義 | 2 | | | | |
| 担当教員 | 奥井 現理 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>身の周りで起こっている教育という現象を、毎回いろいろな角度から見直します。</p> <p>題材は、書籍、視聴覚教材、新聞・雑誌、みなさんの経験等、さまざまなものになります。</p> <p>三回あるワークでは、レポートの下準備としてのまとめを行います。</p> <p>最後の三回で行われる研究活動では、レポート準備の研究を行うとともに、レポート執筆の技術を学びます。</p> | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育その他の教育に関し、基礎的な理解を得ることができる。 ・具体的な事例を分析・総合することを通して、社会科学一般に用いられる思考法を身に付けることができる。 ・教育の本質を考察することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p>1：教育とは何をする事なのか(1)</p> <p>2：教育とは何をする事なのか(2)歴史編</p> <p>3：教育とは何をする事なのか(3)国際編</p> <p>4：学校教育で起こっていること(1)学習指導編</p> <p>5：学校教育で起こっていること(2)生徒指導編</p> <p>6：学校教育で起こっていること(3)その他</p> <p>7：ワーク(1)批判的思考1 学校教育編</p> <p>8：家庭教育で起こっていること(1)教育力低下編</p> <p>9：家庭教育で起こっていること(2)児童虐待編</p> <p>10：家庭教育で起こっていること(3)学校教育との連携編</p> <p>11：ワーク(2)批判的思考2 家庭教育編</p> <p>12：社会教育で起こっていること(1)教育力低下編</p> <p>13：社会教育で起こっていること(2)社会教育政策編</p> <p>14：社会教育で起こっていること(3)学校教育との連携編</p> <p>15：ワーク(3)批判的思考3 社会教育編</p> | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 最後にレポートを課しますので、このシラバスや授業で気になったテーマに出会ったら、関連図書(授業で指定します。事前に訊いてくれても結構です)を読むなどして、理解を深めるといいでしょう。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 必要や興味に応じて、関連図書を読んだり、インターネットで調べたりするといいいでしょう。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 100 | 思考・理解 授業の中で考えをまとめながらレポートを作成していきます。 | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 私語は厳禁です。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | ワークシートを配布します。ワークシートを配布・回収・評価・返却します。レポートの準備をメモすることになるでしょうから、大学ノートを用意するといいいでしょう。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜指定します。 | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|-------|--------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 数学基礎 N11010 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 宮澤 傳二 | | | | |
| 授業の概要 | この授業では、基本的な数学の問題を解くことを通して論理的に考える力を養う。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的能力を高める。 ・ 就職試験に対応できる数学力を身に付ける。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、SPI 対策 1 料金の割引、代金の清算 2. SPI 対策 2 分割払い、損益算 3. SPI 対策 3 速さ、集合 4. SPI 対策 4 順列・組合せ、確率 5. SPI 対策 5 推論 [1] [2] 6. SPI 対策 6 推論 [3] [4] [5] 7. SPI 対策 7 資料の読み取り、グラフと領域 8. SPI 対策 8 ブラックボックス、流れと比率 9. 基礎確認 1 計算問題、割合と比 10. 基礎確認 2 方程式、因数分解 11. 基礎確認 3 関数、いろいろな問題(1) 12. 基礎確認 4 平面図形、作図 13. 基礎確認 5 合同と相似、円の性質 14. 基礎確認 6 空間図形、三平方の定理 15. 基礎確認 7 場合の数と確率、いろいろな問題(2)、まとめの問題練習 | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前：授業前までにテキストを一読すること。</p> <p>事後：解けなかった問題を再度解いて、数学的な考え方を確認する。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30～40 分程度。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 40 | 講義した数学基礎の内容に関する理解度 | | |
| | 実践 | 60 | 主体性：課題への取り組み方状況 | | |
| | レポート | 0 | | | |
| その他 | 0 | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>繰り返し、解けなかった問題に挑戦し解法を身につける。</p> <p>講義で扱った問題用紙は、採点・添削し返却。</p> | | | | |
| 使用テキスト | <p>文系女子大学生の数学演習 東洋英和女学院大学学習サポートセンター 編 誠文堂新光社</p> | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------|--------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 化学 | N11011 | | 前期 | 講義 | 2 | | | |
| 担当教員 | 塚田 和也 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 化学は物質をミクロな目で捉えるため、苦手意識をもつ人が多いが、医療や看護・薬・体の仕組み等に関わる物質や現象はすべて化学式で表すことができ、看護を学ぶためには基礎化学の知識が必要である。本講義では、基礎化学の知識を学ぶと共に、安全で健康的な環境にやさしい生活を営むために必要な、空気・水・食物・薬・住居・衣類・洗剤・プラスチック等についての化学的な知識を学ぶ。さらに、多角的なものの見方・考え方を身に付け、自分で情報を整理し、物を選択する力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 看護の専門知識を学ぶ上で必要な化学的な基礎知識を習得すると共に、生活に必要なもの（空気・水・食物・薬・金属・セラミックス・衣類・洗剤・プラスチックなど）について、化学的なものの見方を身に付ける。さらに、健康で安全な環境に配慮した生活を送るために、様々な情報を多角的にとらえ、判断する力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | |
| 授業計画 | 1. 化学の基礎① 化学という学問、元素について 2. 化学の基礎② 原子の構造・性質 3. 化学の基礎③ 元素の周期表 4. 化学の基礎④ イオンの成り立ちとイオン結合 5. 化学の基礎⑤ 共有結合・金属結合・分子間にはたらく力・結合の強さ 6. 化学の基礎⑥ 物質質量 7. 化学の基礎⑦ 化学反応式 8. 化学の基礎⑧ 酸と塩基の反応 9. 化学の基礎⑨ 化学反応と熱 10. 生活の中の化学① 酸性と塩基性の化学 11. 生活の中の化学② 衣服の化学 12. 生活の中の化学③ 洗濯の化学・水の化学 13. 生活の中の化学④ プラスチックの化学・料理の化学 14. 生活の中の化学⑤ コロイドの化学・薬の化学 15. 生活の中の化学⑥ 化石資源の化学・身近な材料（セラミックス 金属）の化学 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 看護の専門科目を学ぶために必要な化学の基礎知識を身に付けるために、元素記号に慣れ、物質を化学式で表すことができるよう予習・復習をしてください。そして、化学反応式に対応できるよう練習しましょう。また、身の回りのものについて、成分表示を気にしたり、添加物やシャンプー成分などにも関心を持ちましょう。生活に必要な物質の性質を理解し、健康・環境を保持するために必要なことを調べてまとめ、人に伝える能力を身に付けましょう。そのためにも、化学の基礎について必要な知識を習得するため、講義毎の課題に取り組みましょう。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 前半の化学の基礎では、授業計画を確認し、使用するテキストや高校の教科書の該当する内容を予習してください（30分程度） 後半の生活の中の化学においては、あらかじめ授業プリントを配布するので記入してきてください（毎回およそ1時間）。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 授業プリント、小テスト | | | | | | |
| | レポート | 50 | レポート | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 授業後に授業プリントを完成させ、感想や質問等を書いて提出してください。その質問に対して、次週の授業時に解説し、フィードバックします。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 「身の回りから見た化学の基礎」 芝原寛泰・後藤景子 化学同人 | | | | | | | | |
| 参考書 | 教養としての基礎化学：身につけておきたい基本の考え方 馬場 正昭（著）化学同人 まるわかり！基礎化学（教養基礎シリーズ）田中永一郎（著）、松岡雅忠（著）南山堂 基礎化学（栄養科学イラストレイテッド）土居 純子（著）羊土社 | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 統計学 N11012 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 伊藤 信夫 | | | | |
| 授業の概要 | 統計学の基本的な考え方と具体的な手法を学ぶ。 学んだ理論をそれぞれの事象に対して活用できるように演習にも十分な時間を割り振る。 | | | | |
| 到達目標 | 統計学の基本的な考え方を身につけること。 記述統計では実際のデータに対して図表化や数値要約ができるようになること。 推測統計では検定や推定などのデータ処理ができるようになること。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の概要（基本的用語、度数分布表、ヒストグラム） 2. 1変数の記述統計（代表値、散布度） 3. 質的2変数の記述統計（クロス集計表） 4. 量的2変数の記述統計（散布図、相関係数、回帰分析） 5. 統計学における確率論（確率、確率変数、確率分布） 6. 離散型確率分布（ベルヌーイ分布、二項分布） 7. 連続型確率分布（正規分布） 8. 母集団と標本（大数の法則、中心極限定理、標本平均、標本分散） 9. 区間推定の基本的な考え方（t分布、母平均の区間推定） 10. いろいろな区間推定（カイ2乗分布、母分散の区間推定） 11. いろいろな区間推定（母比率の区間推定、推定のまとめ） 12. 仮説検定の基本的な考え方 13. いろいろな仮説検定（母平均） 14. いろいろな仮説検定（母分散、適合度、独立性） 15. 統計学のまとめ（仮説検定の本質的な限界） | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前：テキストの次回範囲をよく読んで内容の大筋をつかんでおくこと。 事後：講義プリントやレポート（演習プリント）を見返して理解を深めること。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前：テキストの次回範囲を読み進めるのに約1時間 事後：講義プリントや演習プリント（レポート）を見返すのに約30分 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 70 | 統計学の基本的な考え方を理解し、分析方法を習得しているか | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 30 | 講義内容への理解が十分深まっているか | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは添削して返却します。 ・高等学校で学んだ数学I「データの分析」、数学B「確率分布と統計的な推測」を予め復習しておくことよ。 ・電卓（＋－×÷と平方根が計算できれば100均でもよい）を用意して毎回持参すること。ただし関数電卓は避けること。（試験は電卓使用可であるが関数電卓は不可のため） | | | | |
| 使用テキスト | 基本からわかる 看護統計学入門 第2版 大木秀一 著 医歯薬出版 | | | | |
| 参考書 | なし | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------------------------|-------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 環境科学 | N11013 | 後期 | 講義 | 2 | | | | |
| 担当教員 | 高木 一代 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 環境の変化は私たちの生活を大きく変える可能性があります。この授業では、①人の成長に、身近な環境（家庭環境や地域社会）がどのように関与しているのか、②地球の環境問題と私たちの生活との関わり、③急激な環境変化（災害など）への対応について学びます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境は人にさまざまな影響を与えていると実感することができる ・地球の環境問題と私たちの生活を関連づけて考えられる ・急激な環境変化への対応を考えられる | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 人間と環境との関わり（私の常識・非常識） 2. 地球の歴史と温暖化の現状 3. 地球環境を考える① ～ゴミ問題～ 4. 地球環境を考える② ～日本の災害の歴史～ 5. 地球環境を考える③ ～水とのかかわり～ 6. 地球環境を考える④ ～紫外線～ 7. 地球環境を考える⑤ ～外部講師の先生を予定しています～ 8. 環境変化への対応① ～炊き出し計画 献立を考えてみよう～ 9-10. 環境変化への対応② ～炊き出し体験 パッククッキング（2コマ連続）～ 11. 救命救急法① ～人工呼吸、AEDの使い方～ 12. 救急救命法② ～三角巾の使い方～ 13. 環境変化への対応③ ～避難を考える（クロスロードゲーム体験とマイタイムラインの作成）～ 14. 環境変化への対応④ ～災害時における避難所生活を考える～ 15. まとめ | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 環境日誌に、家庭で環境保全活動を行なった記録の記入（毎日）と、新聞やインターネットなどから環境に関連する記事を探し、環境日誌に添付する（一週間で一つ）。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 環境日誌に、家庭で環境保全活動を行なった記録の記入（毎日）と、新聞やインターネットなどから環境に関連する記事を探し、環境日誌に添付する（一週間で一つ）のに約90分程度必要。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 100 | 授業への取り組み 50%、課題（環境日誌）50% | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 感染症の状況により授業内容を変更する場合があります。また、対面授業が難しい状況になった場合や授業内容により、遠隔授業または授業を補講日に変更しておこなう場合があります。 炊き出し体験は白衣またはエプロン、三角巾、手ふき用のタオルを持参して下さい。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | なし（授業時にプリントを配布します） | | | | | | | | |
| 参考書 | 「環境白書」環境省 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|-----------------------|-------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 基礎英語 I N11014 | | | 前期 | 演習 | 1 | | | |
| 担当教員 | ジョナサン・ヒギンズ | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 職場で考えられるシチュエーションでの会話を学び、それを応用させる力をつける。相手のニーズを受け止められるためにも、聞き取りにも重点を置く。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 病院で外国人への対応が出来るようにする。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p>まず病院での日常のシチュエーションを扱ったテキストの例文を学び、それをもとに自分たちで英文を考える。来院、入院中の患者への対応の様々な場面設定をし、グループごとに役割りを決めて実践してみる。またビデオも活用して生きた英語を耳からだけではなく視覚的にも触れてゆく機会を多く取る。</p> <p>1-3. In the Lobby of the Hospital 4-6. Registration 7-9. Checking the Registration Card 10-12. Finding the Way 13-15. Personal History</p> <p>授業の進行状況により変更あり (役割りを決め実際の場面での対応の練習を含む)</p> | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 取り上げるレッスンは多くないですが、イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましよう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。何度直されてもがっかりしないで、果敢に挑戦することが上達の早道です。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内容に合わせて必要な時間準備をしてください。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 100 | グループ発表の評価と毎時間の小テストによる | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは積極的に質問してください。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | How Are You Feeling Today? やさしい看護英語 SEIBIDO | | | | | | | | |
| 参考書 | 英和、和英辞典 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|-----------------------|-------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ N11015 | | | 後期 | 演習 | 1 | | | |
| 担当教員 | ジョナサン・ヒギンズ | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 文化や生活習慣の違いを学び言葉だけでなくコミュニケーション方法を探る 基礎英語Ⅰでの演習を元にフリートークを楽しむ | | | | | | | | |
| 到達目標 | 病院で外国人への対応が出来るようにする。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p>まず病院での日常のシチュエーションを扱ったテキストの例文を学び、それをもとに自分たちで英文を考える。来院、入院中の患者への対応の様々な場面設定をし、グループごとに役割を決めて実践してみる。またビデオも活用して生きた英語を耳からだけではなく視覚的にも触れてゆく機会を多く取る。</p> <p>1-3. Asking about Symptoms 4-6. More about Symptoms 7-9. Checking Blood Pressure and Weight 10-12. Laboratory Specimens 13-15. Taking Medicines</p> <p>授業の進行状況により変更あり (役割を決め実際の場面での対応の練習を含む)</p> | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>取り上げるレッスンは多くないですが、イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましよう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。何度直されてもがっかりしないで、果敢に挑戦することが上達の早道です。</p> | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内容に合わせて必要な時間準備をしてください。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 100 | グループ発表の評価と毎時間の小テストによる | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは積極的に質問してください。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | How Are You Feeling Today? やさしい看護英語 SEIBIDO | | | | | | | | |
| 参考書 | 和英・英和辞書 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------------------------------|-------|-----|-----------|--|--|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 2 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 英語講読 | N11016 | 前期 | 演習 | 1 | | | | | |
| 担当教員 | ジョナサン・ヒギンズ・奥井 現理 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ・スピーカーの教員と日本人教員の二名が全ての授業を担当します。 ・授業は原則として英語で行われます。 ・単語の推理（暗記ではありません）と、リスニングやスピーキングが毎回のトレーニングとして行われます。 ・おもにスピーキングにおいて、ペアワークやロールプレイング等のさまざまな方法が用いられます。 ・単語推理、リスニング・スピーキングのエクササイズを通してリーディングのトレーニングが行われます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・単語やリスニング・スピーキングの学習を通して、語学に求められる感性のトレーニングを継続的に行うことができる。 ・スピーキングの学習を通して、英語学習に求められる知識や技能を体得することができる。 ・日々の学習と親和性の高い内容をもつ英文を味読することができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> Chapter 1. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 2. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 3. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 4. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 5. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 6. 用語練習・リスニング・スピーキング Performance Test 1. Chapter 7. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 8. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 9. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 10. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 11. 用語練習・リスニング・スピーキング Chapter 12. 用語練習・リスニング・スピーキング Performance Test 2.1 and review Performance Test 2.2 and review | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>とくに予習・復習を課しません。</p> <p>ただし、文章読解は、わからない単語の意味を調べておくなどの予習をしておく、とても深く学ぶことができるでしょう。</p> <p>また、教員に質問したいことを英語でメモする学習方法は、あなたに大きな利益をもたらすでしょう。講義内容全般に、日常生活の中で何か関連することを見たり聞いたりしたときは、ノートにメモを取るとよいでしょう（英語のことでなくても構いません）。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内容に合わせて準備（予習等）をしてください。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 50 | 知識・理解のペーパーテストが行われます | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 技能・意欲等が評価されるパフォーマンス評価が行われます。 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 0 | 教育上の必要に応じて、上の方法及び配分を見直すこと上がります | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>わからないことは積極的に質問してください。英語で質問するとよりいいですが、日本語でもサポート可能です。</p> <p>日本人の教員は、通訳ではありませんのでご注意ください（ぜんぶ日本語でサポートしてほしいという向きもありますが、それは本科目の目標に沿うものではありません）。</p> | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 西原俊明・西原真弓・Carey Benom 著『医療・看護のためのやさしい総合英語 English for Medicine (Revised Edition)』（金星堂、2022年） | | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>各種英語辞書（電子辞書でも構いませんが、通信機能の付いた機器を試験会場に持ち込むことは禁止します）</p> <p>なお紙の辞書でおすすめなのは、研究社の『リーダーズ英和辞典』です。</p> | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|-----------------------|--------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 2 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 英会話 I | N11017 | | 2 年前期 | 演習 | 1 | | | |
| 担当教員 | ジョナサン・ヒギンズ | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 現代文学書を使用し、英語力を向上させる。 ネイティブ・スピーカーの教員が原則として英語で授業を担当します。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 英語の読解力・表現力を身につけ、自信を持って会話することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | |
| 授業計画 | 授業は次の 4 段階をふまえて行われる。 1. リスニング 2. グループリーディング（講師と） 3. 新しいおよび難しい単語の意味チェック 4. 単元のまとめに読解力のテスト | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましょう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。 映画の DVD も見て学習するのもよいと考えます。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内容に合わせて必要な時間準備をしてください。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 100 | グループ発表の評価と毎時間の小テストによる | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは積極的に質問してください。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | Notting Hill by Richard Curtis (Pearson) 1999. | | | | | | | | |
| 参考書 | 和英・英和辞書 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|-----------------------|-------|-----|-----------|--|--|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 2 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 英会話Ⅱ | N11018 | 2年後期 | 演習 | 1 | | | | | |
| 担当教員 | ジョナサン・ヒギンズ | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 現代文学書を使用し、英語力を向上させる。 ネイティブ・スピーカーの教員が原則として英語で授業を担当します。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 英語の読解力・表現力を身につけ、自信を持って会話することができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | | |
| 授業計画 | 授業は次の4段階をふまえて行われる。 1. リスニング 2. グループリーディング（講師と） 3. 新しいおよび難しい単語の意味チェック 4. 単元のまとめに読解力のテスト | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましょう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。 映画のDVDも見て学習するのもよいと考えます。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内容に合わせて必要な時間準備をしてください。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 100 | グループ発表の評価と毎時間の小テストによる | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは積極的に質問してください。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | The Return Of Sherlock Holmes by Sir Arthur Conan Doyle (Pearson) 2000. | | | | | | | | | |
| 参考書 | 和英・英和辞書 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------|--------|-----|-----------|--|--|--|--|
| 対象学生 | 基礎（外国語） 1 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | ドイツ語 | N11019 | 前期 | 演習 | 2 | | | | | |
| 担当教員 | 奥井 現理 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | ドイツ語の絵本” Schreimutter” を毎回少しずつ購読していきます。それとともに、ドイツ語のかんたんな単語や会話フレーズなどのワークを行います。こうした学習を通して、西欧語やドイツ文化への理解を深めていきます（英語が得意でなくともかまいません）。学習状況は毎回配布・提出のワークシートで評価されます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. ドイツ語の絵本を楽しむことができる。 2. 簡単なドイツ語を読んだり話したりできる。 3. 西洋の言語・文化に親しむことができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | | |
| 授業計画 | Schreimutter (1) 単語・フレーズ練習 (1) Schreimutter (2) 単語・フレーズ練習 (2) Schreimutter (3) 単語・フレーズ練習 (3) Schreimutter (4) 単語・フレーズ練習 (4) Schreimutter (5) 単語・フレーズ練習 (5) Schreimutter (6) 単語・フレーズ練習 (6) Schreimutter (7) 単語・フレーズ練習 (7) Schreimutter (8) 単語・フレーズ練習 (8) Schreimutter (9) 単語・フレーズ練習 (9) Schreimutter (10) 単語・フレーズ練習 (10) Schreimutter (11) 単語・フレーズ練習 (11) Schreimutter (12) 単語・フレーズ練習 (12) Schreimutter (13) 単語・フレーズ練習 (13) Schreimutter (14) 単語・フレーズ練習 (14) Schreimutter (15) 単語・フレーズ練習 (15) | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 毎回返却されるワークシートで、簡単な単語や会話フレーズの復習をするといいいでしょう。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 必要に応じて、90 分程度くらいまでの範囲でテキストを読むといいいでしょう。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 100 | 理解・表現 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 私語は厳禁です。 毎回、ワークシートを配布・返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | Jutta Bauer (2017) "Schreimutter", Beltz GmbH, Julius | | | | | | | | | |
| 参考書 | ドイツ語の辞書がほしい人で何が良いかわからない場合は、三修社の『アクセス独和辞典 第 3 版』をおすすめします。電子辞書でも構いません。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------|--------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 体育実技 | N11020 | 1 年前期 | 実技 | 1 | | | | |
| 担当教員 | 高野 喜宏 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | スポーツ・運動の実践を通して、受講生の体力向上や健康の維持・増進を図ることを目的とする。さらに、からだを動かす楽しさを知ることによって、生涯にわたってスポーツや運動に親しむ態度を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・運動に楽しんで参加することができる。 ・他者と協力してスポーツを行うことができる。 ・安全にスポーツを行う態度を身につけることができる。 ・実技内容を計画することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | |
| | ○ | | | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 体ほぐし運動・体づくり運動・ストレッチ 3. バドミントン 4. テニス 5. 卓球 6. ソフトボール 7. ソフトバレー 8. ターゲットバードゴルフ 9. バasketボール 10. バレーボール 11. フットサル 12. 選択実技 13. 選択実技 14. 選択実技 15. 選択実技 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 選択実技は学生の皆さんと相談して内容を決めます。 なお、受講人数や状況によってシラバスの内容が多少変更することがあります。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 実技のルール等を事前学習として調べてください（30分程度） | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 25 | スポーツの意味について | | | | | | |
| | 実践 | 75 | 授業への参加態度、意欲 | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対するコメントを添付し、返却します | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 特に指定しない | | | | | | | | |
| 参考書 | 特に指定しない | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------------------------|--------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | キャリアデザイン | N11021 | 1年次・通年 | 演習 | 2 | | | | |
| 担当教員 | 神澤 絢子 他 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | この授業の大きな願いは、皆さんが看護専門職としての自らのキャリアデザインを描くことができることにあります。具体的には、社会に求められている看護専門職のあり様を学ぶ機会を通して、自らの生き方を考え、職業生活の中で自分がなにを実現しようとするのか、職業に対してどういう意味づけをするのかを考えます。また、専門的能力を身につけるために、今何をすべきかを考え、その実現のために必要なリテラシー能力、コミュニケーション能力、問題解決能力を身につけましょう。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ①看護専門職としての自らのキャリアデザインを描く。 ②社会における看護の役割について考える。 ③学んだこと考えたことを他者に伝える力、議論する力を身につける。 ④資料等から物事を批判的に読みとる力を身につけ、論理的に考える。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | |
| | ○ | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：キャリアの考え方 要点を聴き取るコツ ノートの取り方 読む力 「看護師に必要な資質」：ロジカルライティング（L・W）的思考① 「看護師に必要な資質」：ロジカルライティング（L・W）的思考② 調べる力、整理する力 まとめる力、書く力 *レポート評価対象 L・W的：「私の目指す看護師像」個人ワーク *レポート評価対象 ようこそ先輩 *レポート評価対象 「私の目指す看護師像」：L・W的思考 グループワーク① 「私の目指す看護師像」：L・W的思考 グループワーク② 「私の目指す看護師像」：成果のプレゼンテーション① 「私の目指す看護師像」：成果のプレゼンテーション② 私のキャリアビジョン *レポート評価対象 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 第2、3、4、7、8回は、初年次伝える力向上委員会編集：第5版 こう学習すればわかる 聴く・読む・調べる・書くコツはこれだ！（飯田短期大学看護学科）を事前・事後学習に活用するようにしましょう。他の回は、「なぜ看護職を選んだのか」じっくり考え、その理由を他者に伝えられるように準備をしましょう。日々、論理的に考える習慣をつけ、授業中は積極的に発言できるように準備をしましょう。講義後には、自分の知識や行動を振り返るようにしましょう。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 本科目は、グループワークでの演習を取り入れています。グループワークは、課外時間の活用が一課題につき2時間以上必要となります。個人ワークでは、1コマにつき30分程の事前学習が必要です。テキストを読む、キャリアに関する情報収集をするなど主体的に学びましょう。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 85 | 提示する課題の内容(提出期限、規定の順守を含む) | | | | | | |
| | その他 | 15 | 授業に臨む姿勢と態度 | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 提示する課題は授業内で教材として活用します。その後、教員が添削を行い返却します。疑問・質問には随時対応します。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 初年次伝える力向上委員会編集：こう学習すればわかる 聴く・読む・調べる・書く コツはこれだ！ 第5版 飯田短期大学看護学科 他 | | | | | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ロジカルライティング：ベネッセ その他、適宜指示する | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------------------|--------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 地域社会学 | N11022 | 通年 | 講義 | 2 | | | | |
| 担当教員 | 武分 祥子 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>本学のある飯田下伊那地域についての歴史、特徴、コミュニティの現状を幅広く学びます。その上で、将来、地域で生活し専門職としての役割を果たして行く上で必要な視点を持ち、さらに地域づくりのために自分たちは何が出来るかを考えます。様々な学生や地域の人々等との交流・取り組みも本授業の課題です。</p> | | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>①飯田下伊那地域を中心にこの地域の特徴をさまざまな素材をもとに幅広く学ぶ。 ②将来地域で個人としてよりよく豊かに生き、さらに専門職としての役割を果たしていくために必要な視点を身につける。 ③自分自身が地域づくりの担い手となることを自覚し、取り組む課題を見出すことができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | |
| | ○ | | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会学を学ぶために（全体のながれ） 2. 飯田下伊那地域の特徴（統計、自然、文化、歴史） 3. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの課題 事例① 4. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの課題 事例② 5. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの課題 事例③ 6. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの課題 事例④ 7. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの課題 事例⑤ 8. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの課題 事例⑥ 9. 飯田下伊那の地域づくり（まとめ）とフィールドワークガイダンス 10-12. フィールドワーク実施（夏期休業中に実施します） 13. フィールドワークのまとめと発表準備 14. フィールドワークの報告（発表） 15. 総括～飯田下伊那の課題とそのため自分が取り組む課題 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>飯田下伊那地域（その周辺も含む）に関わる情報を事前に収集し受講してください。各回において用紙に記入しながら授業を進め、成果物をすべて綴じていきます（ポートフォリオの作成、事後学習）。夏季休暇を利用して、実際の場所へ行ったり、調査したりしますので、現地まで自分で行けるように事前準備をお願いします。</p> | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>ポートフォリオを随時確認しますので、毎回持参してください。</p> | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 30 | フィールドワークでの取り組み（①②③） | | | | | | |
| | レポート | 40 | 学んだことを総括したレポートの内容（①②③） | | | | | | |
| | その他 | 30 | ポートフォリオへの記入（②③） | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>レポート課題にはコメントを記入し返却します。</p> | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <p>特に指定しない。授業中に資料を配布する。</p> | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>特に指定しない。</p> | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|--|--------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 基礎コミュニケーション N11023 | | | 前期 | 講義 | 2 | | | |
| 担当教員 | 坂上 ちおり | | | | | | | | |
| 授業の概要 | コミュニケーションについての基本的な考え方について学ぶ。 自身のコミュニケーション様式を知り、より良い他者とのコミュニケーションとは何かについて実際の体験を通じて考える。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (知識・理解) コミュニケーションに関する心理学の基本的な理論を理解できる。 (技能・技術) 他者とのコミュニケーションを行うことができる。 (思考・判断) 自身のコミュニケーション様式について考えを深めることができる。 (関心・意欲・態度) 自身のコミュニケーション様式を見直し、他者とのより良いコミュニケーションについて意欲を高めることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | |
| | ○ | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション：人とコミュニケーションをしてみようⅠ（偏愛マップ） 2. 人とコミュニケーションをしてみようⅡ（一文回し書き・句読点音読） 3. コミュニケーションの基本的な考え方：言語・非言語コミュニケーションと感情 講義：コミュニケーションとは何か？ 4. 非言語コミュニケーションを体験するⅠ 非言語のワークいろいろ（パーソナルスペース・共同注視・ボール投げ・握手） 5. 非言語コミュニケーションを体験するⅡ カウンセリング・ロールプレイ 6. 言語コミュニケーションを体験するⅠ 言葉だけで自分の見ている絵を相手に描いてもらうワーク 7. 言語コミュニケーションを体験するⅡ 言葉を使わずにグループのみんなで、ひとつの絵を描いてみよう：共同描画のワーク・伝言ゲーム・はあって言うゲーム 8. 自分を知るⅠ：現在の自分を把握する 心理検査（エゴグラム） 9. 自分を知るⅡ：現在の自分の心の状態を把握する（私マップの作成） 10. 自分を知るⅢ：現在の自分の心の状態を把握する（コラージュ） 11. 自分を知るⅣ：現在の自分の心の状態を把握する（コラージュの振り返り） 12. 他者とのコミュニケーションを体験するⅠ：築城大作戦・グループの合計が10 13. 他者とのコミュニケーションを体験するⅡ：色々な意見を認め合うには？ コンセンサス法を体験しよう 14. 他者とのコミュニケーションを体験するⅢ：リーダーシップとは何か？を考えるレジャーランドゲーム 15. 他者とのコミュニケーションを体験するⅣ：フォロワーシップとは何か？を考えるマネージャーゲーム | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：日常生活において、自身のコミュニケーションスタイルについて考えを深めておくこと 事後学習：講義やワークを通して学んだことを日常生活のコミュニケーションに活かす | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 次回のワークが、何をテーマにしたものであるかについて考えを巡らせておいてください（毎回20分程度） | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | |
| | その他 | 100 | 毎回のリアクションペーパー：・講義の内容の理解度・自分の感じたことや考えの説明力 | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | リアクションペーパーについては、採点次第、授業内で返却をしています。その際、修正すべき点や加筆ポイントをアドバイスしています。提出済みのリアクションペーパーに加筆して、再提出した場合には加点して、返却します。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |
| 参考書 | 藤本忠明・東正訓。(2004). ワークショップ 人間関係の心理学. 京都：ナカニシヤ出版. 藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子・橋本尚子・東正訓。(1993). ワークショップ心理学. 京都：ナカニシヤ出版. 齋藤孝。(2004). コミュニケーション力. 東京：岩波書店. 齋藤孝。(2004). 偏愛マップ. 東京：NTT 出版. | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|-------|------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 文章表現 N11024 | 後期 | 演習 | 2 | |
| 担当教員 | 中野 裕子 | | | | |
| 授業の概要 | レポートを書く時の基本的ルールを始め、社会人として必要な実践的文章の書き方(履歴書、小論文、報告書、メール、手紙、敬語の使い方)を学びます。授業の前半でその日の単元の講義、問題演習等をし、後半では課題に取り組み、提出して頂きます。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践的文章を書くための基本的な知識を身につける。 ・明快な文章で論理的な思考を組み立て、意図が伝わる文章をかくことができる。 ・ある題材について、情報を整理し、意見文が書けるようになる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 自己紹介文を書いてみよう。 2. 必要な情報の入った文章(5W1H) 絵をみて説明文を書いてみよう。 3. 筋の通った文章の書き方(主語・述語の呼応、接続詞の使い方) 例文を分かりやすく直してみよう。 4. 意見文の書き方(1) 中心的な柱となる文の作り方 200字で意見文を書いてみよう。 5. 意見文の書き方(2) 柱を補強する文の作り方 200字で意見文を書いてみよう。 6. 小論文の書き方(1) 事実と意見を分けて書く 例文の事実と意見を分けて二段落で書こう。 7. 小論文の書き方(2) 二段落で小論文を書く 与えられた論題を400字で書こう。 8. 小論文の書き方(3) 二段落の小論文を書く 与えられた論題を400字で書こう。 9. 小論文の書き方(4) 三段落で小論文を書く 事実、意見(賛否)、意見(根拠)の三段落で小論文を書こう。 10. レポートを書く時の3つの法則 事実、意見(賛否)、意見の三段落で小論文を書こう。 11. 履歴書・エントリーシートの書き方 自己PR文を書いてみよう。 12. 手紙・メールの書き方 恩師に手紙を書いてみよう。 13. 敬語の使い方(1) 尊敬語・謙譲語・丁寧語の問題演習 14. 敬語の使い方(2) 決められた題材で小論文(400字~600字)を書こう。 15. 決められた題材で小論文(600字)を書こう。 | | | | |
| 事前・事後学習について | 特に必要ありませんが、教員の指示に従って、提出物は必ず時間内に出してください。またプリント類は保管し、就活、レポートの際に活用して下さい。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各自、必要に応じて学習してください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 100 | 随時、提出する課題で評価します。 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 課題の作業は集中して時間内に提出しましょう。課題はその都度、添削して返却しますが、十五回目の課題は提出後、返却しません。 | | | | |
| 使用テキスト | 適宜、資料配布。 | | | | |
| 参考書 | <p>樺島忠夫『文章表現法―五つの法則による十の方策―』（角川選書 303、1999年3月）</p> <p>藤吉豊・小川真理子『「文章術のベストセラー100冊」のポイントを一冊にまとめてみた』（日経BP、2021年1月）</p> | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|----------------------|--------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 地域防災 N11025 | | | 後期 | 講義 | 2 | | | |
| 担当教員 | 武分 祥子・高木 一代 他 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 飯田短期大学のある地域の特徴や災害リスクを、自治体の危機管理部門や消防本部から実際に学びます。さらに飯田短期大学での備えや災害時の対応を一緒に考えます。 人的資源や地域資源を活用しつつ一般的な事柄から学び、より高次の専門分野に繋いでいくための基盤を形成します。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ①この地域の特性や歴史を踏まえ災害リスクについて理解する ②自治体の役割や消防本部の機能について現地で実際に学ぶことができる ③飯田短期大学の備えや有事の対応について一緒に考え、課題を見出すことができる | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | |
| | ○ | | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | 1. 授業のねらいと計画、地域の概要と特徴 2. 地域での防災：行政の取り組み①（飯田市危機管理部） 3. 地域での防災：行政の取り組み②（飯田市危機管理部） 4. 消防機関の役割（飯田広域消防本部） 5. 初動対応の体験（飯田広域消防本部） 6-7. 救護活動（飯田広域消防本部） 8. 短大での備えと対応～校内での備えを確認しよう 9-10. 食と防災～日常の備えと災害時の工夫 11-12. 災害弱者と防災～私たちにできること 13. 私たちが取り組める防災活動を考える 14. 全体のまとめ 15. 地域防災で私たちができること（レポート） | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 災害はいつ発生するかわかりません。国内外で発生した災害についてできる限り多くの情報を集めておいてください（事前学習）。授業で学んだことを家族や周囲に話し、日頃から地域防災に役立つ活動を実行しましょう（事後学習）。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前事後ともに 30 分から 1 時間とします。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 毎回の取り組み状況（到達目標①②） | | | | | | |
| | レポート | 50 | 最終講義で記入した内容（到達目標①②③） | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 行政や消防署に出かける場合は 4.5 限連続となることがあります。普段なかなか入れない場所や体験ができますので、積極的に取り組み、日常生活や進路に活かしてください。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 指定しない | | | | | | | | |
| 参考書 | 指定しない | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|---|--------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 情報処理 N11026 | 前期 | 演習 | 1 | |
| 担当教員 | 篠田 恵 | | | | |
| 授業の概要 | ICT を活用するための基礎的能力を養うため、アプリケーションの基礎を学び、実務に対応できるスキルを身につける。 また、情報化社会に伴い、ネットワークコミュニケーションの特徴や、セキュリティ対策の必要性についての意識の向上と理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | タッチタイピングを身につける。 修学・研究に最低限必要なスキルおよび、就職後、実務に必要なスキルを習得する。 また、ネットワーク社会で身につけておくべき基本的なセキュリティーやモラルについても理解する。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows 基礎とパソコンの基本、Word の画面構成、タッチタイピング、Teams のクラス登録について 2. 文字入力の方法と文章入力、Teams を活用したアンケート、課題提出、データダウンロードについて 3. セキュリティーと情報モラル、Teams を活用した遠隔授業について 4. Word の基本機能、書式設定、様々な文書の作成と編集、表の利用 5. ビジネス文書について 6. 表現力をアップする機能を使った文書の作成 7. レポートの作成、Excel の画面構成、データ入力 8. Excel の基本操作、セルの書式設定と印刷準備 9. ビジネスで使われる計算式と簡単な関数 10. 実務に対応した関数（統計・数学／三角・論理） 11. グラフの作成と編集（目的別グラフの作成） 12. データベースの利用（検索・並べ替え・抽出）、Word と Excel の連携、実技試験（Word, Excel） 13. PowerPoint の基本操作、スライドの作成、グラフィックを利用したアピール方法とアニメーション効果 14. 実技試験解説、Teams を活用した共同作業 15. タイピングテスト、理解テスト（NESS 利用）、Teams を活用した共同作業（発表） | | | | |
| 事前・事後学習について | タッチタイピングを自分のものにできるよう、毎日少しの時間を取り分けて練習しましょう。 予習が必要な回は、事前に指示しますので実施してください。 毎回復習として課題（必須）を出しますので、早めに取り組み、学んだことを自分のものとしてしっかり身につけましょう。課題提出は Teams を基本とします。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | タイピング練習（毎日 15 分） 指定された回は予習（30 分～1 時間程度 個人差あり） 授業内で配布する課題（宿題）への取り組み（毎回 20 分～1 時間 30 分程度 個人差あり） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 85 | オフィスソフトを利用したデータ分析・文書作成の実技試験（第 12 回目）、タイピングテスト（第 15 回目）、NESS 上でプレゼン・情報セキュリティ分野理解テスト（第 15 回目） | | |
| | 実践 | 10 | 毎回の提出課題到達度 | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 5 | 授業への取り組み | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | どんな職業に就くとしても、パソコンの基本技術は必ず身につけておきたいものです。 この授業では、タッチタイピングといった基本操作から幅広くいくつかのソフトウェアについて学びますが、そのどれもが今後役に立つはずのものです。ぜひ自分のものにしましょう！ 授業で新しく習得した知識・技能は、毎回宿題として出される課題を通してしっかり復習しましょう（課題提出は必須）。 また、実技試験後、14 回目の授業で解説を行いますので、欠席しないようにしてください。 | | | | |
| 使用テキスト | イチからしっかり学ぶ！ Office 基礎と情報モラル Microsoft365・Office バージョンフリー【NESS 付】（noa 出版 2026 年） Teams による遠隔授業の受け方（学校から配布される資料） | | | | |
| 参考書 | 特に指定しない | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------------|---------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 基礎（看護） 123 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 社会貢献活動 N11027 | 1・2年次 通年 | 演習 | 1 | |
| 担当教員 | 矢澤 玲子・三浦 弥生 | | | | |
| 授業の概要 | 本科目では、社会貢献活動（ボランティア活動等）を通し、建学の精神を学びます。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 学外における自主的・実践的な活動を通して、社会に貢献することができる。 2. 自身が活動した中で学んだことを、実践レポートにまとめることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | | ○ | | |
| 授業計画 | <p>単位認定方法</p> <p>本科目の単位認定は、シラバスに基づいて履修を行う科目ではありません。</p> <p>在学期間中に取り組んだ、実働30時間以上行った社会貢献活動（ボランティア活動・地域支援活動・福祉活動・学習支援活動・NPO活動・国際貢献活動他※1）について単位認定を行います。</p> <p>活動後、実践レポート（※2）と必要書類を教務課へ提出し単位認定を行ってください。必要書類の提出をもって履修登録を兼ねることとします。</p> <p>提出書類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位認定申請書 ・30時間以上の活動実践記録 ・社会貢献活動の実践レポート <p>※1 サークル活動で行うボランティアも該当します。</p> <p>※2 実践レポートは、学外における自主的・実践的な活動を通して学んだこと、身につけたこと等を文章としてまとめてください。</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | 活動を行う上で、必要なことを事前に学習してください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 1時間程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 50 | 活動を通して何を学んだか | | |
| | その他 | 50 | 活動実践記録の取り組み状況 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | お世話になったボランティア先の責任者（あるいはそれに相当する方）の証明をいただいた活動実践記録を提出してください。態度やマナーも含めての社会貢献活動であることを自覚して、自分の活動を振り返ってください。 | | | | |
| 使用テキスト | 使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 特に指定しない。 | | | | |

1-2 專門基礎分野

| | | | | | |
|-------------------|---|---------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 人体構造機能学 I N22028 | 1 年次・前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 鈴木 真由美・山下 梓 他 | | | | |
| 授業の概要 | <p>医療専門職として必要な人体において営まれている生命現象の一つである生命を維持する植物機能のうち、以下のまとまりを学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎知識：人体を構成する細胞、はたらきの区分 2. 血液の循環とその調整：人体に必要な酸素の確保 3. 栄養の消化と吸収：栄養素はどのように確保されるのか <p>以上の構造と機能を、模型等活用しながら一体のものとして学んでいきます。疾患の理解の前提となる学習です。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命体の基本である細胞について、細胞小器官がいかにして生命機能を行っているかを理解する。 2. 人体の循環器、消化器の組織と構成・機能について理解する。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学のための基礎知識・形からみた人体 2. 解剖生理学のための基礎知識・人体のさまざまな器官 3. 解剖生理学のための基礎知識・素材からみた人体 4. 血液の循環とその調節・循環器系の構造/心臓の構造 5. 血液の循環とその調節・心臓の拍出機能① 6. 血液の循環とその調節・心臓の拍出機能② 7. 血液の循環とその調節・末梢循環系の構造 8. 血液の循環とその調節・血液の循環の調節① 9. 血液の循環とその調節・血液の循環の調節②/リンパとリンパ管 10. 栄養の消化と吸収・口・咽頭・食道の構造と機能 11. 栄養の消化と吸収・腹部消化管の構造と機能① 12. 栄養の消化と吸収・腹部消化管の構造と機能② 13. 栄養の消化と吸収・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能① 14. 栄養の消化と吸収・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能② 15. まとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>本授業のテキストは、図・解説共に理解しやすい内容となっていますので、事前・事後学習はテキストを基本に進めましょう。テキスト内の表現は専門的であり非日常である言葉が多くありますが、授業内で理解しやすい言葉で説明していきますので、必ず、復習をしましょう。生物学的存在としての人間の正常な機能について理解できることは、後期からの疾患・病態生理学につながります。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 1 コマにつき 1 時間～30 分ほどの事前学習が必要です。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 授業内、事前・事後学習を問わず、不明な点は各担当教員に質問にいらしてください。 | | | | |
| 使用テキスト | <p>坂井建雄、他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 2026 年版 医学書院</p> <p>坂井建雄、他：解剖生理学ワークブック 2026 年版 医学書院</p> | | | | |
| 参考書 | 授業内に提示します | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 人体構造機能学Ⅱ N22029 | 1年次・前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 神澤 絢子 他 | | | | |
| 授業の概要 | <p>医療専門職として必要な人体において営まれている生命現象の一つである生命を維持する植物機能のうち、以下のまとまりを学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液のはたらき 2. 体液の調節と尿の生成：内部環境の恒常性のしくみ 3. 内臓機能の調節：生命を維持するための調節 4. 生殖・発生と老化のしくみ：ヒトという種を保存し衰えるしくみ 5. 身体機能の防御と適応：人体の全体を外界から防御するしくみ <p>以上の構造と機能を、一体のものとして学んでいきます。疾患の理解の前提となる学習です。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の組成と機能について理解する。 2. 体液・内臓機能の調節について理解する。 3. 生命の発生における構造と機能について理解する。 4. 皮膚の構造と機能、生体の防御機能について理解する。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液のはたらき：血液① 2. 血液のはたらき：血液② 3. 体液の調節と尿の生成：腎臓 4. 体液の調節と尿の生成：排泄路 5. 体液の調節と尿の生成：体液の調節 6. 内臓機能の調節：自律神経による調節 7. 内臓機能の調節：内分泌系による調節 8. 内臓機能の調節：全身の内分泌腺と内分泌細胞① 9. 内臓機能の調節：全身の内分泌腺と内分泌細胞② 10. 内臓機能の調節：ホルモン分泌の調節・ホルモンによる調節の実際 11. 身体機能の防御と適応：皮膚の構造と機能・生体の防御機構(自然免疫・獲得免疫) 12. 身体機能の防御と適応：生体の防御機構(生体防御の関連臓器)、体温とその調節 13. 生殖・発生と老化のしくみ：男性生殖器・女性生殖器 14. 生殖・発生と老化のしくみ：受精と胎児の発生・成長と老化 15. まとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>本授業のテキストは、図・解説共に理解しやすい内容となっておりますので、事前・事後学習はテキストを基本に進めましょう。テキスト内の表現は専門的であり非日常的である言葉が多くありますが、授業内で理解しやすい言葉で説明していきますので、必ず、復習をしましょう。生物学的存在としての人間の正常な機能について理解できることは、後期からの疾患・病態生理学につながります。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 1 コマにつき 1 時間～30 分ほどの事前学習が必要です。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 到達目標に沿った授業内容の理解度 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | この授業は複数の教員で展開しています。授業内、事前・事後学習を問わず、不明な点は各担当教員に質問にいらしてください。 | | | | |
| 使用テキスト | 坂井建雄、他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 2026 年版 医学書院 坂井建雄、他：解剖生理学ワークブック 2026 年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 授業内に提示します。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|---------|----------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 人体構造機能学Ⅲ N22030 | 1 年次・前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 矢澤 玲子・杉山 慎太郎 他 | | | | |
| 授業の概要 | <p>医療専門職として必要な人体において営まれている生命現象の一つである生命を維持する植物機能のうち、以下のまとまりを学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器のはたらき 2. 身体の支持と運動 3. 情報の受容と処理 <p>以上の構造と機能を、模型等活用しながら一体のものとして学んでいきます。疾患の理解の前提となる学習です。</p> | | | | |
| 到達目標 | 呼吸器、運動器、脳神経、感覚器等の組織と構成・機能について理解する。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器の構造 2. 呼吸①：内呼吸・外呼吸 3. 呼吸②：ガス交換とガスの運搬 4. 骨格とは：骨の連結・骨格筋 5. 体幹の骨格と筋 上肢の骨格と筋 6. 下肢の骨格と筋 頭頸部の骨格と筋 7. 筋の収縮：骨格筋の収縮機構 8. 筋の収縮：骨格筋収縮の種類と特性 不随意筋の収縮の特性 運動と代謝 9. 神経系の構造と機能 10. 脊髄と脳 11. 脊髄神経と脳神経 12. 脳の統合機能 13. 運動機能と下行伝導路 体性感覚と上行伝導路 眼の構造と視覚 14. 耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚と嗅覚 疼痛 15. まとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | 本授業のテキストは、図・解説共に理解しやすい内容となっていますので、事前・事後学習はテキストを基本に進めましょう。テキスト内の表現は専門的であり非日常である言葉が多くありますが、授業内で理解しやすい言葉で説明していきますので、必ず、復習をしましょう。生物学的存在としての人間の正常な機能について理解できることは、後期からの疾患・病態生理学につながります。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 1 コマにつき 1 時間～30 分ほどの事前学習が必要です。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 授業内容の習熟度 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | この授業は複数の教員で展開しています。授業内、事前・事後学習を問わず、不明な点は各担当教員に質問にいらしてください。 | | | | |
| 使用テキスト | 坂井建雄、他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 2026 年版 医学書院 坂井建雄、他：解剖生理学ワークブック 2026 年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 授業内に提示します | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 臨床生化学 N22031 | 前期 | 演習 | 1 | |
| 担当教員 | 高木 一代 | | | | |
| 授業の概要 | ヒトが食物を摂取した後、食物は消化器官で消化・吸収される。さらに、その栄養成分は循環器を経由して 60 兆個あるといわれる各細胞に到達する。その後細胞内で栄養成分は代謝され、エネルギーや体の構成成分となる。本講義では、その過程を学ぶ。また、生体の恒常性を保つためしくみと代謝異常についても学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 栄養成分が、吸収される過程と細胞に到達し、細胞内で代謝される過程がわかる。 食物摂取により、エネルギーを獲得し、体の構成成分が作られることとの関連性が理解できる。 生体の恒常性の維持と代謝異常症が理解できる。 学んだことを臨床場面に即して考えられるようになる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学を学ぶための基礎知識（細胞の構造と機能） 2. 代謝の基礎と酵素・補酵素 3. 糖質の構造と機能 4. 糖質代謝 5. 脂質の構造と機能 6. 脂質代謝 7. タンパク質の構造と機能 8. タンパク質代謝 9. ポルフィリン代謝と異物代謝 10. 遺伝子と核酸 11. 遺伝子の複製・修復・組換え 12. 転写 13. 翻訳と翻訳後修飾 14. シグナル伝達 15. がん | | | | |
| 事前・事後学習について | 生体でおきている物質変化（代謝）について学びます。化学式やカタカナによる物質名称が多いため、一つ一つの言葉に詰ってしまうかもしれません。それを克服するために、予習・復習をしましょう。テキストを読んで内容を把握してから、授業に臨んでください。そして、忘れないうちに、ノートにまとめて、オリジナルノートを作りましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | テキストを読んで予習してください（毎回およそ 1 時間）。 授業を受けた後、主要なところをノートにまとめてください（毎回およそ 1 時間）。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 定期試験 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないところがあれば、出席カードに記入し提出してください。記入していただければ、次の時間にフィードバックします。さまざまな要因により対面授業が難しいと判断した場合、遠隔授業となる場合があります。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座専門基礎 生化学 人体の構造と機能 2 畠山鎮次 2026 年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | ブルーバックス 大人のための生物学の教科書 株式会社講談社 イラストでまなぶ生化学 前場良太 医学書院 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 MC メディカ出版 生理学・生化学につながる ていねいな化学 羊土社 解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる 生物・化学・物理 羊土社 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|------------------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 栄養学 N22032 | 1年後期 | 演習 | 1 | |
| 担当教員 | 岩瀬 彩香 | | | | |
| 授業の概要 | ヒトが生きるために摂取する食物に含まれる栄養素とその働きを学習する。 さらに、ライフステージごとに必要とされる食生活の留意点とともに、疾病との関連および食事療法について学習する。また、栄養アセスメントについても学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 1) 各栄養素の構造と機能が理解できる。 2) ライフステージごとの栄養アセスメントと食生活の留意点が理解できる。 3) 疾病ごとの食事療法について理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 人間栄養学と看護 2. 栄養素の種類とはたらき：糖質、脂質 3. 栄養素の種類とはたらき：たんぱく質、ビタミン 4. 栄養素の種類とはたらき：ミネラル、食物繊維、水 5. 栄養素の消化と栄養素の吸収（消化器系のはたらき） 6. 栄養素の代謝/食欲の調節/体内のエネルギーバランス 7. 栄養ケア・マネジメント 8. 食事摂取基準/ライフステージと栄養①（乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期） 9. ライフステージと栄養②（成人期・妊娠期・授乳期・更年期・高齢期） 10. 臨床栄養：ニュートリションサポートチーム（NST）の役割、栄養補給法、病院食 11. 臨床栄養：循環器疾患患者/消化器疾患患者の食事療法 12. 臨床栄養：低栄養・栄養不良患者/栄養・代謝疾患患者の食事療法① 13. 臨床栄養：栄養・代謝疾患患者の食事療法②（糖尿病の食品交換表の理解） 14. 臨床栄養：腎臓疾患患者/血液疾患患者/小児疾患患者の栄養管理 15. 臨床栄養：術前・術後の栄養管理/がんの食事療法/食品と食事/まとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：テキストの該当箇所を一読し、授業に臨んでください。 事後学習：授業内容を忘れないうちに復習を行い、理解を深めてください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前にテキストの該当箇所を一読し、授業に臨んでください。（30分程度） また、事後学習として授業の内容の振り返りを行ってください（30分程度） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 80 | 定期試験 | | |
| | 実践 | 20 | 提出物（まとめプリント、授業プリントなど）、取り組み状況 | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 提出物には目を通し、必要があれば授業にて補足します。 疑問はなるべく授業内または授業直後に解消してください。 | | | | |
| 使用テキスト | 「系統看護学講座専門基礎3 栄養学」中村丁次 他 2026年版（医学書院） 「糖尿病食事療法のための食品交換表」（日本糖尿病学会） | | | | |
| 参考書 | 「系統看護学講座 別巻 栄養食事療法」中村丁次 他（医学書院） | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 薬理学 N22033 | 1 年後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 吉澤 忍 | | | | |
| 授業の概要 | 今日の臨床現場で行われている薬物治療と、そこで扱う医薬品を中心に展開した知識と技術を得ることを目標とする。看護のために必要とする臨床薬理学について学習する。 | | | | |
| 到達目標 | 看護師が医療現場で必要とする医薬品に関する知識を身につける。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 薬物治療の基礎 医薬品の取扱い 2. 薬物治療の基礎 薬物治療の実際 3. 対症療法薬の臨床薬理学 解熱鎮痛薬、制吐薬、便秘治療薬、下痢治療薬 4. 対症療法薬の臨床薬理学 鎮咳去痰薬、鎮静薬、睡眠薬 5. 主要疾患の臨床薬理学 高血圧症、急性冠症候群、心不全 6. 主要疾患の臨床薬理学 不整脈、抗血小板・抗凝固療法、 7. 主要疾患の臨床薬理学 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 8. 主要疾患の臨床薬理学 胃・十二指腸潰瘍、胃食道逆流症、慢性肝炎 9. 主要疾患の臨床薬理学 慢性腎臓病、透析患者における薬剤管理 10. 主要疾患の臨床薬理学 糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、関節リウマチ 11. 主要疾患の臨床薬理学 パーキンソン病、認知症、 12. 主要疾患の臨床薬理学 うつ病・うつ状態、てんかん 13. 抗感染症薬 14. 抗がん薬、国家試験問題から 15. 眼科用薬、輸液製剤、輸血製剤、消毒薬 | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習としてテキストを一読すること。 事後学習として授業で配布したハンドアウトを読み返すこと。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30 分から 1 時間程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは必ず質問してください。 授業終了後のオフィスアワーで受け付けています。 | | | | |
| 使用テキスト | 井上智子他：系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 2026 版 | | | | |
| 参考書 | 治療薬マニュアル 2026 医学書院 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 微生物学・感染症学 N22034 | 1年後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 野上 綾子 | | | | |
| 授業の概要 | 感染症に対する対応は、医療現場の重要課題である。そこで、再興・新興感染症に対する今日的課題を含め、現場のニーズに応えるために必要な病原微生物についての基本的事項を理解する。臨床現場を意識しつつ、感染防御の視点を身につけ、臨床で求められている実践的な対策を実行するための知識を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | 医療関連施設における微生物や感染症との関係を学び、患者に安全な医療を提供するための知識・技術の習得を目指す。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 微生物学総論，細菌総論 2. 細菌各論（主な細菌）① 3. 細菌各論（主な細菌）② 4. ウイルス総論 5. ウイルス各論（主なウイルス）① 6. ウイルス各論（主なウイルス）② 7. 真菌，原虫 8. 免疫学① 9. 免疫学② 10. 感染症総論 11. 感染症各論① 12. 感染症各論② 13. 感染症各論③ 14. 感染症各論④ 15. 感染防御 | | | | |
| 事前・事後学習について | 特別な事前学習はありませんが、実際の医療現場では必ず求められる知識です。のちに活用できるようまとめておきましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30分～1時間程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは必ず質問してください。授業終了後のオフィスアワーで受け付けています。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座専門基礎分野 微生物学 2026年版 疾病のなりたちと回復の促進 4 医学書院 系統看護学講座専門分野 アレルギー 膠原病 感染症 2026年版 成人看護学 11 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 特に指定しない | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|-----------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 病理・病態生理学 N22035 | 後学期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 三浦 大志・上條 明生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>病理学の概念、細胞・組織障害と修復、循環傷害、代謝障害、先天性異常、免疫、炎症、腫瘍、老化と死について学修する。</p> <p>疾病の発症機序や病的状態における肉眼的・組織学的形態の変化や治癒機転について学修する。</p> <p>また、悪性腫瘍の疫学、悪性腫瘍の発生と自然史について学修する。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・病理学とはどのようなものであるのかを理解する。 ・疾病の発症機序、病的状態における肉眼的・組織学的形態の変化、循環傷害、炎症、免疫、先天異常、代謝障害、感染症、腫瘍、生活習慣と環境因子による生体の障害を理解する。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学とは [看護と病理、病気の原因、病気の分類と病理学の学び方] 2. 老化と死 [個体の老化と老年症候群、老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化、個体の死と終末期医療] 3. 循環障害 ① [浮腫(水腫)、充血とうっ血、出血と止血、血栓症、塞栓症] 4. 循環障害 ② [虚血と梗塞、側副循環による障害、高血圧症、播種性血管内凝固症候群(DIC)、ショックと臓器不全] 5. 細胞・組織障害と修復 [細胞・組織の損傷とその原因] 6. 炎症 [細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症、炎症の分類と治療] 7. 免疫、移植と再生医療 ① [免疫と免疫不全] 8. 免疫、移植と再生医療 ② [アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療] 9. 先天異常と遺伝性疾患 ① [先天異常] 10. 先天異常と遺伝性疾患 ② [遺伝子の異常と疾患、先天異常と遺伝性疾患の診断と治療] 11. 代謝障害 [脂質代謝障害、タンパク質代謝障害、糖質代謝障害、そのほかの代謝障害] 12. 感染症 [感染の成立と感染症の発病、おもな感染症、感染症の治療・予防] 13. 腫瘍 ① [腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりと影響] 14. 腫瘍 ② [腫瘍発生の病理、腫瘍の診断と治療] 15. 生活習慣と環境因子による生体の障害 [生活習慣による生体の障害、放射線による生体の障害、中毒] | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>この科目は看護師になるうえで患者さんの病態の機序を理解するために非常に大切です。教科書を繰り返し読み、配布された資料も活用し、病理学、病態生理学の知識が自分のものになるようにしましょう。</p> <p>事前学習：教科書を必ず読んでおくこと。</p> <p>事後学習：教科書および配付資料から自分でノートにまとめる。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 60 分程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 各回の授業で学修した内容の理解度を評価する | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>受講前に教科書を読んでから受講しなければ講義時に理解が不十分になる可能性があるため、事前学習をしっかりとおこない受講してください。また、受講後に自分で講義内容をまとめるようにしてください。</p> | | | | |
| 使用テキスト | 大橋健一他 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 2026 年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|-------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 病態・疾病治療論 I N22036 | 後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 片桐 有一 他 | | | | |
| 授業の概要 | 病態生理を明らかにすることは、援助を必要とする人に予測を持った適切な観察とアセスメントを行うための根拠となり、必要な看護援助の実施につながっている。そのため、病態生理の知識を深め看護専門職の視点で対象の身体的状況が理解できるなることを目指す。 | | | | |
| 到達目標 | 循環器、腎・泌尿器、皮膚、眼における代表的な疾患の病態生理、検査、治療・処置、予防・回復についての知識を深め、適切な看護援助及び予防・回復に必要な知識を得る。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 循環器① 症状とその病態生理 2. 循環器② 虚血性心疾患（狭心症） 3. 循環器③ 虚血性心疾患（心筋梗塞） 4. 循環器④ 心不全① 5. 循環器⑤ 心不全② 6. 循環器⑥ 不整脈 7. 循環器⑦ 弁膜症/心膜炎/心筋疾患/肺性心 8. 循環器⑧ 血圧異常/動脈系疾患/静脈系疾患/リンパ系疾患 9. 腎・泌尿器① 症状とその病態生理/腎不全と AKI・CKD① 10. 腎・泌尿器② 腎不全と AKI・CKD② 11. 腎・泌尿器③ ネフローゼ症候群/糸球体腎炎/全身性疾患による腎障害/尿細管間質性腎炎/腎血管性病変/尿細管機能異常/妊娠高血圧症候群 12. 腎・泌尿器④ 尿路・性器の感染症/尿路の通過障害と機能障害/尿路損傷および異物、尿路結石症/尿路・性器の腫瘍/発生・発育の異常/男性不妊症、男性性機能障害、その他男性生殖器疾患 13. 皮膚① 症状とその病態生理/疾患の理解① 14. 皮膚② 疾患の理解② 15. 眼 症状とその病態生理/疾患の理解 | | | | |
| 事前・事後学習について | 教科書を一通り目を通しておいください | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30 分から 1 時間 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | マルチプルチョイス試験 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは必ず質問してください。 | | | | |
| 使用テキスト | 吉田俊子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3 循環器 2026 年版 医学書院 今井亜矢子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 2026 年版 医学書院 渡辺晋一他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 12 皮膚 2026 年版 医学書院 大鹿哲郎他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 13 眼 2026 年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 特に指定はありません | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------|--------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 看護学科 2 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 病態・疾病治療論Ⅱ N22037 | | | 前期 | 講義 | 1 | | | |
| 担当教員 | 橘 涼太・平井 義一・細田 江美 他 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 病態生理を明らかにすることは、援助を必要とする人に予測をもった適切な観察とアセスメントを行うための根拠となり、必要な看護援助の実施に繋がっている。そのため、病態生理の知識を深め看護専門職の視点で対象の身体的状況が理解できるようになることを目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 呼吸器、女性生殖器、運動器の各領域の代表的な疾患の病態生理、検査、治療・処置、予防・回復についての知識を深め、適切な看護援助及び予防・回復に必要な専門知識を得る。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | | | | | |
| | ○ | ○ | | | | | | | |
| 授業計画 | 1. 運動器① 症状とその病態生理 2. 運動器② 外傷性（外因性）の運動器疾患 3. 運動器③ 内因性（非外傷性）の運動器疾患① 4. 運動器④ 内因性（非外傷性）の運動器疾患② 5. 運動器⑤ 内因性（非外傷性）の運動器疾患③ 6. 呼吸器① 症状とその病態生理 7. 呼吸器② 感染症 8. 呼吸器③ 間質性肺疾患 9. 呼吸器④ 気道疾患 10. 呼吸器⑤ 肺循環疾患、呼吸不全、呼吸調節に関する疾患 11. 呼吸器⑥ 肺腫瘍 12. 呼吸器⑦ 肺・肺血管の形成異常/胸膜・縦隔・横隔膜の疾患/肺移植/胸部外傷(乳房含む) 13. 女性生殖器① 症状とその病態生理/臓器別疾患（外陰・膣・卵巣・卵管）/機能的疾患 14. 女性生殖器② 臓器別疾患（子宮）/感染症 15. 女性生殖器③ 妊娠・分娩・産褥の異常 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前に教科書の該当部分を一通り確認しておいてください。 講義資料を中心に復習してください。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30分から1時間 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 100 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは遠慮せず講義中、講義後に適宜質問してください。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 朝倉啓介他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸器 2025年版 医学書院 末岡浩他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器第 2025年版 医学書院 田中栄他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 2025年版 医学書院 | | | | | | | | |
| 参考書 | 特に指定はありません。 | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 病態・疾病治療論Ⅲ N22038 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 小林 睦博・吾川 弘之 他 | | | | |
| 授業の概要 | 病態生理を明らかにすることは、援助を必要とする人に予測をもった適切な観察とアセスメントを行うための根拠となり、必要な看護援助の実施に繋がっている。そのため、病態生理の知識を深め看護専門職の視点で対象の身体的状況が理解できるようになることを目指す。 | | | | |
| 到達目標 | 消化器、内分泌・代謝、耳鼻咽喉頭、歯・口腔の各領域の代表的な疾患の病態生理、検査、治療・処置、予防・回復についての知識を深め、適切な看護援助及び予防・回復に必要な専門知識を得る。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 消化器① 症状とその病態生理① 2. 消化器② 症状とその病態生理② 3. 消化器③ 食道の疾患/胃・十二指腸疾患 4. 消化器④ 腸および腹膜疾患① 5. 消化器⑤ 腸および腹膜疾患② 6. 消化器⑥ 肝臓・胆嚢の疾患① 7. 消化器⑦ 肝臓・胆嚢の疾患② 8. 消化器⑧ 膵臓の疾患/急性腹症/腹部外傷 9. 内分泌・代謝① 症状とその病態生理 10. 内分泌・代謝② 内分泌疾患① 11. 内分泌・代謝③ 内分泌疾患② 12. 内分泌・代謝④ 代謝性疾患 13. 耳鼻咽喉頭① 症状とその病態生理/疾患の理解① 14. 耳鼻咽喉頭② 疾患の理解② 15. 歯・口腔 症状とその病態生理/疾患の理解 | | | | |
| 事前・事後学習について | 教科書を一通り目を通しておいて下さい。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30分から1時間 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 筆記試験 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 分からないことは必ず質問して下さい。 | | | | |
| 使用テキスト | 井波早苗他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 2025年版 医学書院 南川雅子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 2025年版 医学書院 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 14 耳鼻咽喉 2025年版 医学書院 渋谷絹子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 15 歯・口腔 2025年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 特に指定はありません。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 病態・疾病治療論Ⅳ N22039 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 白旗 久美子・瀬口 達也・杉山 慎太郎 | | | | |
| 授業の概要 | 病態生理を明らかにすることは、援助を必要とする人に予測をもった適切な観察とアセスメントを行うための根拠となり、必要な看護援助の実施に繋がっている。そのため、病態生理の知識を深め看護専門職の視点で対象の身体的状況が理解できるようになることを目指す。 | | | | |
| 到達目標 | 血液・造血器、脳・神経の各領域の代表的疾患および膠原病の病態生理、検査、治療・処置、予防・回復についての知識を深め、適切な看護援助及び予防・回復に必要な専門知識を得る。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 血液・造血器① 症状とその病態生理 2. 血液・造血器② 赤血球系の異常/白血球系の異常/出血性疾患 3. 血液・造血器③ 造血器腫瘍① 4. 血液・造血器④ 造血器腫瘍② 5. 膠原病① 症状とその病態生理/疾患の理解① 6. 膠原病② 疾患の理解② 7. 脳・神経① 症状とその病態生理① 8. 脳・神経② 症状とその病態生理② 9. 脳・神経③ 脳疾患① 10. 脳・神経④ 脳疾患② 11. 脳・神経⑤ 脳疾患③ 12. 脳・神経⑥ 脊髄疾患/末梢神経疾患 13. 脳・神経⑦ 筋疾患・神経筋接合部疾患/内科疾患の伴う神経疾患 14. 脳・神経⑧ 脱髄・変性疾患/認知症 15. 脳・神経⑨ 脳神経系の感染症/中毒/てんかん | | | | |
| 事前・事後学習について | 教科書を一通り目を通しておいてください | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30分から1時間 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 筆記試験 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは必ず質問してください | | | | |
| 使用テキスト | 飯野京子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4 血液・造血器 16版 医学書院 岩田 健太郎他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症 2025年版 医学書院 井出隆文他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学7 脳・神経 2025年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 特に指定はありません | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 放射線医学 N22040 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 武井 一喜 | | | | |
| 授業の概要 | 放射線医学について基礎知識から臨床において必要な事項を学習する | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 放射線医学について説明することができる。 放射線検査・治療の概要について説明することができる。 放射線検査・治療に必要な看護について説明することができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <p>放射線医学は画像診断・核医学・放射線治療の3分野よりなる。</p> <p>画像診断と核医学部門では近年、X線CT、MRI、超音波診断、PETなど機器の進歩は目覚ましく、加えてIVR (interventional radiology・画像診断的介入治療)すなわち、血管造影などの診断的的手法から治療を行う方法も臨床で定着している。</p> <p>また、放射線治療もがん治療のなかで「切らずに治す治療」としてその立場を確立している。</p> <p>日進月歩の放射線診療において必要とされる看護も専門性を高めており、検査や治療の目的、内容、手順を正確に理解することが必要である。</p> <p>更に、唯一の被爆国日本は福島原発事故により、国民の放射線被ばくに対する関心が非常に高まっている。医療職として必要な放射線被ばく、防護に関する基礎知識も正しい理解を深めたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 放射線医学のなりたち X線診断の基礎 CT MRIと超音波検査 核医学検査、血管造影、IVR 放射線治療総論 放射線治療各論 放射線防護と健康管理／まとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | 教科書をよく読んでください。予習復習が大事です。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30分～1時間を要する。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 試験 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>わからないことは必ず質問してください。</p> <p>授業終了後のオフィスアワーで受け付けています。</p> | | | | |
| 使用テキスト | 尾尻博也他 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 2025年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 麻酔科学 N22041 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 山田 武志 | | | | |
| 授業の概要 | 現代医療において麻酔の役割は手術時に意識と痛みを取り除くだけでなく、患者が安全に手術を受けられるように術前から術後までの、いわゆる周術期の全身管理をすることとなっている。本講義では手術が安全に行われるために必要な麻酔法に関する実践的な知識、緩和医療等における痛みの緩和についての知識、また痛みそのものについての知識の取得と、それらに対する看護師としてのものの見方や考え方を学ぶことを主な目標とする。 | | | | |
| 到達目標 | 麻酔に関する知識および麻酔に関連する知識を身に付ける 緩和医療における痛みの緩和に関連する知識を身に付ける 「痛み」についての知識を身につける | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 麻酔総論、麻酔前準備 (1) 麻酔総論 (2) 病態の評価と手術危険度 (3) 手術前の検査 (4) 術前の注意点 など 2. 全身麻酔 I (1) 分類 (2) 使用される麻酔薬 (鎮静薬)、鎮痛薬・筋弛緩薬 など 3. 全身麻酔 II (1) 気管内挿管の実際 (2) 全身麻酔中・麻酔後の合併症と処置 (3) 実際の麻酔管理 など 4. 局所麻酔 (1) 浸潤麻酔 (2) 表面麻酔 (3) 脊髄くも膜下 (腰椎) 麻酔 (4) 硬膜外麻酔 (5) 伝達麻酔などの要点 5. 人工呼吸、輸液・輸血、モニタリングについて (1) 人工呼吸とは (2) 輸液と輸血の必要性と危険性 (3) モニタリングと安全性 6. 特殊な麻酔管理：低血圧麻酔、低体温麻酔、小児・高齢者の麻酔ほか 7. 痛みについて、ペインクリニック 8. 緩和ケアについて | | | | |
| 事前・事後学習について | 国家試験では、ある程度の数の麻酔関連の問題が出題されています。なかなか事前学習はやり辛い分野ですが、少しでも分かりやすく授業を行っていきたいと思っていますので、可能であれば参考書を読んだ上で積極的に授業に参加してください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30分程度を要する。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 80 | 試験結果を中心として評価 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 20 | 授業態度も加味して評価 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは何でも質問してください。 授業終了後のオフィスアワーで受け付けています。 | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | | |
| 参考書 | やさしくわかる！麻酔科研修 讃岐美智義著 学研プラス | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 臨床検査 N22042 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 實原 正明 | | | | |
| 授業の概要 | 病院で行う検査の種類や方法、検査データと疾病の関係など、臨床検査の基礎知識を学び、理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | 臨床検査全般を理解、更に正確な臨床検査を実施するうえでの注意点（検体の取り扱い、検査結果に及ぼす影響）を学び、看護師として実際に役立つ知識を得る。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査とは（臨床検査の意義、仕組み、臨床検査における看護師の役割） 2. 生理検査 1（循環器生理、特に心電図検査について学ぶ） 3. 一般検査（尿検査を中心に腎臓の働きを知る） 4. 血液検査（血液の生成、循環を知り、その組成と疾患による変化を学ぶ） 5. 臨床化学検査 1（糖尿病検査、脂質検査、について学ぶ） 6. 臨床化学検査 2（肝機能検査、腎機能検査、について学ぶ） 7. 免疫血清（免疫抗体の仕組み、腫瘍マーカー、について学ぶ） 8. 内分泌検査、輸血検査（内分泌検査、輸血検査について学ぶ） 9. 病理検査（病理組織検査の流れとその役割について学ぶ） 10. 生理検査 2 その他（呼吸器生理、神経生理について学ぶ） | | | | |
| 事前・事後学習について | 資料を振り返りましょう | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30分～1時間を要する。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは必ず質問してください。 授業終了後のオフィスアワーで受け付けています。 | | | | |
| 使用テキスト | 奈良信雄他：系統看護学講座 別巻 臨床検査 2025年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | リハビリテーション概論 N22043 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 林 忠輝 | | | | |
| 授業の概要 | 教科書の内容に従い、リハビリテーションの理念と基本原則、各疾患別のリハビリテーションについて学習する。障害者に対する、医学的リハビリテーションを中心に理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | リハビリテーションの理念と基本原則を理解する。そのうえで、様々な障害の種類とその生活に及ぼす影響を理解する。また、リハビリテーションの展開過程について理解する。そのうえで、日常生活の自立援助及び社会生活能力の維持拡大への援助について理解する。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> リハビリテーションの概念および基本原則 リハビリテーションの概念を学び、医学的リハビリテーションについて理解する。 疾患別リハビリテーション（大腿骨頸部骨折他整形外科疾患） 大腿骨頸部骨折術後患者等の特徴と、リハビリテーションについて理解する。 疾患別リハビリテーション（脳血管障害、神経系疾患） 脳卒中患者及び神経系疾患の障害の特徴と、リハビリテーションについて理解する 疾患別リハビリテーション（脳血管障害による高次脳機能障害、失語症等を含めた言語障害） 失語症と言語障害に関するリハビリテーションについて理解する →当講義のみ講師は言語聴覚士が行います 疾患別リハビリテーション（呼吸障害） 慢性呼吸不全患者の障害の特徴と、リハビリテーションについて理解する。 疾患別リハビリテーション（切断、心筋梗塞、がん、認知症） 切断、心筋梗塞、がん、認知症患者の病気とリハビリテーションについて理解する。 リハビリテーションを取り巻く制度や環境、及び1～6回までのまとめを行う。 1～6回までの講義内容の理解の確認。 及び上記を踏まえて、リハビリテーションに関連する制度、連携について理解する。 （実技）介助法、関節運動 ベッド上動作、移乗、歩行等の介助方法を理解、及び体験する。 関節の運動の名称を理解し、各関節の可動域訓練の方法を体験する。 | | | | |
| 事前・事後学習について | 街中で買い物をしたりする際に、周囲に障害者がいないかよく見てください。どんな特徴があるのかを把握し、授業の内容と比較してみてください。学習後は、授業の内容を元に、その人の動作を真似して、動くことにどんな苦労があるのか、どうすると楽に動けるのかを考えてみてください。楽に動けることで、生活が広がることに気づくと思います。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業中に配布する資料に関連する部分を、教科書にて確認をお願いします。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは必ず質問してください。 | | | | |
| 使用テキスト | 原三紀子他：系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 2025年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 公衆衛生学 N22044 | 後期 | 講義 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | 松岡 裕之 | | | | |
| 授業の概要 | 公衆衛生の基本的知識や概念、健康にかかわる課題を理解し、最新データと現在の社会保障制度や医療制度について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の意義・役割について理解する。 2. 環境と健康について理解する。 3. 集団の健康を捉えるための手法としての疫学・統計学を理解する。 4. 社会保障制度および医療制度について理解する。 5. 公衆衛生看護活動を理解し、公衆衛生における看護職者の役割を考える。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生を学ぶにあたって 2. 公衆衛生のエッセンス 3. 公衆衛生の活動対象 4. 公衆衛生のしくみ 5. 集団の健康を捉えるための手法 疫学・保健統計 6. 環境と健康 7. 感染症とその予防対策 8. 国際保健 9. 地域における公衆衛生 (1) 母子保健 10. 地域における公衆衛生 (2) 成人保健 11. 地域における公衆衛生 (3) 高齢者保健 12. 地域における公衆衛生 (4) 歯科保健 障害者保健 13. 学校保健 14. 産業保健 15. 健康危機管理・災害保健 | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習:各章の冒頭にある「本章の目標」を読んでおきましょう。</p> <p>事後学習:各章の最後にある「復習と課題」を自己学習しましょう。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>事前学習: 毎回 15 分程度</p> <p>事後学習: 毎回 30 分程度</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 講義内容の理解 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 公衆衛生学に登場するキーワードをよく理解してください。気になる単語があったら、スマートフォンの検索機能を利用して、その都度確認するようにしましょう。 | | | | |
| 使用テキスト | <p>神馬征峰ら：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生, 2025 年版 医学書院</p> <p>国民衛生の動向 (2024/2025), 厚生統計協会</p> | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 社会福祉学 N22045 | 後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 武分 祥子 | | | | |
| 授業の概要 | 看護師に必要な社会保障と社会福祉の基本的な理念と制度の内容について理解するとともに、その歴史と果たしてきた役割について学習することで、個人や家族の抱える問題について考えます。また、現在どのようなことが課題になっているのか、国の方針と対策について一緒に考えていきます。その上で、将来看護師として必要な社会福祉の識見を身につけます。 | | | | |
| 到達目標 | ①患者及び家族が抱える生活問題について幅広く理解する。 ②人々が自立した生活ができるような社会保障と社会福祉の基本的な理念と制度の内容について理解する。 ③保健・医療・福祉の専門職が連携して行う支援に看護師がどうかかわるか考える。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 看護師を目指す人が社会福祉を学ぶ意義、全体の説明 2. 社会保障制度と社会福祉① 3. 社会保障制度と社会福祉② 4. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向① 5. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向② 6. 医療保障 7. 介護保障 8. 所得保障 9. 公的扶助 10. 社会福祉の分野とサービス① 11. 社会福祉の分野とサービス② 12. 社会福祉の分野とサービス③ 13. 社会福祉実践と医療・看護① 14. 社会福祉実践と医療・看護② 15. 社会福祉の歴史、総括、今後の課題 | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：各自、次回実施する授業の該当ページを読んできてください。 事後学習：授業資料に沿って再度、テキストを読んで内容の確認をしましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 1 時間から 2 時間程度を要する。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 60 | 基本的な事項に対する理解度（到達目標①②③） | | |
| | 実践 | 30 | ワークシートの記入（到達目標②③） | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | 参加状況（発言、取り組み状況など） | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題は確認・添削し返却します。返却時には個々にコメントを記します。 | | | | |
| 使用テキスト | 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉、2026 年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 排除と包摂の福祉社会―障害児者の発達保障に向けて、クリエイツかもがわ、2025 年 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|-------|--------------------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 臨床心理学 N22046 | 2年後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 黒岩 長造 | | | | |
| 授業の概要 | 本講義では、臨床心理学における基本理論を学ぶ。また、臨床事例を臨床心理学的に考察することで、看護師と患者との関係のみならず、職場における人間関係や、看護師自身のメンタルヘルスについても理解を深めていくことを目的とする。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 臨床場面における人の行動や心理的機制を学び、理解する。 臨床心理学的視点で他者のこころの状態を理解できるようになる。 自らの看護実践を多面的かつ客観的視点で振り返り、次の実践につなげることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚・知覚・記憶の心理 2. 感情・動機の心理 3. 性格・知能・発達の心理 4. 社会・集団の心理 5. 健康の心理と人間関係 6. 心理アセスメントと面接 7. カウンセリングと心理療法 8. 行動する人間の理解 | | | | |
| 事前・事後学習について | 日常の人と人とのコミュニケーションにおいて、自分が課題だと感じていることをリストアップしてください。また学んだ理論を日常の対人場面において援用し、その内容を実践的に理解してください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業に集中できるように事前に毎回1時間程度教科書を読んで理解しておいてください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 100 | 対人・患者理解における臨床心理学的はじめとする各理論の習熟度 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却します。 | | | | |
| 使用テキスト | 看護学生のための心理学 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 授業で紹介します。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 関係法規 N22047 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 鳶田 盛光 | | | | |
| 授業の概要 | <p>看護職が質の高い看護を提供するには、社会人として充実した豊かな人生を送り、専門職業人として任務を十分に果たさなければならない。そのためには、我が国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれに規定する諸法令を理解しなければならない。</p> <p>以上を踏まえて、保健師助産師看護師法をはじめ、医事法、保健衛生法、薬務法、社会保険法、福祉法、労働法と社会基盤整備などの関係法令の知識を身に付け、その内容が看護との関係について日常生活と関連づけて学ぶ。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の保健医療福祉に関する諸制度と概要について理解できる。 2. 諸制度に規定する諸法令が理解できる。 3. 関係法令を知識としてだけでなく、看護との関係や日常生活との関連から理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、法の概念、看護関係法令 2. 医事法 3. 保健衛生法 4. 薬務法：特別講師（飯田保健福祉事務所 食品・生活衛生課・薬剤師） 5. 社会保険法：特別講師（飯田女子高等学校・社会保険労務士・事務長） 6. 福祉法 7. 労働法と社会基盤整備：特別講師（飯田女子高等学校・社会保険労務士・事務長） 8. 看護法、全体のまとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：授業範囲に該当する使用テキストのページを予習して講義に臨みましょう。</p> <p>事後学習：毎回授業で配付するレジュメ資料の復習を行いましょう。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 学習時間：使用テキストの通読は、60分程度行ってください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 50 | 到達目標に沿った理解度の確認を行う。 | | |
| | 実践 | 40 | 振り返りシートは毎回授業で記入して提出する。 | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | 授業の参加状況 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>受講する皆さんの考えや知りたいことを中心に講義を進めていきたいと考えています。積極的にディスカッションしながら一緒に授業を創り上げて行きましょう。</p> <p>各回の内容は、講師ごとに振り返り、自分なりにまとめておいてください。</p> | | | | |
| 使用テキスト | ・森山幹夫：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令、第 57 版【電子版】、医学書院、2025. | | | | |
| 参考書 | ・田中幸子・野村陽子：看護テキスト NICE 看護関係法規 看護職の責任と法的根拠を学ぶ、改訂第 3 版、南江堂、2025. | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|----------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 保健医療福祉論 N22048 | 後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 武分 祥子 | | | | |
| 授業の概要 | 地域包括ケアシステムの充実を目指す中で、保健・医療・福祉にかかわる専門職の連携は不可欠です。患者・利用者や家族のケアにおいて看護師が協働することになる専門職の考え方や実践を理解します。その上で、よりよく協働していくために必要な保健医療福祉の知識と多職種連携のあり方を実践的に学びます。 | | | | |
| 到達目標 | ①現在の保健・医療・福祉にかかわるさまざまな専門職について理解する ②実際の場面において、多職種連携がどのようになされているのか理解する ③患者・利用者中心とした連携のために必要な看護師としての知識を身につける | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 1. 講義の全体像、各講義の位置づけ 2. 急性期病棟における連携 3. 手術室における連携 4. リハビリテーションをめぐる連携 5. 慢性期、リハビリテーション・回復期病棟における連携 6. 救護活動や災害訓練における連携 7. 子どもにかかわる連携 8-9. 生活・介護の場における連携 10-11. 療養生活と退院をめぐる連携 12. 多職種連携とは（まとめ①個人ワーク） 13. 多職種連携とは（まとめ②グループワーク、発表） 14. チームマネジメントの基礎知識・技術 15. 総括～看護師にとって連携において必要なこと | | | | |
| 事前・事後学習について | 1年次の学外実習においてどんな専門職に出会ってきましたか？看護師が働く現場で協働する専門職について様々なテキストから情報を得ておきましょう（事前学習）。その上で実践を学びましょう。実践を学んだらポイントを自分でまとめておきましょう（事後学習）。学んだことは毎回ファイルに綴りまとめていきます（ポートフォリオ）。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 1時間程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 50 | ポートフォリオの内容の深まり | | |
| | レポート | 40 | 授業内容の理解 | | |
| | その他 | 10 | 授業への取り組み | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 各回の内容を必ず確認し、それに関連する専門職について事前に調べておいて授業に臨んでください。授業後は各回ごとに振り返りをしてください。 | | | | |
| 使用テキスト | 特に指定しない。 | | | | |
| 参考書 | 篠田道子、多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル、医学書院。 | | | | |

1-3 專門分野

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 看護学概論 N32049 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 矢澤玲子・鈴木 真由美・代田 とみ子 | | | | |
| 授業の概要 | 「看護とは何か」という問いについて、看護の理念、看護の対象となる人間とその健康、看護専門職の役割、看護に対する社会的要請などの多角的な観点からとらえ、看護学全般に対する学問的基盤を形成する。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史的背景を踏まえ、看護の概念、看護の対象、看護の役割と機能について理解することができる。 2. 看護を取り巻く社会状況と保健・医療・福祉の動向を展望し、看護専門職として求められる課題について整理することができる。 3. 看護活動領域の広がりを知り、災害看護・国際看護の分野においてで看護専門職として必要な活動について考えることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を学ぶにあたって／看護のイメージ 2. 看護とは：看護の定義 3. 看護の役割と機能 4. 看護の対象の理解 5. 健康とは何か 6. 看護における倫理 7. 看護活動の場とヘルスケアチームとしての看護職の役割 8. 看護理論 9. 看護の歴史的変遷／看護職の養成制度 10. 看護サービスの提供 11. 看護をめぐる制度と政策・法律 12. 基礎看護学実習 IA を振り返り“看護とはなにか”考える 13. 看護管理／医療事故 14. 広がる看護の活動領域①：看護の国際化 15. 広がる看護の活動領域②：災害看護 | | | | |
| 事前・事後学習について | 【事前・事後学習】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を理解しやすくするために、各授業の前に使用テキスト 1 の該当部分を各授業前に読んでおいてください。 2. 授業後、配付された資料やノートを参照しながら関連書籍を読み、内容の理解を深めてください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | テキスト 1（事前に授業資料が配付された場合はそれを含む）は毎回 1 時間程度読み、理解した上で授業に臨むこと。課題レポートを書くための文献は時間を充分とって読む。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 70 | 筆記試験 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 30 | 課題レポート | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | まず、自ら「看護」とは何かについて問い、さらにそれを自分自身の生活体験と関連づけながら、科学的な根拠をもって考えることが大切です。課題レポートは添削、返却します。 | | | | |
| 使用テキスト | <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論, 2026 年版 医学書院 2. V. ヘンダーソン著, 湯槇ます他訳：看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 3. F. ナイチンゲール, 湯槇ます他訳：看護覚え書, 現代社 4. 手島恵監修：看護者の基本的責務 定義・概念／基本法／倫理, 日本看護協会出版会 | | | | |
| 参考書 | 講義の中で適宜紹介 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|----------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 看護倫理 N32050 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 塩澤 綾乃・服部 さゆり | | | | |
| 授業の概要 | 看護師としての倫理を身につけるために必要な知識と基本的な姿勢を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 看護倫理を学ぶ意義を理解することができる。 2. 看護師としての倫理観を身につけるための基本的な考え方を理解することができる。 3. 想定されたケースにおいて看護者にふさわしい倫理的判断を行うことができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 看護倫理を学ぶ意義 2. 看護倫理の基本的な考え方 3. 看護専門職の倫理 倫理綱領 4. 倫理的課題へのアプローチ 5. ケース 1 検討：GW 6. ケース 2 検討：GW 7. ケース 3 検討：GW 8. ケース 4 検討：GW | | | | |
| 事前・事後学習について | テキストや事前に配布された資料は読んで、内容を確認してきてください。また、5回目以降はグループワークを行いますので、自分の考えを表すことができるように準備してきてください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 第5回以降、事前配付の事例を熟読し、自分の考えをまとめることを1時間程度行ってください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 40 | 知識 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 60 | ケース検討の学び | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 課題については、授業の中で確認したりコメントを返したりしていきます。グループワークでは倫理的判断について積極的な話し合いを望みます。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 別巻 看護倫理 第3版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介、提示する | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | コミュニケーション論 N32051 | 1年次・前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 下島 浩・鈴木 真由美・田中 敦子 | | | | |
| 授業の概要 | 看護の実践には、対象を理解し必要な援助を行うことが求められます。そのため対象との関係構築は必須となります。この授業では、単にコミュニケーションのスキルを学ぶのではなく、対人関係のあり方、関係性をみる視点など、患者－看護師関係を学んでいきます。ただ、対象に応じた関係構築は看護に限ったことではありません。みなさん、日常生活の中で対人関係を磨いていくことにも心がけてください。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 対人関係の中で起きていることを、コミュニケーションの要因・プロセスを通して考えていくことができる。 2. 援助的対人関係において「他者を理解する」「自分を理解する」ことの意義が説明できる。 3. 看護師に求められるコミュニケーションのあり方・スキルを理解し、実践の場で活かそうとすることができる。 4. 臨地実習でのコミュニケーション体験での自己を振り返り、自己の課題を明確にできる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 1. 【講義・演習】 コミュニケーションを考えてみよう 対人関係の中で起きていること（コミュニケーションの要因とプロセス） 自分の価値観を外在化してみよう 2. 【講義・演習】 対人関係を深める①：自己を理解するということ コミュニケーションの技法①：感情表出とアサーティブネス 3. 【講義・演習】 対人関係を深める②：患者－看護師関係に求められること 「対人関係の理論と活用」「ケアリングの理論と活用」 4. 【講義・演習】 対人関係を深める③：他者を理解するということ コミュニケーションの技法②：積極的傾聴、質問技法 5. 【講義・演習】 対人関係を深める④：コミュニケーション障害のある人の特徴と看護 ミスコミュニケーション場面から、コミュニケーションの特徴を考える 6. 【講義・演習】 対人関係を深める⑤：家族、医療（看護）チームの中で必要なコミュニケーション 7. 【講義・演習】 対人関係を深める⑥：対人関係の中で自己を振り返る コミュニケーションの技法③：看護のためのリフレクション コミュニケーションの技法④：プロセスレコードの活用 8. 【講義・演習】 受持ち患者とのコミュニケーション① 場面 B「患者から必要な情報収集をおこなう」 9. 【講義・演習】 基礎看護学実習 I A オリエンテーション「実践の場で学ぶこと」 10. 【講義・演習】 受持ち患者とのコミュニケーション② 場面 A「患者に実習に関する説明を行い受持ちの同意を得る」 11. 【講義・演習】 基礎看護学実習 I A（基礎 I A）での患者とのコミュニケーションを通しての学び① 12. 【演習】 基礎 I A での患者とのコミュニケーションを通しての学び② 13. 【演習】 基礎 I A での患者とのコミュニケーションを通しての学び③ 14. 【演習】 基礎 I A での患者とのコミュニケーションを通しての学び④ グループ発表 15. 【演習】 基礎 I A での患者とのコミュニケーションを通しての学び⑤ 自己課題の明確化 | | | | |
| 事前・事後学習について | 科目到達目標を意識してください。授業では、映像教材や演習やを取り入れていきます。関係の場から起きていることをイメージし、考えながら必要な知識・技術を学んでいってください。相手の話を聴く、援助者の考えを伝える、をキーワードにして、看護師が看護の対象の心情を推し量り、健康促進を図るため、意図的に援助的対人関係を構築・活用することについて学んでいきましょう。基礎看護学実習 I は、学んだ内容活かしながら受持ち患者に看護実践する貴重な機会となります。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業のレジュメは事前配布とします。授業前には必ずレジュメを確認し、必要な事前学習を済ませて授業に臨んでください。（1コマにつき1時間以上の事前学習が必要です） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 60 | 到達目標に沿った理解度の確認 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 30 | 演習の事前・事後課題の提出と内容 | | |
| | その他 | 10 | 授業に臨む姿勢と態度 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 学生同士、学生－教員関係、授業の中で起こること、そのものがコミュニケーション体験となります。各自が授業の場での、「聴く」、「伝える」が促進されるよう、「安心できる場づくり」を意識してください。レポート課題（個人・グループ）については、原則として添削を行い返却します。課題に対する全体の傾向などは掲示などにて紹介します。疑問・質問には随時対応します。 | | | | |
| 使用テキスト | 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 基礎看護学 2 医学書院、2026 | | | | |
| 参考書 | M・メイヤロフ/田村真訳：ケアの本質 ゆみる出版 A・ウィーデンバック/池田明子訳：コミュニケーション 日本看護協会出版会 宮本眞巳：看護場面の再構成・改訂版 日本看護協会出版会 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|---------|-----------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 基礎看護技術論 I N32052 | 1 年次・前期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 田中 敦子・下島 浩・鈴木 真由美 | | | | |
| 授業の概要 | 看護を必要とする人々の生活理解に基づき、基本的な欲求をアセスメントし、必要な看護ケアを学ぶ。医師の中心的な役割である検査や治療行為の介助を看護者が補助する。したがって、共通基礎技術である「感染予防」「滅菌と消毒」に関する基礎的知識および看護技術を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 人間の基本的欲求である活動・休息の意義と目的を理解し、療養生活を支援する技術を習得する。 2. 感染防止の意義と目的を理解し、感染予防策の基本と看護師に必要な感染予防技術を習得する。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 【講義・演習】活動と休息を整える技術①：活動・休息の意義とメカニズム 車いすの扱い方 2. 【講義・演習】活動と休息を整える技術②：活動・休息のアセスメント、活動のための援助方法 3. 【演習】活動と休息を整える技術③：車いす、ストレッチャーへの移乗・移送 4. 【演習】活動と休息を整える技術④：同上 5. 【講義・演習】感染防止の技術①：感染予防の基礎知識、清潔と汚染の概念、標準予防策、看護師の役割と責務 6. 【講義・演習】感染防止の技術②：感染経路への対策 (手洗い、個人防護用具、隔離法及び感染源の拡散防止) 7. 【講義・演習】感染防止の技術③：感染源への対策(洗浄・滅菌・消毒) 8. 【演習】感染防止の技術④：個人防護用具の使用法・隔離法及び感染源の拡散防止 9. 【演習】感染防止の技術⑤：同上 10. 【講義・演習】感染防止の技術⑥：無菌操作 11. 【演習】感染防止の技術⑦：無菌操作(滅菌手袋装着、滅菌包の開き方、綿球の受け渡し) 12. 【演習】感染防止の技術⑧：同上 13. 【演習】感染防止の技術⑨：無菌操作(滅菌手袋脱着、滅菌物の受け渡し) 14. 【実技試験】感染防止の技術⑩：無菌操作(滅菌手袋装着、滅菌物の受け渡し) 15. 【実技試験】感染防止の技術⑪：同上 | | | | |
| 事前・事後学習について | 到達目標 1 については、基本的欲求である休息と睡眠について考えましょう。 到達目標 2 については、感染防止に関するテクニカルワードをおさえたうえで、基礎看護学実習 I で施設における感染防止の実際を体験し学習しましょう。無菌操作の技術は 1 年次後期以降の科目において必須の技術です。事前学習は勿論、事後学習では根拠を踏まえた技術の習得に取り組んでください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業のレジュメは、事前配布とします。レジュメに沿って、必ず事前学習を行い授業に臨んでください。(1 コマにつき 1 時間以上) テキストの動画は、必ず視聴して臨んでください。特に演習の授業では、動画から演習のイメージをつけておくことを習慣づけてください。レジュメに提示した参考書のページは、授業前に一読してください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 60 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 20 | 無菌操作(滅菌手袋の装着、滅菌物の受け渡し)の実技試験 | | |
| | レポート | 10 | 演習の事前・事後課題の提出・内容 | | |
| | その他 | 10 | 授業に臨む姿勢と態度 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題(個人・グループ)に対する添削を行い返却します。他、試験、課題に対する全体の傾向などは掲示などにてお知らせします。疑問・質問には随時対応します。 | | | | |
| 使用テキスト | 茂野香お他：系統看護学講座 専門基礎分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 2 医学書院. 2024 任 和子他：系統看護学講座 専門基礎分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学 3 医学書院. 2025 | | | | |
| 参考書 | 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院. 2026 大橋健一他：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進①、医学書院、2021 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 基礎看護技術論Ⅱ N32053 | 1年次・前期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 下島 浩・田中 敦子・鈴木 真由美 | | | | |
| 授業の概要 | この科目で学ぶ内容は、「人間（患者）に必要な環境の調整技術」「患者・看護師にとっての安全・安楽な姿勢と動作技術」です。これらの技術は、これから学んでいく日常生活援助技術（活動・休息する、食べる、排泄する、清潔を保つ、など）を習得する上で基盤となるものです。実際の患者の療養場面をイメージしながら、安全・安楽・自立のための援助技術の習得を目指します。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.安全・安楽・自立の視点から環境の意義を理解し、療養環境調整のための技術を習得できる。 2.看護援助を实践するうえで基盤となるボディメカニクス・体位変換と体位保持について、原理を理解し活用できる。 3.病院見学での体験内容を、既習内容と関連させて、自己の看護に対する学びとして適切な方法で表現できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1.【オリエンテーション】適切な看護技術習得のための、看護技術の特徴と根拠をなすもの 【講義・演習】体位と姿勢①：基本的活動の基礎知識（姿勢とボディメカニクス）、活動に関する基本的援助の実際「ボディメカニクス」の活用 2.【講義・演習】体位変換と姿勢②：「体位変換」「体位保持（ポジショニング）」 3.【講義・演習】環境を整える援助①：看護にとっての環境とはなにか 4.【講義・演習】環境を整える援助②：「ベッドメイキング」 病院見学オリエンテーション 5.【体験演習】環境を整える援助③：病院見学 6.【体験演習】環境を整える援助④：病院見学 7.【演習】環境を整える援助⑤：「臥床状態にある患者のシーツ交換」 8.【演習】環境を整える援助⑥：「臥床状態にある患者のシーツ交換」 9.【講義】環境を整える援助⑦：病床環境の調整 10.【実技試験】環境を整える援助⑧：臥床状態にある患者のシーツ交換 11.【実技試験】環境を整える援助⑨：臥床状態にある患者のシーツ交換 12.【講義】基礎看護学実習ⅠAオリエンテーション「療養の場での技術の実践」 13.【演習】受持ち患者の療養環境を整える「環境整備」 14.【演習】受持ち患者の療養環境を整える「環境整備」 15.【演習】受持ち患者の安全・安楽な療養を考える | | | | |
| 事前・事後学習について | 授業に先立って提示されるレジュメ・事前学習課題や映像教材での学習（自主技術練習含む）は、授業に必要な学習時間として設定されています。演習の時間は皆さんの事前学習内容を前提とした「確かめ合いの場」として考えてください。皆さんが主体的に学習の場を作り上げていくことを求めます。看護技術は単に手技を覚えるのではなく、その技術を提供する対象者のことを思い、思考・確認しながら習得します。また、技術習得のためには、演習時間内だけでなく、演習後も各自が積極的に時間を作り練習を続けることが必要です。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業のレジュメは、事前配布とします。レジュメを確認し、事前学習課題や指示の映像教材の視聴など、授業前に必ず必要な学習を済ませて授業に臨んでください（1コマにつき、1時間以上の事前学習が必要です） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 50 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 20 | 臥床状態にある患者のシーツ交換技術の実技試験 | | |
| | レポート | 20 | 病院見学の課題レポートの提出・内容 | | |
| | その他 | 10 | 授業に臨む姿勢と態度 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題（個人・グループ）については、原則として添削し返却します。課題に対する全体の傾向などは掲示などにて紹介します。疑問・質問には随時対応します。 | | | | |
| 使用テキスト | 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 2026 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 2026 | | | | |
| 参考書 | 平田雅子：完全版ベッドサイドを科学する - 看護に生かす物理学 Gakken. 2021 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|----------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 基礎看護技術論Ⅲ N32054 | 1年次・後期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 田中 敦子・鈴木 真由美 | | | | |
| 授業の概要 | <p>身体を清潔にすること、食事をするものの意義は生理的・心理的のみならず社会的側面があります。清潔の援助では皮膚の構造・機能（臨床看護総論Ⅰ：創傷管理とのリンク）の理解を基に対象にあった清潔の援助を習得します。</p> <p>食への援助では人間の基本的欲求である「食べる」ことの意義を押さえた上で、消化器系の構造・機能、栄養学など既習の知識に立ち戻りながら、安全・安楽で自立を目指す食事援助技術を習得します。</p> | | | | |
| 到達目標 | <p>人間にとっての清潔、食の意義について理解を深め、安全・安楽を保証し、自立を促す援助技術を習得する。</p> <p>①清潔、身だしなみの意義と目的を理解し、対象のニーズを満たすための援助技術を習得する。</p> <p>②食の意義と目的を理解し、対象の食行動のアセスメントから、対象のニーズに近づけるための食事援助技術を習得する。</p> | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 【講義・演習】衣生活の援助①：皮膚の構造と機能、衣生活援助の基礎知識、「寝衣交換」 【講義・演習】清潔の援助①：清潔援助の基礎知識とアセスメント、清拭の目的、「部分清拭」 【講義・演習】清潔の援助②：清潔の意義と目的、援助、入浴の意義と効果、入浴援助の留意点、「全身清拭」 【講義・演習】清潔の援助③：同上 【講義・演習】清潔の援助④：臥床患者の清潔への援助、「麻痺のある患者の全身清拭」 【講義・演習】清潔の援助⑤：頭皮・頭髮の清潔の意義、洗髪時の留意事項、手浴、足浴の目的 【演習】清潔の援助⑥：臥床患者の清潔への援助「手浴、足浴」 【講義】食生活の援助①：食の意義と目的、口腔内の構造と機能、食動作（摂食・嚥下）のメカニズムとその障害 【講義】食生活の援助②：食行動の障害に応じた安全・安楽な援助技術、その留意点 【演習】食生活の援助③：食行動への援助「食事摂取の介助」 【演習】食生活の援助④：食行動への援助「食事摂取の介助」、介助を受ける患者の心理の理解 【演習】清潔の援助⑥：口腔ケアの意義と目的、口腔ケア（口腔保清と機能的口腔ケア）援助技術の実際と留意点 【演習】食生活の援助⑤：非経口的栄養摂取法（経管栄養法、中心静脈栄養法）援助の基礎知識 【実技チェック】清潔の援助⑦ 全身清拭の実技チェック 【実技チェック】清潔の援助⑧ 同上 <p>*本科目は演習の必要物品として学生持参の物品がある。持参物品の内容は演習の1週間前には掲示する。</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>授業に先立って提示されるレジュメ・事前学習課題や映像教材での学習（自主技術練習含む）は、授業に必要な学習時間として設定されています。授業の時間は皆さんの事前学習内容が前提の「確かめ合いの場」です。皆さんが主体的に学習の場を作り上げていくことを求めます。後期の技術論では、看護技術を提供する対象者の状態を捉え、何を大事にすればいいのかを思考・確認することで、対象者にとってより適切な援助としての看護技術を習得していきます。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>授業のレジュメは、事前配布します。レジュメを確認し、事前学習課題や指示の映像教材の視聴など、授業前に必ず必要な学習を済ませて授業に臨んでください。（1コマにつき、1時間以上の事前学習が必要です）</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 70 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 10 | 全身清拭技術の確認 | | |
| | レポート | 10 | 清潔の援助の課題の提出・内容 | | |
| | その他 | 10 | 授業に臨む姿勢と態度 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>レポート課題（個人・グループ）に対する添削を行い返却します。他、試験、課題に対する全体の傾向などは掲示などにてお知らせします。疑問・質問には随時対応します。</p> | | | | |
| 使用テキスト | 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 3 医学書院. 2025 | | | | |
| 参考書 | <p>坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院. 2026</p> <p>中村丁次他：系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院. 2024</p> | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|-----------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 基礎看護技術論Ⅳ N32055 | 1年次・後期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 鈴木 真由美・田中 敦子 | | | | |
| 授業の概要 | 看護専門職としての基礎となるフィジカルイグザミネーションの方法とフィジカルアセスメントのための系統的な観察を講義・演習を通して習得します。単にフィジカルイグザミネーションの方法を覚えるのではなく、実施する意義・目的や人体の構造・機能を含めて習得し、臨床実習で活用できることを目指します。 | | | | |
| 到達目標 | フィジカルアセスメントに必要な基礎知識および必要なフィジカルイグザミネーションの方法を習得する。 ①バイタルサインの意義、測定方法及びアセスメントのポイントを学ぶ。 ②呼吸の意義及び呼吸状態のアセスメントについて学ぶ。 ③体温・循環調整の意義と方法を学ぶ。 ④脳神経系・運動系のフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。 ⑤消化器系のフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 【オリエンテーション・講義】 フィジカルアセスメント①：ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2. 【講義】 フィジカルアセスメント②：一般状態のアセスメントとバイタルサイン 3. 【講義・演習】 フィジカルアセスメント③：脳神経系のアセスメント 4. 【講義・演習】 フィジカルアセスメント④：運動系のアセスメント 5. 【演習】 バイタルサインの測定①（タスク・トレーニング） 6. 【演習】 バイタルサインの測定②（タスク・トレーニング） 7. 【演習】 フィジカルアセスメント⑤：呼吸のアセスメント（シチュエーション・ベースド・トレーニング） 8. 【演習】 フィジカルアセスメント⑥：呼吸のアセスメント（シチュエーション・ベースド・トレーニング） 9. 【演習】 フィジカルアセスメント⑦：循環のアセスメント（シチュエーション・ベースド・トレーニング） 10. 【演習】 フィジカルアセスメント⑧：循環のアセスメント（シチュエーション・ベースド・トレーニング） 11. 【実技試験】 バイタルサインの測定③ 12. 【実技試験】 バイタルサインの測定④ 13. 【演習】 フィジカルアセスメント⑨：腹部のアセスメント（タスク・トレーニング） 14. 【総合演習】 フィジカルアセスメント⑩（シチュエーション・ベースド・トレーニング） 15. 【総合演習】 フィジカルアセスメント⑪（シチュエーション・ベースド・トレーニング） | | | | |
| 事前・事後学習について | 患者さんの健康状態をアセスメントする際には身体的問題から始めるのが一般的です。ということは、人間の身体の構造と機能を理解していなければフィジカルアセスメントは成立しません。授業資料は事前に配付しますので、基礎看護技術と解剖生理学、両方のテキストを開いて事前学習を進めてください。1年次後期の演習はよりリアリティのある場面での展開です。グループメンバーと協力して事前・事後学習を進めることが習得への秘訣です。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業のレジュメは事前配布します。レジュメに沿って、必ず事前学習（課題に取り組む、指示の映像教材の視聴など）を行い授業に臨んでください。（1コマにつき1時間以上、技術的な学習は適宜） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 60 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 20 | バイタルサインの測定の実技試験 | | |
| | レポート | 10 | 冬休みの課題の提出・内容 | | |
| | その他 | 10 | 授業に臨む姿勢と態度 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題（個人・グループ）については添削あるいは確認を行い返却します。課題に対する全体の傾向などは口頭もしくは掲示などにて報告します。疑問・質問には随時対応します。 | | | | |
| 使用テキスト | 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第19版 医学書院 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第19版 医学書院 香春知永他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 第8版 医学書院 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 第12版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 第2版 医学書院. 2011 阿部幸恵：症状別 病態生理とフィジカルアセスメント 照林社. 2015 志水太郎：おだん子×エリザベスの急変フィジカル、医学書院. 2018 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|---------|------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 基礎看護技術論Ⅴ N32056 | 2 年次・前期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 田中 敦子・鈴木 真由美 | | | | |
| 授業の概要 | 基礎看護技術論Ⅴは、与薬、検査、救命救急処置などの診療補助技術を習得します。これらは様々なリスクを伴うため、安全管理の技術を活用して事故防止に留意し、患者の状態に応じた安全で確実な援助方法を習得しましょう。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 与薬や検査における看護師の役割と援助に必要な基本的知識を理解する。 2. 患者の状態に応じた安全・安楽な与薬や検査の援助技術を習得する。 3. 救命救急の基礎知識を理解し、救命救急処置の技術を習得する。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 与薬と看護①【講義】与薬に必要な基礎知識と看護の役割、薬剤管理の知識 経口・吸入・点眼・点鼻・経皮・直腸内与薬、注射法 与薬と看護②【演習】6R、薬液の吸い上げ 与薬と看護③【講義】注射法（静脈内注射と輸液管理）、輸血 与薬と看護④【演習】皮下注射 与薬と看護⑤【講義・演習】静脈内注射と輸液管理（側管注、滴下調節、観察） 与薬と看護⑥【演習】側管注、滴下調節、観察 与薬と看護⑦【講義・演習】翼状針による点滴静脈内注射の刺入 与薬と看護⑧【演習】 同上 検査と看護①【講義】静脈内採血の方法と留意点 検査と看護②【演習】静脈内採血の方法と留意点の実践 検査と看護③【講義】臨床検査の目的、種類、検査における看護の役割と留意点 診察・検査・処置における技術（穿刺、他） 検査と看護④【実技試験】静脈内採血（腕モデル） 一次救命処置①【講義】一次救命処置の意義と目的、BLS-AED 一次救命処置②【演習】BLS-AED 一次救命処置③【演習】 同上 | | | | |
| 事前・事後学習について | 基礎看護技術論Ⅴでは注射や採血等の身体侵襲技術を伴う技術の習得を目指します。安全に演習できるように事前・事後学習が重要です。基礎看護技術論Ⅰ（感染防止の技術）、人体機能構造学や病理・病態生理学、薬理学、臨床検査、放射線医学の知識を活用しましょう。演習では、事例患者について、方法や留意点は何かを考えて実践します。演習前には課題にそって事前学習をしてください。また演習後は実践から課題を明確化するために、看護実践の評価とリフレクションを提出してください。随時、小テストを実施するので、復習をしてください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業のレジュメは事前配布します。レジュメに沿って、課題や指示の映像教材など、必ず事前学習を行い授業に臨んでください。（1 コマにつき 1 時間以上が必要です。） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 70 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 10 | 採血の実技試験 | | |
| | レポート | 10 | 演習の事前・事後課題の提出・内容 | | |
| | その他 | 10 | 授業に臨む態度と姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題（個人）については添削を行い返却します。課題に対する全体の傾向などは、掲示などにて紹介します。小テストは随時返却します。看護実践については、看護師役の関わり方・看護師同士の連携について、口頭で助言します。疑問・質問には随時対応するので、積極的に確認しましょう。 | | | | |
| 使用テキスト | 茂野香おる他：系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 2024 任和子他：系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 2025 香春知永他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④，医学書院. 2026 | | | | |
| 参考書 | 人体構造機能学、病理・病態生理学、病態・疾病治療論Ⅰ、薬理学、臨床検査、放射線医学で使用しているテキスト、今日の治療薬 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|---------|-----------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 臨床看護総論 I N33057 | 1 年次・後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 田中 敦子・鈴木 真由美 | | | | |
| 授業の概要 | 生活者である看護の対象を捉える視点の一つ「健康状態の経過」に着目する必要性を理解します。この授業で習得する看護援助技術は「創傷処置」「排泄の援助」です。活用する知識・技術としては、既習のものが多く、それらを「対象に合わせて」看護実践する方法を学びます。また事例患者を通して、援助に必要なアセスメントの視点、対象の状態に合わせた援助方法について考え、その援助技術の習得を習得します。臨床看護総論 I は、2 年次の臨床看護総論 II・III につながる科目となります。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 対象を健康状態の経過の視点から捉える意義を理解し、それぞれの経過を踏まえた看護のあり方を説明することができる。 2. 対象に起きていることを病態メカニズムなどからアセスメントし、その状態に必要な看護技術を実践することができる。 3. 創傷処置・排泄の援助を通して、感染予防、プライバシーへの配慮など、対象理解に基づく援助技術を習得する。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 【講義】臨床看護総論とは 健康状態の経過と看護①：「急性期」にある対象に対する看護 2. 【講義】健康状態の経過と看護②：「回復期」、「慢性期」、「終末期」にある対象に対する看護 3. 【演習】健康状態の経過と看護③：事例を通して患者に必要な看護を導き出す視点を確かめる 4. 【講義】創傷処置を受ける患者への看護①：創傷とは、創傷の種類と治癒過程、創傷治癒の環境、創傷の処置の実際 5. 【演習】創傷処置を受ける患者への看護②：「創保護の実際」（ドレッシング材、テープ固定） 6. 【演習】創傷処置を受ける患者への看護③：「包帯法」 7. 【講義・演習】排泄の援助①：排泄の意義、排泄のメカニズム、排泄のアセスメント 排泄の援助方法 8. 【講義・演習】排泄の援助②：「尿器・便器、ポータブルトイレ、おむつ交換、陰部洗浄」 9. 【講義・演習】排泄の援助③：排便障害のある患者の看護 10. 【講義・演習】排泄の援助④：「温罨法・腹部マッサージ・摘便・浣腸」 11. 【講義・演習】排泄の援助⑤：排尿障害のある患者の看護 12. 【講義・演習】排泄の援助⑥：「一時的導尿、膀胱留置カテーテル留置中の看護」 13. 【総合演習】健康障害のある人の理解と看護①：事例を通しての患者理解とその看護 14. 【総合演習】健康障害のある人の理解と看護②：事例を通しての患者理解とその看護 15. 【講義】健康障害のある人の理解と看護③：事例を用いてのアセスメントの視点の確認 | | | | |
| 事前・事後学習について | 看護援助を実践するためには、まず「対象を理解する」ことが不可欠です。後期に習得する看護技術は、日常生活の援助技術から医療行為とされる技術へとステップアップしていきます。そこには「人体の構造と機能」など、既習知識の活用が求められます。必ず必要な事前学習（夏季休暇中の課題を含む）・技術確認を済ませた上で授業に臨んでください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業のレジュメは、事前配布とします。レジュメを確認し、事前学習課題や指示の映像教材視聴など、授業前に必ず必要な学習を済ませて授業に臨んでください。（1 コマにつき 1 時間以上の事前学習が必要です） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 70 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 10 | 演習課題の評価 | | |
| | レポート | 10 | 課題演習に関するレポートの内容 | | |
| | その他 | 10 | 授業に臨む姿勢と態度 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 各自が学びを深められるよう、グループでの学び合い（聴く・伝える）を積極的に取り入れていきます。レポート課題（個人・グループ）については添削を行い返却します。課題に対する全体の傾向などは掲示などにて紹介します。疑問・質問には随時対応します。 | | | | |
| 使用テキスト | 香春知永他：系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院. 2026 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院. 2024 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院. 2025 | | | | |
| 参考書 | 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院. 2026 大橋健一他：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① 医学書院. 2024 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|---------|------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 臨床看護総論Ⅱ N33058 | 2 年次・前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 鈴木 真由美・田中 敦子・下島 浩 | | | | |
| 授業の概要 | 意図的な行為である看護の方法を、科学的思考と問題解決思考に基づいて説明できることを目指します。具体的には、DVD 事例・紙上事例を用いて情報の意味について考えながらアセスメント、看護上の問題の明確化、計画立案を軸に思考の練習を行います。実施、評価はロールプレイを行います。ヘンダーソンの看護理論を活用します。本科目は、基礎看護学実習Ⅱにおける思考そのものを学ぶ科目です。 | | | | |
| 到達目標 | 看護実践における思考過程の一つである看護過程の意義とプロセスについて理解する。 ①事例の患者の情報をを用いて、アセスメント（現状・原因・なりゆき）から看護上の問題の明確化を行う。 ②事例の患者の看護計画を立案し、安全・安楽であり自立・個別性のある援助について考える。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 【講義】 看護実践の方法論としての看護過程、看護過程を学ぶ意義、看護過程の構成要素 2. 【講義】 看護過程における情報の意味 3. 【講義】 看護過程におけるアセスメント、看護上の問題の明確化 4. 【講義】 看護過程における計画の立案 5. 【演習】 事例患者の看護過程の展開：グループワーク① 6. 【演習】 事例患者の看護過程の展開：グループワーク② 7. 【講義】 事例患者の看護過程の展開 8. 【演習】 事例患者の看護過程の展開：グループワーク③ 9. 【演習】 事例患者の看護過程の展開：グループワーク④ 10. 【演習】 事例患者の看護過程の展開：グループ発表 11. 【演習】 事例患者の看護過程の展開：計画の実践① 12. 【演習】 事例患者の看護過程の展開：計画の実践② 13. 【演習】 事例患者の看護過程の展開：計画の実践と評価 14. 【オリエンテーション】 基礎看護学実習Ⅱのオリエンテーション ① 15. 【オリエンテーション】 基礎看護学実習Ⅱのオリエンテーション ② | | | | |
| 事前・事後学習について | 年度末休みの課題：1 年次までに学習したアセスメントの方法を活用し「事例患者の看護過程の展開（一部）」を思考してみましょう。わからない、難しいと思うかもしれませんが、まずはテキストとこれまでの授業資料を広げて考えてみましょう。課題での疑問点は授業内で明確にいきましょう。授業終了後は、基礎看護学実習Ⅱの実習目標（実習要項参照）と照合させて、各自学習不足の点を補ってください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業のレジュメは、事前配布とします。レジュメに沿って、必ず事前学習（課題、指示の映像教材など）を行い授業に臨んでください。（1 コマにつき 1 時間以上） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 50 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 30 | グループワーク、演習への参画状況（ピア評価） | | |
| | レポート | 20 | 課題の提出・内容 | | |
| | その他 | 0 | 授業へ臨む姿勢と態度 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題（個人・グループ）については添削を行い返却します。課題に対する全体の傾向などは掲示などにて紹介します。疑問・質問には随時対応します。 | | | | |
| 使用テキスト | 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版 医学書院 吉田俊子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学③循環器 第 16 版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 第 12 版 医学書院 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|---------|---------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 臨床看護総論Ⅲ N33059 | 2 年次・通年 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 鈴木 真由美・田中 敦子 | | | | |
| 授業の概要 | 臨床におけるある状況下での気づきと判断・解釈について、患者の状態の変化を認識しその対応を考えることを目指した思考過程を学習する。具体的な学習方法は、既存の教材の活用や臨地実習で起こりうる看護場面の再現をし、リアルな場面から気づき、判断・解釈する方法を用いる。学生が自ら考えるように効果的な発問を取り入れ、グループ単位で協働できる授業展開とする。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Thinking like a nurse」の思考を説明できる。 2. 臨床判断に必要な「気づき」の視点を持つことができる。 3. 臨床判断に必要な「解釈」の思考を理解できる。 4. 事例を通して看護介入である「反応」を認識し、「省察」が看護行為の評価であることを理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床判断とは「Thinking like a nurse」、臨床における「気づき」 2. 事例展開①：シチュエーション・ベースド・トレーニング 3. 事例展開②：シチュエーション・ベースド・トレーニング 4. 事例展開③：シチュエーション・ベースド・トレーニング 5. 事例展開④：シチュエーション・ベースド・トレーニング 6. 事例展開⑤：シチュエーション・ベースド・トレーニング 7. 事例展開⑥：シチュエーション・ベースド・トレーニング 8. 基礎看護学実習Ⅱ・振り返り 9. 基礎看護学実習Ⅱ・振り返り 10. 急変時看護：意識障害 11. 急変時看護：意識障害 12. 急変時看護：呼吸困難 13. 急変時看護：呼吸困難 14. 急変時看護：胸痛 15. 急変時看護：胸痛 | | | | |
| 事前・事後学習について | 臨床判断とは、患者のニーズ、気がかり、健康問題について解釈し結論を出すこと、また行為を起こすか起こさないかの判断、標準的な方法を使うか変更するか判断、患者の反応から適切にその場で考えだして行う判断（三浦友理子、奥裕美：臨床判断ティーチングメソッド、医学書院）とされています。本授業は、ある状況下での判断力を鍛える内容です。これまでの知識を応用できるよう、備えてください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業のレジュメは事前配付します。レジュメに沿って、これまで積み上げたどの知識をどのように活用すればよいのかをイメージして臨んでください。（1 コマにつき 1 時間以上） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 80 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 10 | 課題の提出・内容 | | |
| | その他 | 10 | 授業に臨む姿勢と態度 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題（個人・グループ）については添削あるいは確認を行い返却します。課題に対する全体の傾向などは口頭もしくは掲示などにて報告します。疑問・質問には随時対応します | | | | |
| 使用テキスト | 香春知永他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 第 8 版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 授業内で提示します。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|---------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 基礎看護学実習 I N33060 | 1 年次・通年 | 実習 | 1 | |
| 担当教員 | 田中 敦子・鈴木 真由美 | | | | |
| 授業の概要 | 基礎看護学実習 I は A : 2 日間、B : 3 日間、計 5 日間で展開します。 I A の実習内容は、看護の役割と機能の理解、看護におけるコミュニケーションの理解です。 I B の実習内容は、病気を持ち入院している対象の理解、日常生活援助の看護実践です。 | | | | |
| 到達目標 | 実習目標は「2026 年度臨地実習要項」を参照 臨床において看護技術や援助の実施は、学内演習で習得したものを実施させていただき、習得していないものは原則として見学させていただきます。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 実習計画は「2026 年度臨地実習要項」を参照 | | | | |
| 事前・事後学習について | 「2026 年臨地実習要項」を参照 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 実習開始 1～2 週間前より 1 日 2～1 時間、事前学習を始めましょう。これまでに習得した技術の確認は、適宜、実習室で行いましょう。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 100 | 実習要項参照 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 倫理的態度・姿勢で実習に臨んでください。実習期間中における日々の課題に関しては、適宜フィードバックをします。日々の疑問・質問はそのままにせず、担当教員や実習指導者に投げかけ、確認をしましょう。 | | | | |
| 使用テキスト | 2026 年度 臨地実習要項 看護者の基本的責務：看護協会出版会、2026 | | | | |
| 参考書 | 実習までに学習したテキストすべて | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|--------|-------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 基礎看護学実習Ⅱ N34061 | 前期 | 実習 | 2 | |
| 担当教員 | 田中 敦子・鈴木 真由美 | | | | |
| 授業の概要 | <p>基礎看護学実習Ⅱは日常生活援助を実践させていただく実習です。入院による環境の変化が看護の対象の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、対象の療養生活を観察し、生活上のニーズを判断し、自然治癒力、自己回復力が高まる援助を実践する能力を身につけます。対象との援助的人間関係を築く過程で自己洞察を深め、看護専門職者としての基本的姿勢を習得しましょう。</p> <p>本実習は実務家教員の授業で、看護師免許を有する教員が担当する科目である。看護に関する実務家としての視点、臨床での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象が健康に向かうために、対象に関心をよせ援助的人間関係を築くことができる。 2. 看護過程の展開を通し、対象の健康状態の経過に応じた看護の視点から日常生活援助を実践できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における援助的人間関係とは何かを理解し、関係性の構築を図ることができる。 2. 健康状態の経過に応じた看護の視点から情報収集を行い、基本的欲求を助ける日常生活援助や苦痛を緩和する援助について看護計画を立案することができる。 3. 立案した看護計画を、安全・安楽・自立・個性を踏まえて実施することができる。 4. 実施した看護を評価し、アセスメント・看護問題の明確化・計画・実施を見直す必要性を述べることができる。 5. 看護チームの一員として協働し、看護学生としての責任を果たすことができる。 <p>上記の到達目標を達成するための基盤として、看護学生としての自覚をもち、受け持ち患者はもちろん、実習先のスタッフ、実習チームのメンバー、教員への挨拶ができること、学生カンファレンスでは、メンバーの意見を聞き、自分の考えを述べること、自己管理ができ最後まで実習を行うことなど、実習に臨む姿勢を身につけることがあげられる。その姿勢は看護者としての姿勢にもつながるため、自分自身の行動、言動をフィードバックできるようにする。実習後のレポートはテーマと内容を一致させ、自己の学びを論理的に表現することが必要である。</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>基礎看護学実習Ⅰに積み重なる実習ですので、課題を明確にして実習に臨みましょう。看護技術の事前学習のために実習室を開放します。これまでに習得した技術の全てを再確認してください。受持ち患者さんの疾患と看護に関する事前学習は必須です。病態はこれまでの授業資料を活用して実習でつかえる工夫をしてください。その際、人体構造・機能学のテキストも広げて学習しましょう。事後学習では、援助的人間関係を築くということ、日常生活援助を実施するために必要な自己の能力について、他者に伝わるように論理的かつ具体的に述べましょう。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>実習開始1～2週間前より事前学習を始めましょう。「援助的人間関係の形成」「アセスメントの方法」「全体像のとらえ方と問題の明確化」「看護計画の立案の方法」「安全・安楽な日常生活の援助方法」「看護援助実施後の評価」などについて再確認しましょう。(1日2～3時間) これまでに習得した技術の確認をしましょう。まず、実習初日のバイタルサインの測定の場面をシミュレーションし、観察項目を押さえましょう。</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 100 | 実習要項参照 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>倫理的態度・姿勢で実習に臨んでください。実習期間中における日々の課題に関しては、適宜フィードバックをします。日々の疑問・質問はそのままにせず、担当教員や実習指導者に投げかけ、確認をしましょう。</p> | | | | |
| 使用テキスト | <p>2026年度 臨地実習要項 看護者の基本的責務：日本看護協会出版会、2026</p> | | | | |
| 参考書 | <p>実習までに学習したテキストすべて</p> | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 地域の暮らしを支える看護 N32062 | 通年 | 講義・演習 | 2 | |
| 担当教員 | 神澤 絢子 他 | | | | |
| 授業の概要 | 看護の対象となる人々は、地域で暮らす生活者であることを理解する。そして、生活者の暮らしぶりや健康状態に、地域の環境はどう影響しているのか、どのようなしくみが暮らしと健康を支えているのかについて、講義・演習を通して思考し、「暮らしの実習」の学びへとつなげる。さらに、実習後、臨地での学びをもとに、さまざまな健康状態の人々が地域でその人らしく暮らすことを支援するためのしくみと、そのしくみの中で看護職者が果たすべき役割について考える。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 地域の環境はそこ暮らす人々の生活にどう影響し、その環境の中で人々はそれぞれの発達課題や健康課題とどの様に向き合いながら生活しているのか関心を持ち、自らの思考を整理して考えることができる。 2. 地域に暮らす人々の生活を支えるために必要となる社会資源や仕組みを理解し、さらにその仕組みの中で看護職者が果たすべき役割について考えることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <p>[前期]</p> <p>1-2. 講義展開に関するオリエンテーション 人々の暮らしの理解①② (講義) ・人々の暮らしの理解</p> <p>3-4. 暮らしの基盤としての地域の理解 (講義) ・暮らしと地域 ・暮らしと地域を理解するための考え方 ・地域包括ケアシステムと地域共生社会</p> <p>5-6. 地域・在宅看護の対象 (講義・演習) ・ライフステージによる多様性 小児期の対象者の理解 ・実習に向かう地域の実際の状況について整理してみよう</p> <p>7-8. 地域・在宅看護の対象 (講義・演習) ・ライフステージによる多様性 成人期の対象者の理解 ・実習に向かう地域の実際の状況について整理してみよう</p> <p>9-10. 地域・在宅看護の対象 (講義・演習) ・ライフステージによる多様性 老年期の対象者の理解 ・実習に向かう地域の実際の状況について整理してみよう</p> <p>11-12. 地域に暮らす人々の健康レベルの多様性 (講義) 実習で出会うライフステージの人々の暮らしと健康についての学びの視点を整理してみよう (演習)</p> <p>[後期]</p> <p>13. 地域で暮らす人々の実際の姿から地域・在宅看護における看護職者の役割を考える① (演習)</p> <p>14. 地域で暮らす人々の実際の姿から地域・在宅看護における看護職者の役割を考える② (演習)</p> <p>15. 地域で暮らす人々の実際の姿から地域・在宅看護における看護職者の役割を考える③ (演習)</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：オリエンテーション時に示す授業計画のテキストの該当範囲を読んで講義に臨んでください。その他課題を適宜提示するので取り組みましょう。</p> <p>事後学習：毎回の授業の復習をしてください。講義で学んだ人々の暮らしを考えるための視点をもとに、日々の日常生活の中でも周りの人たちの多様な生活ぶりや価値観に関心を持ち、暮らしを支える看護とは何か、積極的に思考してみましよう。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前学習：1時間程度 事後学習：1時間程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 50 | 演習への参加姿勢、演習の成果 (思考・表現) | | |
| | レポート | 50 | 課題提出状況、提示した内容との整合性・思考・表現 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 講義・演習の中で、事前・事後学習に関する質問にお答えします。その中で自己課題を確認して、理解を深めておきましょう。疑問・質問には随時対応します。 | | | | |
| 使用テキスト | 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 2026年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 看護がみえる Vol.5 対象理解1 第1版 メディックメディア | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 家族看護学 N32063 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 岩崎みすず・北林 ちなみ | | | | |
| 授業の概要 | 「地域の暮らしを支える看護」「暮らしの実習」での学びを基盤として、看護がかかわる地域社会の構成要素である家族について学ぶ。また、個人が所属する最小単位のシステムである家族について、看護学の視点から考え、看護職者が家族にかかわる場面とその意義、看護提供のために必要な視点を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学における家族の定義、家族に関する諸理論について理解することを通して、家族が看護の対象であることを理解する 2. 我が国における家族の変遷と現代の家族の様相および課題について理解し、家族看護のニーズについて考えることができる 3. 地域に暮らす家族を対象とした看護を展開するためには多様な視点が必要であることを理解し、家族全体を対象としてとらえて看護を考えることができる | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ家族看護を学ぶのか／家族看護の特徴と理念 2. 家族看護の実践の場面 3. 家族とはなにか／家族のとらえ方 4. 家族構造 5. 家族機能と機能の変化 6. 家族機能を把握するためのモデル 7. 現代家族の様相 8. 現代家族のかかえる課題 9. 家族を理解するための理論／家族の変化を把握するための理論 10. 家族に変化をもたらすための介入 11. 家族看護展開の方法① 12. 家族看護展開の方法② 13. 事例を用いて看護の展開を考える 個人ワーク 14. 事例を用いて看護の展開を考える グループワーク 15. 事例を用いて看護の展開を考える 発表とまとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：事前に示す事業計画のテキスト該当頁を読んで講義に臨んでください。</p> <p>事後学習：毎回の講義内容を振り返っておいてください。</p> <p>事例を用いた学習では、授業時間内にまとめられなかった内容については事前学習として完成させてから次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、日常生活の中で、様々な家族のあり方に関心を持って過ごし、講義内容と連動させて思考してみましよう。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>事前学習：1 時間程度</p> <p>事後学習：1 時間程度</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 80 | 家族看護とは何か、家族を理解するための理論の理解、家族看護の対象の理解、家族看護の展開方法の学び | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 20 | 事例学習の記録 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 講義の中で事前・事後学習に関する質問にお答えします | | | | |
| 使用テキスト | 上別府圭子ほか 系統看護学講座別巻 家族看護学 第2版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 地域・在宅看護論Ⅰ N33064 | 前期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 遠山 清香 | | | | |
| 授業の概要 | 地域・在宅看護における対象と基盤となる概念、関係法制度の概要について学ぶ。 地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護の位置づけと看護の役割について学ぶ。 地域・在宅における看護展開の基礎を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 地域・在宅看護の基盤となる概念を理解することができる。 地域・在宅看護に関係する法律・制度を理解することができる。 地域・在宅看護の対象者の特徴を述べるすることができる。 地域・在宅看護実践における多職種連携・協働のなかで看護師が果たす役割、他職種で関わる意義について述べるすることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の変化と暮らしの場における看護 2. 地域包括ケアシステムの背景と概要 3. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護実践の場と連携 4. 介護保険の概要 5. 介護保険制度 (1) 施設サービス・居宅サービス 6. 介護保険制度 (2) 地域密着型サービス 7. 介護保険制度 (3) 予防給付、介護予防、介護保険制度の改正 8. 訪問看護の制度 (1) 制度の創設と発展経緯、訪問看護の対象者 9. 訪問看護の制度 (2) 訪問看護サービスに関する規定 10. 地域・在宅看護にかかわる各種制度 11. 地域・在宅看護における安全をまもる看護 12. 対象者の希望する生活を支えるための退院支援・退院調整 13. ケアマネジメントと多職種連携 14. ケアマネジャーの役割 (特別講師) 15. 地域包括支援センターで働く看護職者の役割 (特別講師) | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>予習：教科書の該当範囲を通読しましょう。 介護保険制度については自己学習ノートを作成しましょう (授業内で指示します)。</p> <p>復習：学んだ内容を振り返り、知識として定着させましょう。 配付資料を整理し、地域・在宅看護論Ⅱ、地域・在宅看護論実習で活用できるようにしましょう。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>予習：授業予定に該当する教科書の範囲の通読 (毎回 30 分程度)</p> <p>復習：授業資料と教科書の該当範囲の振り返り (毎回 30 分程度)</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 講義内容に関する知識、理解 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 10 | 指定された内容に関する思考、判断 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>介護保険制度に関する自己学習ノートは、内容を確認後返却します。</p> <p>授業ごとに記述した感想・質問について、次の授業でコメントします。</p> | | | | |
| 使用テキスト | <p>系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院 2025</p> <p>国民衛生の動向 (2025/2026) 厚生労働統計協会 2025</p> | | | | |
| 参考書 | <p>国民の福祉と介護の動向 (2025/2026) 厚生労働統計協会 2025</p> <p>家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会 2022</p> | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 地域・在宅看護論Ⅱ N33065 | 後期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 遠山 清香 他 | | | | |
| 授業の概要 | <p>地域・在宅看護論Ⅰで学んだ知識を基礎として、地域・在宅で看護を提供するための基本的知識と援助方法を学ぶ。</p> <p>在宅療養者の病期や症状、暮らし方に応じて展開する在宅看護実践を学ぶ。</p> <p>訪問看護の実際・事例を通して看護師の役割・機能についての理解を深める。</p> <p>地域・在宅看護における看護過程の展開について、3年次実習を視野に入れて学ぶ。</p> | | | | |
| 到達目標 | <p>地域・在宅看護の特性をふまえた地域・在宅看護過程の展開方法を述べることができる。</p> <p>対象者の希望する暮らしを支える看護の役割と機能について述べるができる。</p> <p>外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までの様々な時期の地域・在宅看護を述べるができる。</p> <p>地域・在宅看護実践における多職種連携・協働の必要性について述べるができる。</p> | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 地域・在宅における看護過程と展開方法 暮らしを支える看護実践 (1) 療養環境調整、活動と休息 暮らしを支える看護実践 (2) 食生活・嚥下に関する援助 暮らしを支える看護実践 (3) 排泄に関する援助 暮らしを支える看護実践 (4) 創傷管理に関する援助 暮らしを支える看護実践 (5) 呼吸・循環に関する援助 暮らしを支える看護実践 (6) 苦痛の緩和・安楽確保 暮らしを支える看護実践 (7) 災害・小児に関する援助 暮らしを支える看護実践 (8) 清潔・衣生活に関する援助 暮らしを支える看護実践 (9) 与薬に関する援助 地域・在宅における時期別の看護 在宅医療機器の実際 (演習) 地域・在宅看護の事例展開—情報収集・情報の整理・実習展開について 地域・在宅看護の事例展開(演習) (1) 地域・在宅看護の事例展開(演習) (2) | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>予習：教科書の該当範囲を通読しましょう。</p> <p>復習：学んだ内容を振り返り、知識として定着させましょう。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>予習：授業予定に該当する教科書の範囲の通読 (毎回 30 分程度)</p> <p>復習：授業資料と教科書の該当範囲の振り返り (毎回 30 分程度)</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 講義内容の理解、知識 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 10 | 指定された内容についての思考、判断 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 授業ごとに記述した感想・質問について、次の授業でコメントします。 | | | | |
| 使用テキスト | <p>系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院 2025</p> <p>系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版 医学書院 2025</p> | | | | |
| 参考書 | 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会 2022 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 暮らしの実習 N33066 | 前期 | 実習 | 1 | |
| 担当教員 | 神澤 絢子 | | | | |
| 授業の概要 | 地域には、多様な生活を営む人々が暮らしており、その生活環境やそれぞれのライフステージによって、様々な健康課題があることに気づくことを目的とした実習を行う。さらに、地域に暮らす人々の健康課題を支えるために様々な場所で様々な専門職者が活躍していることを知り、その中で看護職者が果たす役割は何かを考える。なお本実習は、地域包括ケアシステムが展開される規模を想定して下伊那郡高森町内の各施設にご協力いただき実施する。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 地域には、多様な生活を営む人々が暮らしており、その生活環境やそれぞれのライフステージによって、様々な健康課題があることに気づくことができる。 2. 人々が暮らす環境が、健康課題に様々な影響を与えることに気づくことができる。 3. 地域には、そこで暮らす人々の健康課題を支えるために様々な場所で様々な専門職者が活躍しているか知り、その中で看護職者はどのような役割を果たしているか考えることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 授業計画 | 実習期間 5日間 1日目 実習オリエンテーション、グループワーク 実習期間中の詳細および学ぶべきポイントの確認をグループメンバー間で共有する。 2日目 高森町役場にて、高森町の概要、まちづくりの方針、健康・福祉施策、子育て支援の方針等についてお話をお聞きする。 3～5日目 1) 高森町内の施設での実習 各グループ毎に、小児期または成人期～高齢期のいずれかを対象とした施設に出向きそこを利用する人々の暮らしぶりや健康課題および施設職員の対応について学ぶ。 2) 別のライフステージを対象とした施設で学んだグループ同士で情報を共有し合う。 | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：「地域の暮らしを支える看護」の授業の内容を各自振り返り、実習において各施設で学ぶ視点を明確にしておく。 事後学習：日々の実習施設での学びを指定された用紙に、実習の目的・目標に即した内容を考えて整理して記入する。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前学習：各実習施設ごと 1～2 時間程度 事後学習：各実習施設ごと 1～2 時間程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 100 | 実習要項に記載した評価項目に準じる | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 実習中に適宜行う教員や指導者による個別指導およびグループ学習の場を活用して、自身の疑問や課題を明確にし、その都度解決していきましょう。疑問・質問には随時対応します。 | | | | |
| 使用テキスト | 特に指定しませんが、「地域の暮らしを支える看護」で使用したテキストや配布資料を参考にしましょう。 | | | | |
| 参考書 | 特に指定しません。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 3 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 地域・在宅看護論実習 N34067 | 通年 | 実習 | 2 | |
| 担当教員 | 遠山 清香 他 | | | | |
| 授業の概要 | 地域に暮らす看護の対象者の生活実態と、それらの人々が住み慣れた地域でその人らしい暮らしを継続するために必要となる社会資源を理解し、さらに在宅療養を支える地域包括ケアシステムの中で他職種と協働しながら看護職者が果たすべき役割は何かを実習を通して考える。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 地域に暮らす対象者の生活の実態を理解できる。 2. 住み慣れた地域でその人らしい暮らしを継続するために必要となる社会資源を理解できる。 3. 地域包括ケアシステムの中で看護職者が果たすべき役割を理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 1. 学内オリエンテーション 年度当初に、本実習に関する概要説明を行う。 2. グループごとの実習 2) 施設実習 (1) 訪問看護ステーション (3日間) 各施設において、訪問先の対象者の情報を収集し、同行訪問にて訪問看護の実際について見学実習を行う。訪問先の対象者の生活の実際とそこで提供される看護の実際について、日々の学びを個々に整理する。 実習最終日には、実習での学びについての振り返りを行う。 (2) 居宅介護支援事業所・訪問介護事業所・通所介護事業所 (各1日) 各施設において、サービス利用者の思いや生活の実際とそこで提供される支援の実際について見学実習を行い、日々の学びを個々に整理する。 実習最終日には、実習での学びについての振り返りを行う。 3) 学内実習 各施設での学びを連動させて、地域包括ケアシステムの中で看護職者が果たすべき役割についてグループメンバー間で共有し、各自学びを整理し、まとめる。 3. 最終レポート 実習での自身の学びを各自レポートとしてまとめ、提出する。 *詳細は、実習要項参照 | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：提示した内容についてサブノートに整理しましょう。 地域・在宅看護に必要な知識と技術について、今までの講義・演習内容を振り返りましょう。 事後学習：指定した記録用紙をもとに、各施設および訪問先での日々の学びを個々に整理しましょう。 学内において個々の学びをグループ間で共有し、到達目標に沿った学びを深めましょう。 グループ間での学びを振り返り、最終レポートにて自身の学びを整理しましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 春休みの課題提示によるサブノートづくり：2週間程度 各実習施設に赴く前の地域・在宅看護に必要な知識と技術の振り返り：各2～3時間程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 85 | 詳細は実習要項参照 | | |
| | レポート | 15 | 課題提出状況、提示した内容との整合性 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 実習中に適宜行う教員や指導者による個別指導および学内で行うグループ学習、カンファレンスの場を活用して、自身の疑問や課題を明確にしその都度解決していきましょう。疑問・質問には随時対応します。 | | | | |
| 使用テキスト | 特に指定はしませんが、地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱで使用したテキストや配布資料を参考にしましょう。 | | | | |
| 参考書 | 特に指定しません。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 成人保健論 N32068 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 服部 さゆり・平井 義一 | | | | |
| 授業の概要 | ライフサイクルにおける成人期の位置づけと、成人期にある人の特徴について学ぶ。また、成人をとりまく健康課題、各健康レベルにある対象の特徴、成人看護の特徴・役割について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の特徴が理解できる 2. 成人をとりまく健康課題が理解できる 3. 各健康レベルにある対象の特徴が理解できる 4. 成人看護の特徴や看護の役割が理解できる | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人とは 2. 成人期の各発達段階の特徴① 3. 成人期の各発達段階の特徴② 4. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康① 5. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康② 6. 生活と健康をまもりはぐくむシステム 7. 成人への看護アプローチの基本① 8. 成人への看護アプローチの基本② 9. 健康を脅かす要因と看護 10. 慢性期とともに生きる人を支える看護 11. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 12. 障害のある人の生活とリハビリテーション 13. 最期のときを支える看護 14. 演習 ① 15. 演習 ② | | | | |
| 事前・事後学習について | 成人期は幅広く、人口層が厚く、社会の中で重要な役割を担っています。成人期にある人の看護を考える上で、この授業で学ぶことは基本的かつ重要な部分でもあります。今後の授業や実習に活かせるよう学習し、理解を深めてください。事前に授業計画に沿ってテキストを読み、わからない点は調べるなど自己学習してから授業に臨んでください。事後は学んだことを整理しながら復習し、理解を深めてください。また、意見を求められることも多い授業なので主体的に参加してください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前に授業計画を確認して内容に該当する部分のテキストを読み、わからない言葉等があれば調べてきてください。また、課題が出る場合は、その課題に取り組んできてください。(毎回1時間程度)事後は、学んだことを整理しながら復習し、理解を深めてください。(毎回1時間程度) | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 85 | 到達目標に沿った授業内容の理解度 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 15 | レポートの内容や授業への参加姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 課題については、授業の中で確認したり、それを活用した演習を行いコメントを返していきます。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学 1 医学書院 2026 年度版 国民衛生の動向(当該年度)：厚生労働統計協会 | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介、提示する | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 成人臨床看護論 I N33069 | 前期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 平井 義一・會川 美冬 | | | | |
| 授業の概要 | 健康状態の急激な変化がある急性期および周術期における成人期の人々や家族の特徴について学ぶ。また、疾患や侵襲的治療により生じる影響や看護上の問題について考え、生命維持・回復に必要な看護援助を学ぶ。代表的な疾患の事例や演習を通して、具体的な看護援助の知識と技術について理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 急性期および周術期にある人や家族の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 急性期および周術期にある人に生じる問題が理解できる。 急性期および周術期にある人の看護の視点が理解できる。 周術期における術後合併症や予防のための看護援助が理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある人の特徴と看護援助（総論） 急性の脳・神経機能障害のある患者の看護①（観察の視点・ショック） 急性の脳・神経機能障害のある患者の看護②（クモ膜下出血） 急性の消化機能障害のある患者の看護①（胆石症） 急性の消化機能障害のある患者の看護②（腸閉塞/イレウス） 急性の循環機能障害のある患者の看護①（心筋梗塞） 急性の循環機能障害のある患者の看護②（心筋梗塞） 周術期看護の概論 手術前患者の看護 手術中患者の看護 手術後患者の看護① 手術後患者の看護② 手術後患者の看護③（事例） 手術後患者の看護④（演習） 手術後患者の看護⑤（演習・まとめ） | | | | |
| 事前・事後学習について | 急性期にある人の看護を学ぶにあたり、解剖や病態生理は理解しているものとして授業は進みます。講義内容を確認して、必要となる解剖や病態生理の事前学習をして授業に臨んでください。授業後は、資料やテキストを自分でまとめて理解を深めていく事後学習を必ず行ってください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前に、関連する既習科目(解剖生理や病態生理など)を復習し、疾患について理解を深めてください。また、課題が出ますので取り組んでください。(毎回1時間程度) 事後は、復習して理解を深め確実な知識となるようにしてください。(毎回1時間程度) | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 到達目標に沿った授業内容の理解度 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | レポートの内容と演習への参加姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポートや演習の振り返りをしながら、コメントを返していきます。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経：医学書院 2025年度版 治療薬マニュアル（当該年度）：医学書院 | | | | |
| 参考書 | 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来／病棟における術前看護：医歯薬出版 第4版 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中／術後の生体反応と急性期看護：医歯薬出版 第4版 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 第4版：南江堂 その他、適宜紹介する | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 成人臨床看護論Ⅱ N33070 | 後期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 服部 さゆり・寺山 正真・會川 美冬 | | | | |
| 授業の概要 | 成人期にある人々の特性や成人看護の概念を踏まえた上で、がんと共に生きる患者、終末期にある患者及び家族の特徴を学び、患者や家族が抱える問題や苦痛について理解を深める。また、がんの診断・治療に伴う看護、緩和ケア、終末期の看護について、各段階に応じた具体的看護について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. がんの疫学的動向やがん対策、がん疾患の特徴が理解できる。 2. がんと診断された時から終末期に至るまで、患者の特徴（身体的・精神的・社会的・スピリチュアル）が理解できる。 3. がんと共に生きる患者及び家族に生じる看護上の問題や具体的な看護援助の方法が理解できる 4. 終末期にある患者および家族の特徴と看護、グリーフケアについて理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護学総論（がんの疫学/がん対策/がんの特徴/がんの診断と治療/がん看護） 2. がん患者と家族の特徴と看護 3. がんの治療と看護 4. 集学的治療を受ける患者の看護①（脳腫瘍） 5. 集学的治療を受ける患者の看護②（喉頭がん） 6. 集学的治療を受ける患者の看護③（肺がん） 7. 集学的治療を受ける患者の看護④（胃がん） 8. 集学的治療を受ける患者の看護⑤（子宮がん） 9. 集学的治療を受ける患者の看護⑥（乳がん） 10. 緩和ケア① 11. 緩和ケア② 12. 終末期がん患者と家族に対する看護 13. グリーフケア 14. 学外講師による「緩和ケアの臨床」 15. がん患者の体験 | | | | |
| 事前・事後学習について | 現代、2人に1人ががんで発症し、4人に1人ががんで亡くなっています。がんはほとんどすべての臓器にでき、病態も様々ですが、この授業で取り上げる疾患についてはしっかりと事前学習をし、患者をイメージして授業に臨んでください。事後は資料やテキストを整理しながら理解を深めてください。理解できないところは積極的に質問しましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前に、関連する既習科目（解剖生理や病態生理など）を復習し、疾患について理解を深めてください。また、課題が提示されたときはその課題に取り組んでください。（毎回1時間程度） 事後は、資料やテキストを整理しながら理解を深めてください。（毎回30分～1時間程度） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 到達目標に沿った授業内容の理解度 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | レポートの内容と授業への参加姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 提出されたレポートについては、コメントを返します。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 別巻 がん看護学：医学書院 第3版・別巻 緩和ケア：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉：医学書院 2025年度版 治療薬マニュアル（当該年度）：医学書院 | | | | |
| 参考書 | 経過別成人看護学4 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア：メジカルフレンド社 柳原清子 あなたの知らない「家族」 残された者の口からこぼれ落ちる13の物語：医学書院 その他、適宜紹介する | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 成人臨床看護論Ⅲ N33071 | 前期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 寺山 正真・服部 さゆり・會川 美冬 | | | | |
| 授業の概要 | 成人期にある人々の特性や成人看護の概念を踏まえた上で、慢性疾患により長期にわたってセルフケアが必要となる患者・家族を理解し、その人々に対する看護を学ぶ。循環機能障害、内部環境調節障害、肝機能障害における代表的な疾患の事例を通して看護を具体的に学び理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 慢性疾患を持つことの意味や、慢性疾患患者・家族が抱える問題とその背景について理解できる 2. 授業でとりあげた代表的な疾患を持つ患者の看護の視点が理解できる | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 1. 成人期にある人々が慢性疾患を持つことの意味、慢性疾患患者・家族が抱える問題と背景(総論) 2. 心不全患者の看護 ① (心不全による心身の変化と生活への影響) 3. 心不全患者の看護 ② (事例) 4. 心不全患者の看護 ③ (事例) 5. 不整脈患者の看護 6. 演習(心電図) 7. 慢性腎不全患者の看護 (各病期の患者の特徴と看護の特徴) 8. 慢性腎不全患者の看護 (保存期) (事例) 9. 慢性腎不全患者の看護 (血液透析) (事例) 10. 慢性腎不全患者の看護 (腹膜透析) 11. 慢性腎不全患者の看護 (腎移植) 12. 肝炎患者の看護 13. 肝硬変患者の看護 ① (事例) 14. 肝硬変患者の看護 ② (事例) 15. 肝硬変患者の看護 ③ (事例・まとめ) | | | | |
| 事前・事後学習について | この授業は、成人保健論で既に学んだ成人期にある人々の特性や成人看護の概念を踏まえた上で進めていきます。また、代表的な疾患を取り上げて学習しますが、授業の中で解剖生理や病態生理などその疾患を理解するための時間はありません。つまり、既知知識を活用したり応用したりして看護を考えていくので、授業前に必ず関連する既習科目を復習して授業に参加してください。これらの疾患患者は、実際の臨床の場面で出会うことも多いでしょう。授業後は復習し、理解を深め確実なものとなるよう努めましょう。受け身でなく、自ら考え、意欲を持って学習してください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前に、関連する既習科目(解剖生理や病態生理など)を復習し、疾患について理解を深めてください。また、事例など課題が出ますから、課題に取り組んでください。(毎回1時間～1時間半程度) 事後は、復習して理解を深め確実な知識となるようにしてください。(毎回30分～1時間程度) | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 到達目標に沿った授業内容の理解度 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | レポートの内容や授業への参加姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 課題については、授業で活用したり、コメントを返したりしていきます。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ、成人看護学③ 循環器 医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ、成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ、成人看護学⑤ 消化器 医学書院 2025年度版 治療薬マニュアル(該当年度)：医学書院 | | | | |
| 参考書 | 腎臓病食品交換表 治療食の基準 黒川清監修 医歯薬出版株式会社 写真でわかる透析看護 透析患者の QOL 向上を目指すケア 佐藤エキ子監修 株式会社インターメディアカ 他適宜紹介する | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 成人臨床看護論Ⅳ N33072 | 後期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 會川 美冬・服部 さゆり・寺山 正真 | | | | |
| 授業の概要 | 成人期にある人々の特性や成人看護の概念を踏まえた上で、慢性疾患により長期にわたってセルフケアが必要となる患者・家族を理解し、その人々に対する看護を学ぶ。内分泌機能障害、消化機能障害、糖代謝障害、呼吸機能障害、生体防御機能障害における代表的な疾患の事例を通して看護を具体的に学び理解する。また、事例を交えながら3年次成人看護学実習を視野に入れ、看護診断の学習をする。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 慢性疾患を持つことの意味や、慢性疾患患者・家族が抱える問題とその背景について理解できる 2. 授業でとりあげた代表的な疾患を持つ患者の看護の視点が理解できる | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 1. バセドウ病患者の看護 2. 糖尿病患者の看護 ① (事例) 3. 糖尿病患者の看護 ② (事例) 4. 糖尿病患者の看護 ③ (演習：SMBG/インスリン自己注射) 5. 糖尿病患者の看護 ④ 6. クロウン病患者の看護 7. 喘息患者の看護 8. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 ① (事例) 9. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 ② (事例) 10. SLE 患者の看護 (事例) 11. 看護診断・看護過程 12. 白血病患者の事例を用いた看護過程の展開 ① 13. 白血病患者の事例を用いた看護過程の展開 ② 14. 白血病患者の事例を用いた看護過程の展開 ③ 15. 白血病患者の事例を用いた看護過程の展開 ④ | | | | |
| 事前・事後学習について | この授業は成人臨床看護論Ⅲ同様、既知知識を活用したり応用したりして看護を考えていくので、授業前に必ず関連する既習科目を復習して授業に参加してください。また、前期の授業や基礎実習を通して向上したアセスメント能力を活用し、より深く対象がおかれている状況や看護について考えられるよう努力しましょう。事後学習についても成人臨床看護論Ⅲ同様しっかり学習してください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前に、関連する既習科目(解剖生理や病態生理など)を復習し、疾患について理解を深めてください。また、事例など課題が出ますので、取り組んでください。(毎回1～2時間程度) 事後は、復習して理解を深め確実な知識となるようにしてください。(毎回30分～1時間程度) | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 80 | 到達目標に沿った授業内容の理解度 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 20 | レポートの内容や演習の参加状況 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 課題については、授業で活用したり、課題を使った演習を行います。その際コメントも返していきます。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 2025年度版 治療薬マニュアル(該当年度) 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 看護観察のキーポイントシリーズ 成人内科Ⅰ～Ⅳ 宮崎和子監修 中央法規 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会編 文光堂 糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編 献立例とその応用 日本糖尿病協会・文光堂 食品80キロカロリーガイドブック 香川芳子編 女子栄養大学出版部 外食のカロリーガイド 香川芳子監修 女子栄養大学出版部 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第5版, vol.4 呼吸器 第4版, vol.5 血液 第3版, vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版 他適宜紹介する | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 成人臨床看護論Ⅴ N33073 | 後期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 平井 義一・會川 美冬・服部 さゆり | | | | |
| 授業の概要 | 成人期にある人々の特性や成人看護の概念を踏まえた上で、回復期にある患者のリハビリテーション看護について学ぶ。リハビリテーションを必要とする対象やその家族の状況を理解し、身体的・精神的・社会的な生活上の課題を考える。また、残された機能を使い、生活の再自立あるいは再構築をすることによって社会生活に適応できるための具体的な看護について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション看護の特徴が理解できる。 2. 疾患によって生活の再自立あるいは再構築を必要とする人と家族の身体的・精神的・社会的な特徴が理解できる。 3. 授業で取り上げた疾患や事例を通して具体的な看護援助が理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション期の特徴と看護（総論） 2. 脳梗塞患者の看護 ① 3. 脳梗塞患者の看護 ②（事例） 4. 脳梗塞患者の看護 ③（事例） 5. 高次脳機能障害のある患者の看護 6. ストーマを造設した患者の看護 ① 7. ストーマを造設した患者の看護 ②（特別講師） 8. 大腿骨頸部骨折患者の看護 ① 9. 関節リウマチ患者の看護 10. 変形性膝関節症患者の看護 11. 脊髄損傷患者の看護 ① 12. 脊髄損傷患者の看護 ② 13. ストーマを造設した患者の看護 ③（演習：パウチ交換） 14. 大腿骨頸部骨折患者の看護 ②（事例） 15. 大腿骨頸部骨折患者の看護 ③（事例） | | | | |
| 事前・事後学習について | 疾患によって生活の再自立あるいは再構築を必要とする人のリハビリテーション看護を学ぶためには、疾患や病態生理などの基本的な知識が必要となります。授業で取り上げる疾患については、しっかりと事前学習し授業を受けてください。また、「ストーマ造設患者の看護」と「大腿骨頸部骨折患者の看護」については、講義の内容を理解したうえで課題に取り組むために、講義と講義の間に時間を設けています。講義の内容を活かして計画的に取り組んでください。授業後は、資料やテキストを自分で整理して理解を深め、理解できないことは積極的に質問してください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前に、関連する既習科目（解剖生理や病態生理など）を復習し、疾患について理解を深めてください。また、事例や演習のなど課題が出ますので、取り組んでください。（毎回1時間程度）事後は、復習して理解を深めたり確実な知識となるようにしてください。（毎回1時間程度） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 到達目標に沿った授業内容の理解度 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | レポートの内容と授業への参加姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポートや演習の振り返りをしながら、コメントを返していきます。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器：医学書院 2025年度版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝：医学書院 2025年度版 治療薬マニュアル（当該年度）：南江堂 | | | | |
| 参考書 | 生活の再構築を必要とする人の看護Ⅰ：中央法規 生活の再構築を必要とする人の看護Ⅱ：中央法規 その他、適宜紹介する | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 3 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 成人看護学実習 N34074 | 通年 | 実習 | 4 | |
| 担当教員 | 服部 さゆり・平井 義一・寺山 正真・會川 美冬 | | | | |
| 授業の概要 | 目的、目標の達成に向けて、学内演習、病棟実習、病棟外(人間ドック、外来、透析室)実習を行う。本実習は実務家教員の授業で、看護師免許を有する教員が担当する科目である。看護に関する実務家としての視点、臨床での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。 | | | | |
| 到達目標 | 目的: 1. あらゆる健康状態の成人期にある対象の特徴を理解し、各健康段階に応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得する。 2. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割と責任を理解し、関連職種との連携および協働について学ぶ。 3. 対象とのかかわりを通して、看護倫理について深く考え、倫理に適った行動をとることができる。 4. 実習での学びを通して、自らの看護観を深めることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 授業計画 | 1. 病棟実習では、1～2名の入院患者を受け持ち、既習の知識・技術を活用したり新たな学習をしたりして、患者の全体像を把握し、患者にあった看護を考え、指導のもと実践し、評価する。 2. 病棟外(人間ドック、外来、透析室)実習では、主に見学実習を通して学ぶ。 実習目標 1) 身体的・精神的・社会的側面から対象のおかれた状況を理解できる 2) その場の患者の状況から判断し、適切な援助が考えられる 3) 看護過程に基づき、適切で計画性のある看護援助ができる 4) 成人期にある対象の健康管理と健康診査の意義について学ぶ 5) 社会生活を営みながら外来を受診する人の自己管理と看護の役割について学ぶ 6) 社会生活を営みながら外来透析治療を受けている人の自己管理と看護の役割について学ぶ 7) 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割と責任を理解し、関連職種との連携および協働について関心をもって主体的に学ぶことができる 8) 対象とのかかわりを通して、看護倫理について深く考え、常に相手を尊重し倫理に適った行動をとることができる 9) 看護学生としての責任・あるべき姿を自覚して行動するとともに、自らの看護観を深めることができる詳細については実習要項参照。 | | | | |
| 事前・事後学習について | 実習場所には、幅広い年齢層、様々な疾患の方がいらっしゃいます。受け持つ患者に良い看護を責任持って提供するためには、対象を理解し良い人間関係を築くだけでなく、看護過程を展開しながら日々の看護に活かしていく必要があります。実習中は、既習の知識・技術を活用したり新たな学習をしていく必要があるため、既習の知識・技術を活かせるように準備してから実習に臨んでください。また、常に自ら考え、予習・復習し、分からないことを積極的に質問するなど、主体的に行動してください。さらに自分の心身の健康管理もしっかりしましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 患者を受け持つ上で必要な知識・技術に関する学習をしっかり行ってください。また、安全・安楽な援助が提供できるよう、計画を立てるだけでなく、実際の場面を想像し技術練習したりイメージトレーニングをしたりしておきましょう。日々の看護を振り返り、評価した上で翌日の計画に反映させてください。記録物は助言を受けながら進めてください。(1日4-5時間程度) | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 100 | 規定の出席時間と評価表により評価する。詳細は実習要項を参照すること。 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 実際の援助場面については、振り返りをしたり直接指導・助言したりします。記録物については、コメントを記入したり、直接口頭で助言・指導したりします。 | | | | |
| 使用テキスト | 特に指定しない | | | | |
| 参考書 | 適宜指示する | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 老年保健論 N32075 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 矢澤 玲子 | | | | |
| 授業の概要 | 高齢者を幅広い視野から広くかつ深く理解します。現代社会を生きる高齢者にとって、社会との接点は不可欠です。社会との接点とは具体的にどんなことが挙げられるのか、高齢者は実際にどんな生活をしているのか学びます。また高齢者が生活をしていく上での楽しみ、生きがい、困難などについて幅広く理解し、その生活を支えるための制度や支援、看護の基本について学びます。高齢者の生きてきた歴史を通して、人間の一生を理解することを目指します | | | | |
| 到達目標 | ①高齢者の身体的、精神的、社会的特徴を学び、高齢者理解を深める ②高齢者をとりまく社会や社会資源を知り、高齢者看護の基本が理解できる ③具体的事例を通じて高齢者の歴史や現状が把握できる | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 1. 老いるということ、老いを生きるということ：授業の全体像 2-3. 現代高齢者の姿：シニア大学「異世代交流」を通じて 4-5. 現代高齢者の健康と課題：シニア大学生と一緒に学び、考える 6. 超高齢社会と社会保障①：超高齢社会の統計的輪郭 7. 超高齢社会と社会保障②：保健医療福祉の動向 高齢者の権利擁護 8. 老年看護のなりたち 9. 高齢者のヘルスアセスメント 10. 「超高齢社会」における高齢者医療、高齢者の生理的特徴 11. 老年症候群 12. 高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 13. 高齢者疑似体験 14. 現代を生きる高齢者の過去・現在・未来と看護の役割 15. 総括 | | | | |
| 事前・事後学習について | 高齢者を取り巻く状況は学ぶことが多くあります。したがって、授業に臨む前には必ずテキストに目を通し予習をしてきてください（事前学習）。さらに授業後は習った内容を必ず復習してください（事後学習）。高齢者の必要な概念や専門用語などは反復学習をしないと正確に理解することは困難です。専門職となるためにしっかり習得してください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 毎回の授業レジュメを事前に配付しますので、確認・予習をしてください（1時間程度） 授業後は必ず復習をしてください（30分程度） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 60 | 授業内容の習熟度（到達目標①②） | | |
| | 実践 | 10 | 参加時の取り組み、発言等（①②③） | | |
| | レポート | 30 | 課題の内容（③） | | |
| その他 | 0 | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題は確認・添削し返却します。場合によっては再提出を求めることもあります。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 2026年版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 2026年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 特に指定しない | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 老年臨床看護論 I N33076 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 矢澤 玲子 | | | | |
| 授業の概要 | 高齢者看護に必要なとなる高齢者の特徴、疾患、アセスメント、援助方法、実践を生活場面に即して学びます。とくに高齢者看護に必要な知識については、専門用語とその概念の理解を深化させます。さらに援助については、基本をもとに個別的な援助ができるよう、事例をまじえながら学習をしていきます。 | | | | |
| 到達目標 | ①1年次までに学んだ高齢者看護における自分の課題を見出せる。 ②生活場面に即して、高齢者を支えるための基本的な看護を学ぶことができる。 ③アセスメントをもとに具体的援助を考えることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 1. 日常生活を支える基本的活動と看護 2. 食事・食生活のアセスメント 3. 食事・食生活を支える看護 4. 排泄援助の基本とアセスメント 5. 排泄を支える看護 6. 清潔のアセスメント 7. 清潔を支える看護 8. 生活リズムを支える看護 9. コミュニケーションの特徴とアセスメント 10. コミュニケーションを支える看護・セクシュアリティのアセスメントと看護 11. 高齢者の日常生活援助技術：排泄援助の基本 12. 高齢者の日常生活援助技術：排泄援助の実践 13. 身体疾患のある高齢者の看護 14. 認知症の看護：病態・症状の理解 15. 認知症・うつ病・せん妄の看護 | | | | |
| 事前・事後学習について | 自分の課題を達成できるよう、目的意識をもって授業に取り組みましょう。授業前に講義内容を確認し、教科書を読んで臨んでください。授業後は、テキストや授業資料で内容を振り返り、理解を深めましょう。随時復習・確認をすることで知識・技術を積み上げていきましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 予習：シラバスの内容に沿って教科書の該当頁を読んでおいてください（60分程度）。 復習：教科書や授業中配布したレジュメを振り返り、理解を深めてください（60分程度）。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 80 | 試験（到達目標①②③） | | |
| | 実践 | 5 | 演習時の取り組み状況（②③） | | |
| | レポート | 10 | 課題に対する考え（②③） | | |
| | その他 | 5 | 参加時の発言、積極性、態度（①②） | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 学びや自己の課題を臨床で生かせるように、レポートの返却を行います。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 2025年版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 2025年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 老年臨床看護論Ⅱ N33077 | 後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 矢澤 玲子 | | | | |
| 授業の概要 | 老年臨床看護論Ⅰにつづいて、高齢者に必要となるアセスメント、援助方法、実践を臨地に即して具体的に学びます。高齢者看護に必要な知識については、専門用語とその概念の理解を深化させます。さらに援助については、個別的な援助ができるよう、事例をまじえながら3年次実習を視野に入れた学習をしていきます。 | | | | |
| 到達目標 | ①前期までに学んだ老年看護の知識・技術における自分の課題を見出せる。 ②生活場面に即して、高齢者の身体状況と日常生活行動をその人の立場から考えることができる。 ③②をアセスメントし具体的援助（生活の処方箋）を考えることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者看護のための知識と技術 自分の課題 2. 高齢者看護におけるアセスメント：KOMI理論の概要・疾病論・目的論 3. 高齢者看護におけるアセスメント：KOMI理論の対象論・方法論 4. 高齢者看護におけるアセスメント：KOMI理論の方法論・実践 5. 高齢者看護の展開：KOMI理論-情報の整理 6. 高齢者看護の展開：KOMI理論-アセスメント・課題の抽出・援助計画 7. 治療を必要とする高齢者の看護：検査・薬物療法 8. 治療を必要とする高齢者の看護：手術療法・リハビリテーション・入院治療 9. エンドオブライフケア：高齢者と死 10. エンドオブライフケア：意思決定への支援 11. エンドオブライフケアの実践 12. 生活・療養の場における看護 13. 高齢者を含む家族の看護 14. 高齢者看護に有効な療法 15. 総括 | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習として老年保健論、老年臨床看護論Ⅰでの授業資料と内容を振り返ってください。1講目に振り返りをして自分の課題を明確にします。授業前に講義内容を確認し、教科書や事前課題で学習をしてから授業に臨んでください。授業後は、自らの課題を達成できるように復習をして知識を深めましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 予習：シラバスの内容を確認し、教科書の該当頁を読んでください（60分程度）。 復習：教科書や授業中配布するレジュメを振り返り、振り返り問題を解くことで、授業内容の理解を深めてください（60分程度）。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 試験（到達目標①②③） | | |
| | 実践 | 5 | 演習時の取り組み状況（到達目標②③） | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 5 | 参加時の発言、積極性、態度（到達目標①②） | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 学びや課題を臨床で生かせるように、レポートの返却を行います。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 2025年版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 2025年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版 医学書院 2020 亀井智子編 根拠と事故防止からみた老年看護技術 第4版 医学書院 2024 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 3 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 老年看護学実習 N34078 | 通年 | 実習 | 4 | |
| 担当教員 | 矢澤 玲子 | | | | |
| 授業の概要 | <p>老年看護学実習では①老年期にある人の加齢に伴う変化の特徴を理解し、健康レベルおよび生活機能レベルに応じた QOL を高めるための看護実践能力を養う、②高齢者の保健医療福祉の現状や連携の必要性を理解し、その中で期待される看護師の役割を理解する、③多くの高齢者との関わりを通して老年観を養うことを目的とし、さらに下位目標としての到達目標を 4 点置いて、臨地での実習を行います。</p> <p>本実習は実務家教員の授業で、看護師免許を有する教員が担当する科目である。 看護に関する実務家としての視点、臨床での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | <p>①対象の健康状態、日常生活行動をアセスメントし必要な援助が判断できる ②対象に応じた援助ができる ③保健・医療・福祉の現状や連携の必要性を理解し、看護師の役割について述べるができる ④高齢者とのあらゆる関わりを通して自己の老年観を深めることができる</p> | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 授業計画 | <p>4 週間（14 日間）において、以下の実習内容を展開・実施する。 施設および病院での実習を 4 週間行う。主なスケジュールは以下とする</p> <p>1 週目 施設実習：老健）高齢者理解、看護師の役割、多職種連携／病棟）情報収集、同意確認 学内実習：受け持ち決定、実習目標作成、事前学習</p> <p>2 週目 施設実習：プラン作成・実施・修正、援助技術の習得、カンファレンス</p> <p>3 週目 施設実習：プラン作成・実施・修正、援助技術の習得、カンファレンス、中間評価</p> <p>4 週目 施設実習：プラン作成・実施・修正、援助技術の習得、最終カンファレンス 学内実習：カンファレンス、まとめ・評価・記録提出</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>老年看護学実習では、高齢者理解と生活にもとづいた援助が不可欠になります。身の回りの生活の援助ができるよう、まず自分ことが一通りできるようにしてきてください（事前学習）。その上で、看護の知識と技術が必要となります。これまで学内で学んできたことを振り返った上で参加しましょう（事前学習）。さらに実習後は知識や技術が本当に定着したか確認し、あいまいな場合は教員に自発的に指導を受けましょう（事後学習）。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 実習前に 1～2 年次に学んだことをもとにノート（手書き）を作成してください（計 2 週間程度）。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 100 | 実習状況および記録物にて総合的に評価する（到達目標①②③④） | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 評価対象である実習記録は確認してコメントを記載します。その実習記録は個々に説明をして返却します。 | | | | |
| 使用テキスト | 1、2 年生で使用したテキストを使用する | | | | |
| 参考書 | 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第 4 版 医学書院 2020 亀井智子編 根拠と事故防止からみた老年看護技術 第 4 版 医学書院 2024 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|---------|---------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 小児保健論 N32079 | 1 年次・後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 神澤 絢子 | | | | |
| 授業の概要 | 小児の健康について子どもを取り巻く環境と照らし合わせて捉え、子どもの権利を尊重した援助を考え、親の役割と影響を学ぶ。小児の成長・発達を各段階で学び、すべての健康レベルの子どもを対象とした小児看護の役割と機能を理解することを目標とする。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・小児看護における倫理が理解できる。 ・小児の成長発達が理解できる。 ・状況に応じた小児看護の役割と機能が理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴と理念（小児看護の目ざすところ、小児と家族の諸統計）、家族の特徴とアセスメント 2. 小児看護の特徴と理念（小児看護の変遷、小児看護における倫理、小児看護の課題） 3. 子どもの成長・発達 4. 新生児 5. 乳児 6. 幼児 7. 学童 8. 学童/振り返り 9. 思春期・青年期の子ども 10. 子どもと家族を取り巻く社会 11. 症状を示す子どもの看護（不きげん、啼泣、痛み、発熱） 12. 症状を示す子どもの看護（呼吸困難、チアノーゼ、ショック） 13. 症状を示す子どもの看護（意識障害、痙攣） 14. 症状を示す子どもの看護（嘔吐、下痢、便秘、脱水） 15. 症状を示す子どもの看護（浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸） | | | | |
| 事前・事後学習について | テキストに目を通してから、授業に臨みましょう。 授業内容のポイントをまとめ、復習をして理解を深めましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>予習：シラバスの内容を確認し、テキストに目を通してきてください。事前に配布したレジュメの穴埋めを、テキストや他の文献を使って確認しながら完成させてください。（60 分程度）</p> <p>復習：テキストと授業資料を合わせてポイントを確認し、個々で工夫をしながらまとめてください。課題を提示することもあります。（60 分程度）</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | 授業態度・取り組み状況 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>テキストと配布資料を用いて講義を行います。テキストを必ず持参してください。パワーポイントで書き込み資料への内容を提示しますが、スライドをスマートフォンやカメラで撮影することは禁止します。書き込む時間は確保するので、必ず授業時間内に書き込んでください。</p> <p>課題を提示された場合は必ず期日までに実施すること。</p> | | | | |
| 使用テキスト | 奈良間美保：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 2026 年版 医学書院（発達心理学と共用） | | | | |
| 参考書 | 看護学テキスト NiCE 小児看護学Ⅰ 小児看護概論・小児看護技術、二宮啓子・今野美紀編、南江堂、2025 改訂第 5 版 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 小児臨床看護論 I N33080 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 萩元 緑朗 | | | | |
| 授業の概要 | 健康障害のある小児及びその家族の状態や影響を理解し、小児看護に必要な問題解決の方法と看護の実践を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 小児に特有な疾患の病態・症状・診断・治療と看護が理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 2. ハイリスク新生児の看護 3. 代謝性疾患と看護 4. 内分泌疾患と看護 5. 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護 6. 感染症と看護 7. 呼吸器疾患と看護 8. 循環器疾患と看護 9. 消化器疾患と看護 10. 血液・造血器疾患と看護 11. 悪性新生物と看護 12. 腎・泌尿器・生殖器疾患と看護 13. 神経疾患と看護 14. 皮膚疾患・眼疾患と看護 15. 耳鼻咽喉疾患と看護 | | | | |
| 事前・事後学習について | 教科書に目を通してから、授業に臨みましょう。 授業内容のポイントをまとめ、復習をして理解を深めましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業前に教科書に目を通しましょう（1時間程度） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | 授業態度・取り組み状況 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 授業内容のポイントをまとめ、復習をして理解を深めましょう。授業内容の質問については対応しません。 | | | | |
| 使用テキスト | 丸 光恵 著者代表, 系統看護学講座専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学②, 2025 年版 医学書院 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|---------|---------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 小児臨床看護論Ⅱ N33081 | 2 年次・後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 神澤 絢子 | | | | |
| 授業の概要 | 健康障害のある小児及びその家族の状態や影響を理解し、小児看護に必要な問題解決の方法と看護の実際を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた小児看護の役割と機能が理解できる。 ・健康障害のある小児及びその家族の状態や影響を理解し、小児看護に必要な問題解決の方法と看護の実際を理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院中の子どもと家族の看護 2. 外来における子どもと家族の看護 検査・処置を受ける子どもの看護 3. 在宅療養する子どもと家族の看護 成人期に移行する慢性疾患をもつ子どもと家族の看護 4. 災害時の子どもと家族の看護 5. 救急外来における子どもと家族の看護 集中治療を受ける子どもと家族の看護 6. 周手術期の子どもと家族の看護 薬物療法を受ける子どもと家族の看護 7. 終末期にある子どもと家族の看護 8. 終末期にある子どもと家族の看護/振り返り 9. 小児がんの子どもと家族の看護 10. 先天性疾患をもつ子どもと家族の看護 11. 新生児・低出生体重の子どもと家族の看護 12. 隔離が必要な子どもと家族の看護（感染症） 13. リハビリテーションにおける子どもと家族の看護（小児リハビリテーション・ポジショニング） 身体障害のある子どもと家族への支援 14. 発達障害のある子どもと家族への支援 心の問題を抱える子どもと家族への支援 15. 子どもの虐待と看護 | | | | |
| 事前・事後学習について | テキストに目を通してから、授業に臨みましょう。 授業内容のポイントをまとめ、復習をして理解を深めましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 予習：シラバスの内容を確認し、テキストに目を通してください（60分程度） 復習：テキストと授業資料を合わせてポイントを確認し、個々で工夫をしてまとめてください。課題を提示することもあります。（60分程度） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 90 | 到達目標に沿った知識の確認 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | 授業態度・取り組み状況 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | テキストと配布資料を用いて講義を行います。テキストを必ず持参してください。パワーポイントで書き込み資料への内容を提示しますが、スライドをスマートフォンやカメラで撮影することは禁止します。書き込む時間は確保するので、必ず授業時間内に書き込んでください。 課題を提示された場合は期日までに必ず実施すること。 | | | | |
| 使用テキスト | 奈良間美保著者代表：系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 2025 年版 医学書院(小児保健論と同じ) 奈良間美保著者代表：系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 2025 年版 医学書院 (小児臨床看護論 I と同じ) | | | | |
| 参考書 | 今野美紀・二宮啓子：看護学テキスト NiCE 小児看護学Ⅱ小児看護支援論、南江堂、2022 第 4 版 二宮啓子・今野美紀：看護学テキスト NiCE 小児看護学Ⅰ小児看護学概論・小児看護技術、南江堂、2022 第 4 版 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 3 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 小児看護学実習 N34082 | 通年 | 実習 | 2 | |
| 担当教員 | 神澤 絢子 | | | | |
| 授業の概要 | <p>1. 保育に対する理解を深めると共に、小児の特性を知り個々の成長発達に応じた援助・指導を学び、理解する。</p> <p>2. 健康障害のある小児の状況を把握し、健全な成長発達・健康回復への援助・指導を行うために必要な知識・技術・態度を修得する。</p> <p>本実習は実務家教員の授業で、看護師免許を有する教員が担当する科目である。</p> <p>看護に関する実務家としての視点、臨床での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・健全な子どもの成長・発達を理解し、各発達段階における基本的な生活習慣・遊び・行動が理解できる。 ・小児看護の基本となる保育の役割が理解できる。 ・健康障がいがある子どもの状況を把握し、健康回復のために適切な援助・指導ができる。 ・入院生活や健康障がいがある子どもと家族におよぼす影響を理解し、適切な援助・指導ができる。 ・安全や感染防止を考慮した援助・指導、受け持ち患児の権利に配慮した関わりができる。 ・実習を通して自己の子ども観、小児看護観を形成できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 授業計画 | <p>1. 病棟実習 (2日間) 事例展開 (実習棟) (2日間) 飯田市立病院 学内演習 (1日)</p> <p>(1) 健康障害がある小児の状況を把握し、健康回復のための適切な援助・指導</p> <p>(2) 入院生活や健康障害が小児と小児を取り巻く人々におよぼす影響を理解した適切な援助・指導</p> <p>(3) 小児看護に必要な診察・検査・処置時における看護者の役割を理解した適切な援助・指導</p> <p>(4) 安全や感染防止を考慮した援助・指導</p> <p>(5) 受け持ち患児の権利に配慮した関わり</p> <p>(6) 実習を通して自己の小児看護観を形成する</p> <p>2. 保育園実習 (3日間) 慈光保育園 学内演習 (2日間)</p> <p>(1) 保育園の概要</p> <p>(2) 保育園の環境・設備について、乳幼児の成長発達・安全のための配慮</p> <p>(3) 各発達段階における基本的な生活習慣・遊び・行動の理解</p> <p>(4) 受け持ち保育士と共に保育活動に参加し、日常生活の援助の実施</p> <p>(5) 小児看護の基本となる保育の役割の理解</p> <p>(6) 実習を通して自己の子ども観を形成する</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>実習前学習 (学年末休業中の課題と振り返り・4月オリエンテーションの課題) をしっかり行って積極的に実習に臨み、実践力を身につけましょう。子どもたちと楽しく遊びましょう。小児看護学実習は、感染しやすい環境ですので、自己の健康管理に十分留意しましょう。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>事前学習の見直しや実習内容の日々の振り返り、事例患児のアセスメントを行い、臨地実習での学びにつなげられるように準備してください。記録に関しては、助言を受けながら進めてください。</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 100 | 実習前学習 事前演習 実習内容 実習記録 レポート | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>学年末休業中の課題は、実習前週にコメントをして返却し、実習中にその課題を使用できるようにします。</p> <p>実習中は、教員が個別で指導するため、指導内容を把握したうえで記録用紙に反映できるように個々で関わっていきます。</p> | | | | |
| 使用テキスト | 2026年度 臨地実習要項 | | | | |
| 参考書 | <p>「小児看護学概論・小児看護技術」二宮啓子・今野美紀編、南江堂、2022改訂第4版。</p> <p>「発達段階からみた小児看護過程」、浅野みどり・杉浦太一・大村知子編集、医学書院、2022第4版。</p> <p>「系統看護学講座小児臨床看護各論」、奈良間美保他、医学書院、2024第14版。</p> | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 母性保健論 N32083 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 西村 理恵 | | | | |
| 授業の概要 | 母性看護の基盤となる概念および対象を取り巻く環境・法律・制度について理解する。あわせて女性のライフサイクル各期の特徴と看護のあり方を学び、母性看護の基盤を形成する。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基盤となる概念を理解し説明できる 母性看護の対象である女性・母子を取り巻く環境について理解する 女性のライフサイクルの各期の特徴と健康課題を把握する 女性のライフサイクル各期の健康課題に応じた看護について説明できる | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の対象を取り巻く環境や社会①母子を取り巻く環境、母子保健の動向 母性看護の対象を取り巻く環境や社会②妊娠期からの切れ目ない支援に関する施策 母性看護の対象を取り巻く環境や社会③女性の健康支援に関する法律や施策 母性看護の基盤となる概念①リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 母性看護の基盤となる概念②性差と健康、性の多様性 母性看護の基盤となる概念③母性・父性・家族、女性や母子へのケア 母性看護の対象理解：性と生殖に関する解剖・生理① 母性看護の対象理解：性と生殖に関する解剖・生理② 母性看護に必要な看護技術 女性のライフサイクル各期における看護：プレコンセプションケア 女性のライフサイクル各期における看護：思春期・女性の健康課題①月経異常、性感染症 女性のライフサイクル各期における看護：思春期・女性の健康課題②不妊症・生殖補助医療 女性のライフサイクル各期における看護：思春期・女性の健康課題③暴力被害・人工妊娠中絶 女性のライフサイクル各期における看護 更年期・老年期 まとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：指定されたテキストを読み、内容の把握に努めること。 事後学習：授業後に提示する事後課題に取り組み、授業内容を振り返ることで、知識の定着を図る。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各回の授業内容を確認し、1時間程度の予習を行うことを奨励する。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 85 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 15 | 事後課題 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 受講上の注意点：講義内容は、講義の進行状況により、順番を変更することがある。 課題のフィードバック：定期試験採点後の内容については、希望に応じて個別に提示する。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 15 版 医学書院 2026 年 | | | | |
| 参考書 | 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 15 版 医学書院 2026 年 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 16 版 医学書院 2025 年 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|----------------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 母性臨床看護論 I N33084 | 前期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 塩澤 綾乃 | | | | |
| 授業の概要 | 正常妊娠および分娩における妊産婦の身体的特性と心理・社会的特性を理解し、妊産婦への看護を学ぶ。また、妊娠期および分娩期の異常とその看護について学習する。 妊婦診察法を見学および実施することにより、実践に必要な看護技術を学習する。 | | | | |
| 到達目標 | 妊娠期・分娩期にある女性の身体的・心理的・社会的特性の正常および異常と必要な看護を理解できる。 妊娠期の事例の分析により妊婦の状態を判断し、必要な看護援助計画を立案できる。 分娩期の正常経過および異常と必要な看護を理解できる。 妊娠期の看護を実践するために必要な看護技術を習得できる。 妊娠期・分娩期のアセスメント方法が理解できる | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の成立と胎児の発育 妊婦の身体的変化 2. 妊婦の心理・社会的変化 妊婦健診 3. 妊婦の健康管理と保健指導 4. 妊娠期の異常とその看護 1 5. 妊娠期の異常とその看護 2 6. 妊婦と胎児のアセスメント 1 7. 妊婦と胎児のアセスメント 2 8. 演習 レオポルド触診法、児心音聴取、分娩監視装置の装着 (NST) 9. 分娩の定義 分娩の 3 要素 10. 正常分娩の経過 産婦の心理・社会的変化 11. 分娩各期の看護 12. 分娩期の異常とその看護 1 13. 分娩期の異常とその看護 2 14. 産科処置と産科手術 分娩期のアセスメント 15. 分娩期のアセスメント | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前に教科書を読み、用語を調べておいてください。 ワークシートの内容をグループでシェアすることがあるため、必ず予習を行ってきてください。 わからない部分はそのままにしないように、調べたり質問したりしてください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内で配布するワークシートを予習・復習に活用し、毎回 30 分～1 時間程度学習に取り組んでください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 70 | 妊娠期・分娩期の経過および看護が理解できる (異常を含む) | | |
| | 実践 | 15 | 演習・事前課題の取り組み状況、対象との関わり方 | | |
| | レポート | 15 | 妊娠期のアセスメントができる レポート課題の取り組み状況と到達度 | | |
| その他 | 0 | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却を行います。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 | | | | |
| 参考書 | 必要時、講義中に示す | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|----------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 母性臨床看護論Ⅱ N33085 | 後期 | 講義・演習 | 1 | |
| 担当教員 | 塩澤 綾乃・中山 美香 | | | | |
| 授業の概要 | 産褥・新生児期における身体的特性、心理・社会的特性を理解し、看護および実践に必要な看護技術について学習する。また、褥婦および新生児の異常とその看護について学ぶ。ウェルネスの視点で産褥期・新生児期の事例の分析を行い看護計画を立案することで、具体的な看護の理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | 産褥期女性の身体的・心理的・社会的特性を理解し、必要な看護を理解できる。 新生児の身体的・生理的特徴を理解し、必要な看護を理解できる。 母子相互の関係を理解できる。 産褥期・新生児期の看護実践に必要なウェルネス看護過程の展開方法と看護技術を習得できる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥経過および褥婦のアセスメントと看護 2. 褥婦のアセスメントと看護 2 3. 産褥期の異常とその看護 4. 新生児の定義・分類 新生児の特徴 5. 新生児の母体外生活への適応と生理的経過 6. 新生児のアセスメントと看護 7. 新生児の異常とその看護 8. ウェルネス看護過程の展開 9. 褥婦・新生児の事例による看護展開 10. 褥婦・新生児の事例による看護展開 11. 褥婦・新生児の事例による看護展開 12. 褥婦・新生児の事例による看護展開 13. 褥婦・新生児の事例による看護展開 14. 褥婦・新生児の事例による看護展開 15. 演習 新生児への援助：観察、沐浴、児計測 | | | | |
| 事前・事後学習について | 教科書を中心とした予習、授業資料、教科書を中心とした復習を行い理解を深める必要があります。自己学習をすすめる上で疑問な点は、講義の中で質問し確認してください。講義中に視聴した視聴覚教材の貸し出しもできますので、活用してください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・褥婦に関しては、シラバスを確認しテキストに目を通してきてください。(1時間程度) ・新生児に関しては、受講の1週間前に穴埋め式のレジメを配布するため、その箇所の教科書を読み、わかる部分の記載を行ってきてください。(1時間程度) ・指示された演習前課題を行い、演習に臨んでください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 70 | 産褥期・新生児期に必要な看護の理解度 | | |
| | 実践 | 10 | 演習の取り組み状況、対象との関わり方 | | |
| | レポート | 20 | 産褥期・新生児期における看護過程の理解度 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する質問に対し適宜対応します。 課題を提示された場合は期日までに必ず実施し提出すること。 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院 2025年第14版 | | | | |
| 参考書 | 太田操著：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社 2024年第4版 新訂第2版 写真でわかる 母性看護技術 アドバンス インターメディカ 2026年 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|---------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 3 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 母性看護学実習 N34086 | 通年 | 実習 | 2 | |
| 担当教員 | 西村 理恵・塩澤 綾乃・中山 美香 | | | | |
| 授業の概要 | <p>妊娠期・分娩期・産褥期にある女性および新生児の特徴を理解し、必要な援助を実施する。母性看護の実践に必要な知識・技術・態度を習得するとともに、母性看護の役割と責任を学ぶ。</p> <p>本実習は実務家教員の授業で、看護師・助産師免許を有する教員が担当する科目である。</p> <p>看護に関する実務家としての視点、臨床での経験を交えて授業展開をしていく。</p> | | | | |
| 到達目標 | <p>妊娠期の経過とその時期に適した援助を理解し、妊婦に関わることができる。</p> <p>分娩の経過と必要な援助を理解する。</p> <p>産褥経過と新生児の胎外生活適応過程を理解できる。</p> <p>受け持ち褥婦および新生児の状態を把握し、看護計画を立案後必要な援助が実践できる。</p> <p>看護職として守るべき倫理について理解し、実習を通して自己の母性看護観を深めることができる。</p> | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 授業計画 | <p>産科外来実習 妊婦健診・保健指導を通して、妊婦の健康管理を学習する。</p> <p>分娩室実習 分娩経過を見学し、産婦の身体的・心理的变化を理解する。 産婦への援助の実際を学習する。</p> <p>産科病棟実習 母子（褥婦・新生児）を受け持ち、看護過程の展開を学習する。 褥婦・新生児への援助の実際を学習する。 個別退院指導の実際を学習する。</p> <p>集団指導見学 母親学級、退院指導（産褥・育児）を見学し、方法と意義を学習する。</p> <p>レポート 母性看護学実習における学び</p> <p><詳細は実習要項参照></p> | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>サブノートを作成する。</p> <p>事前学習を行う。</p> <p>母性看護に必要な技術を十分に練習してから実習に臨む。</p> <p>記録を書くことで、学びを定着させる。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>実習に必要な知識と技術の再確認を行う。</p> <p>最善の状態を実習に臨めるよう自己管理をする。</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 50 | 実習への取り組み状況、対象との関わり方 | | |
| | レポート | 50 | 実習記録・レポート、母性看護の理解度 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>実習要項を読み、実習内容を確認しておく。</p> <p>実習中の記録に対しては、毎回アドバイスを言い返却する。</p> <p>実習終了後に提出された記録物は、担当教員のコメントを入れて返却する。</p> | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|--|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 精神保健論 N32087 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 畠田 盛光・岩崎みすず | | | | |
| 授業の概要 | 精神保健福祉の考え方や概要、精神保健福祉の歴史の変遷や関連する法律と施策を幅広く学ぶ。精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術を知り、地域で暮らす精神障害者の生活体験や思いを傾聴し、地域生活支援のあり方を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉の考え方や概要を理解する。 2. 精神保健福祉の歴史の変遷や関連する法律と施策を理解する。 3. 精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術を理解する。 4. 地域で暮らす精神障害者の生活体験や思いを傾聴し、地域生活支援のあり方について自分の考えをまとめることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、人々の暮らしと精神保健福祉 2. 精神保健福祉の歴史 3. 精神保健福祉に関する法律と施策 4. 精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術①：精神障害の予防のために（一次予防） 5. 精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術②：早期の対応と地域生活をつなぐために（二次予防） 6. 精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術③：能力の再構築と再発防止のために（三次予防） 7. 地域移行支援・地域生活支援の基礎①：地域移行支援・地域生活支援の重要性 8. 地域移行支援・地域生活支援の基礎②：地域移行支援・地域生活支援の基礎知識 9. 地域移行支援・地域生活支援の展開①：早期退院支援と退院後の地域生活支援 10. 地域移行支援・地域生活支援の展開②：長期入院患者の地域移行支援・地域生活支援の展開 11. 地域移行支援・地域生活支援の展開③：地域生活の中断を防ぐための支援の展開 12. 特定の状況に対する精神保健福祉①：貧困と精神保健福祉、障害者の虐待と精神保健福祉、物質依存と精神保健福祉 13. 特定の状況に対する精神保健福祉②：子どもの虐待と精神保健福祉、引きこもり・不登校と精神保健福祉 14. 地域で暮らす精神障害者の生活体験の理解①：特別講師（特定非営利活動法人はらっぱの会・理事長） 15. 地域で暮らす精神障害者の生活体験の理解②：特別講師（同上・利用者）、課題レポート作成 | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：授業範囲に該当する使用テキストのページを予習して講義に臨みましょう。 事後学習：毎回授業で配付するレジュメ資料の復習を行いましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 学習時間：使用テキストの通読は、60 分程度行ってください。レジュメ資料の振り返りは、60 分程度行ってください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 80 | 到達目標に沿った知識の確認を行う。 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 20 | 地域で暮らす精神障害者の生活体験を理解し、地域生活支援者と当事者の話から考える。 | | |
| その他 | 0 | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 授業では、毎回配付するミニレポートに要点をまとめ、授業後に提出します。 特別講義では、地域で暮らす精神障害者の生活体験の理解①②の課題レポートを記入し、授業後に提出します。 | | | | |
| 使用テキスト | ・末安民生：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉、第 4 版【電子版】、医学書院、2025。 | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎、第 6 版【電子版】、医学書院、2025。 ・武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開、第 6 版【電子版】、医学書院、2025。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 精神臨床看護論 I N33088 | 前期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 鳶田 盛光・岩崎みずす | | | | |
| 授業の概要 | 我が国の精神障害者の現状（関連する法律、制度などを含む）や主な精神症状と精神疾患、治療法、精神科リハビリテーションについて学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 我が国の精神障害者のおかれた現状を理解する。 2. 主な精神症状、精神疾患、治療法を理解する。 3. 精神障害者の保健、医療、福祉に関連する法律や制度を理解する。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. ガイダンス、社会のなかの精神障害③：精神障害と法制度 2. 精神科疾患のあらわれ方①：精神を病むことに生きること、精神症状論と状態像、診断と疾病分類 3. 精神科疾患のあらわれ方②：統合失調症（前編） 4. 統合失調症（後編） 5. 精神科疾患のあらわれ方③：抑うつ症群 6. 精神科疾患のあらわれ方④：双極症および関連症群 7. 精神科疾患のあらわれ方⑤：恐怖症性不安障害、強迫性障害 8. 精神科疾患のあらわれ方⑥：重度ストレス反応および適応障害、アルコール症 9. 精神科疾患のあらわれ方⑦：知的能力障害／知的発達症、てんかん 10. 精神科疾患のあらわれ方⑧：発達障害 11. 精神科疾患のあらわれ方⑨：摂食障害、パーソナリティ障害 12. 精神科疾患のあらわれ方⑩：睡眠障害、症状精神病 13. 精神科での治療①：精神科における治療、精神療法 14. 精神科での治療②：薬物療法 精神科における薬物療法の意義、抗精神病薬（クロルプロマジン換算も含む）、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬、看護師による服薬のかかわり 15. 精神科での治療③：電気けいれん療法その他、環境療法・社会療法 | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：シラバスに沿って使用テキストの該当するページを読み、講義に臨みましょう。 事後学習：毎回講義で配付するレジュメ資料の復習は行ってください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 学習時間：予習と復習は、60分程度行ってください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 到達目標に沿った知識の確認を行う。 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | ・講義では毎回配付するミニレポートに要点をまとめ、授業後に提出してください。 | | | | |
| 使用テキスト | ・武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎、第6版【電子版】、医学書院、2025。 ・武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開、第6版【電子版】、医学書院、2025。 | | | | |
| 参考書 | ・尾崎紀夫・三村将他：標準精神医学、第9版、医学書院、2024。 ・加藤温・森真喜子：看護学テキスト NICE 病態・治療論 [12] 精神疾患、改訂第2版、南江堂、2024。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|-------|-------------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 精神臨床看護論Ⅱ N33089 | 後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 畠田 盛光・岩崎みすず | | | | |
| 授業の概要 | 精神看護の基本的概念を理解し、精神障害をもつ人々への日常的な援助方法と精神障害をもつ人々が地域生活を継続する際の社会資源とその活用について学ぶ。さらに、精神疾患の事例を用いて基礎データの情報収集、セルフケア評価、アセスメント、看護計画の立案を行う。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科における治療的環境の意味、主な精神障害をもつ人の看護が理解できる。 2. 精神科デイケア、精神科作業療法、精神科外来、精神科訪問看護の実践が理解できる。 3. 精神疾患の事例を用いて看護過程の展開が理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、精神障害をもつ人への看護①：統合失調症（急性期） 2. 精神障害をもつ人への看護②：統合失調症（慢性期） 3. 精神障害をもつ人への看護③：抑うつ症群（大うつ病性障害・単極型うつ病性障害） 4. 精神障害をもつ人への看護④：双極症及び関連症群（双極Ⅰ型障害・双極Ⅱ型障害・単極型躁病性障害） 5. 精神障害をもつ人への看護⑤：強迫性障害 6. 精神障害をもつ人への看護⑥：パニック障害 7. 精神障害をもつ人への看護⑦：アルコール症 8. 精神障害をもつ人への看護⑧：摂食障害（神経性無食欲症・神経性過食症） 9. 精神障害をもつ人への地域生活支援①（精神科デイケア・精神科作業療法）：特別講師（飯田病院・作業療法士） 10. 精神障害をもつ人への地域生活支援②（精神科外来・精神科訪問看護）：特別講師（飯田病院・看護師） 11. 精神障害をもつ人への看護援助の展開（看護援助の基本構造、精神障害をもつ人のセルフケアの援助、精神障害をもつ人のセルフマネジメント） 12. 看護過程の展開①（事例の情報収集とアセスメント・個人ワーク） 13. 看護過程の展開②（個人ワーク・グループワーク） 14. 看護過程の展開③（グループワーク） 15. 看護過程の展開④（グループ発表） | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：授業範囲に該当する使用テキストのページを予習して講義に臨みましょう。 事後学習：毎回授業で配付するレジュメ資料の復習をしましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 学習時間：使用テキストの通読は、60分程度行ってください。レジュメ資料の振り返りは、60分程度行ってください。個人ワーク記録などは、120分程度行ってください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 80 | 到達目標に沿った知識の確認を行う。 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 20 | 個人ワーク記録により事例の理解度の確認を行う。 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | ・事例学習におけるグループワーク記録は、授業内でディスカッションして発表します。個人ワーク記録はコメントして精神看護学実習前に返却します。演習最終日は、グループ発表（質疑応答を含む）を全員で実施します。 | | | | |
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎、第6版【電子版】、医学書院、2025。 ・武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開、第6版【電子版】、医学書院、2025。 ・リンダ J. カルペニート・黒江ゆり子監訳：看護診断ハンドブック、第12版【電子版】、医学書院、2023。 | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・岩崎弥生・渡邊博幸編：精神障害をもつ人の看護 精神看護学②、第6版、新体系看護学全書、メヂカルフレンド社、2021。 ・萱間真美・稲垣中：看護学テキスト NICE 精神看護学Ⅰ 現代に生きる人々のこころの健康を支える、改訂第3版、南江堂、2023。 ・萱間真美・稲垣中：看護学テキスト NICE 精神看護学Ⅱ 対象者の力を引き出し支える、改訂第3版、南江堂、2023。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 3 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 精神看護学実習 N34090 | 通年 | 実習 | 2 | |
| 担当教員 | 鳶田 盛光 | | | | |
| 授業の概要 | <p>精神保健上の課題を持つ受持ち対象者と実際に接することにより、健康段階にあわせた対象理解と精神疾患や症状に関する知識を深める。精神保健上の課題を持つ受持ち対象者と実際に接することにより、対人関係を展開させるための看護技術を学ぶ。</p> <p>精神保健上の課題を持つ受持ち対象者と実際に接することにより、看護援助を通して自己の振り返り必要な態度を身に付ける。</p> <p>本実習は実務家教員の授業で、看護師免許を有する教員が担当する科目である。</p> <p>看護に関する実務家としての視点、臨床での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者および疾患が理解できる。 2. 対象者のアセスメントおよび適切な援助の提供が理解できる。 3. 対象者への態度および治療的コミュニケーション技法が理解できる。 4. 精神保健医療福祉に携わるスタッフチームにおける看護師の役割および関連職種との連携・協働が理解できる。 5. 対象者のプロセスレコード作成と自己洞察を行うことができる。 6. 地域生活に必要な社会資源の知識や援助法および関係法規が理解できる。 7. 精神障害による生きづらさが理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 3 年次全体の精神看護学実習オリエンテーション及び精神看護学演習を行う。 2. 2 週間実習は、①病院・施設実習グループと②施設・病院実習グループの実習配置に従って行う。 3. 病院実習は、指定された病棟に分かれて 5 日間実習とします。内容は病棟概要、受け持ち患者の情報収集・アセスメント・看護計画、病院総括カンファレンスを行う。 4. 施設実習は、指定された施設に分かれて 3 日間実習とします。内容は施設概要、利用者との関わり、地域生活継続のための情報の整理、施設総括カンファレンスを行う。 5. 実習学内日は、プロセスレコード発表や実習記録のまとめを中心に行う。 | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：臨地実習の開始 2 週間前までに様式 1 の課題を完成させ、担当教員へ提出してください。事前学習が不十分な場合は再提出になります。</p> <p>事後学習：対象者の疾患や看護の知識を深め、翌日の実習目標や行動計画立案を行ってください。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 学習時間：当日の実習記録整理や翌日の行動計画立案は、60 分程度行ってください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 100 | 到達目標は、実習評価表を用いて総合的に評価する。 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>臨地実習では対象者の理解と疾患や看護の知識が不可欠です。そのためには精神保健論、精神臨床看護論Ⅰ、精神臨床看護論Ⅱの授業資料を振り返り、対象者の人生を想像しながら精神科看護を考えます。日々の実習記録は、実習指導者や担当教員がコメントを入れて返却します。分からないことは速やかに調べ、実習指導者などに質問し主体的な実習を進めましょう。実習記録は、実習時間内に記入するよう取り組んでください。実習上の課題や実習記録が未提出の場合は、再履修になります。</p> | | | | |
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・リンダ J. カルペニート・黒江ゆり子(監訳)：看護診断ハンドブック、第 12 版、医学書院、2023. ・岩崎弥生・渡邊博幸編：精神看護学概論 精神保健 精神看護学①、第 6 版、新体系看護学全書、メジカルフレンド社、2021. ・岩崎弥生・渡邊博幸編：精神障害をもつ人の看護 精神看護学②、第 6 版、新体系看護学全書、メジカルフレンド社、2021. | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎、第 6 版【電子版】、医学書院、2025. ・武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開、第 6 版【電子版】、医学書院、2025. | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 看護管理 N33091 | 後期 | 講義 | 1 | |
| 担当教員 | 畠田 盛光・代田 とみ子 | | | | |
| 授業の概要 | <p>看護管理は、看護管理者だけでなく看護師にも必要な知識・技術です。看護サービスがどのように組織化され、質が保証されているかを知り、看護師が多職種と協働することの大切さを学ぶ。</p> <p>看護サービスを提供するうえで必要なマネジメントの基本を知り、対象者を取り巻く人的資源・物的資源・財的資源を有効に生かすための仕組みやマネジメントを看護管理者、看護師の視点に分けて理解する。複数受け持ち実習の考え方や国際看護及び災害看護、看護を取り巻く諸制度について学ぶ。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が看護ケアを提供する時に必要となるマネジメントについて理解できる。 2. 災害看護及び国際看護の実際について活動が理解できる。 3. 看護管理者が行う看護サービスのマネジメントについて理解できる。 4. 複数受け持ち実習の展開について考え方が理解できる。 5. 看護を取り巻く諸制度が理解できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、看護におけるマネジメント、看護ケアのマネジメント①：看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 看護ケアのマネジメント②：患者の権利の尊重、安全管理、チーム医療、看護業務の実践 3. 災害看護の実際：特別講師（下伊那赤十字病院 訪問看護ステーション・看護師長） 4. 国際看護の実際：特別講師（株式会社ぼれぼれ 訪問看護ステーションぼれぼれ・代表取締役） 5. 看護職としてのセルフマネジメント：看護職のキャリア形成、看護専門職としての成長、健康管理、ストレスマネジメント 6. マネジメントに必要な知識と技術①：マネジメントの基礎知識、組織のマネジメント 7. マネジメントに必要な知識と技術②：リーダーシップとマネジメント、組織の調整 8. 看護サービスのマネジメント①：組織としての看護サービスのマネジメント、組織としての目標達成マネジメント、看護サービス提供のしくみづくり 9. 看護サービスのマネジメント②：人材（ヒト）のマネジメント 10. 看護サービスのマネジメント③：ケアを提供する環境のマネジメント、物品（モノ）のマネジメント 11. 看護サービスのマネジメント④：財的資源（カネ）のマネジメント、業務量のマネジメント 12. 看護サービスのマネジメント⑤：情報のマネジメント、組織におけるリスクマネジメント、サービスの評価 13. 複数受け持ち実習の展開①（講義）：優先順位、時間管理、多重課題、多職種連携 14. 複数受け持ち実習の展開②（演習）：紙上事例による複数受け持ち患者の看護過程 15. 看護を取り巻く諸制度：看護職、医療制度、看護制度と政策、全体のまとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：授業計画の項目を確認し、使用テキストを通読して授業に臨んでください。</p> <p>事後学習：看護におけるマネジメントの理解や看護を取り巻く諸制度を確実な知識とするためには、授業内で配付する資料の復習を行ってください。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 学習時間：予習と復習は、60分程度行ってください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 100 | 到達目標に沿った知識の確認を行う。 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 授業で分からないことは、必ず質問してください。 | | | | |
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・上泉和子：系統看護学講座 看護の統合と実践 [1] 看護管理、第11版【電子版】、医学書院、2025。 ・庄野泰乃・内木美恵・東智子：系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学、第5版【電子版】、医学書院、2025。 | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・秋山智弥・奥裕美：看護学テキスト NICE 新版 看護管理学 一人ひとりが拓く看護のリーダーシップ、南江堂、2025。 ・川村治子：系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全、第5版【電子版】、医学書院、2025。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|-----------------------|------------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 看護研究 N33092 | 後期 | 演習 | 1 | |
| 担当教員 | 塩澤 綾乃 他 | | | | |
| 授業の概要 | 看護研究の基礎知識と研究方法を学び、ゼミナール(卒業研究)での取り組みに活用できる。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と目的、種類、研究プロセスの概要が理解できる。 2. 研究を行う上での倫理的配慮について理解できる。 3. 研究方法の選択の仕方、研究方法ごとの特徴が理解できる。 4. 文献の種類、検索の仕方、読み方、整理の仕方およびレビューの書き方を理解できる。 5. 研究計画書・研究論文の作成方法が理解でき、模擬研究計画書を作成できる。 6. 研究結果の伝え方とそれに伴って行う準備について理解することができる。 7. 卒業研究の発表のイメージができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 【講義】ガイダンス、看護研究とは 2. 【講義】看護研究のはじめ方、リサーチクエスションの立て方、研究における倫理的配慮 3-5. 【講義】研究デザイン、研究の設計と方法の選択、データの収集と分析(量的研究) 6. 【講義】データの収集と分析(質的研究) 7-9. 【講義・演習】文献検索と批判的吟味、文献レビューとその方法(医学中央雑誌 Web 検索なども含む) 10. 【講義】問題解決のための研究的アプローチ、ケースレポート・事例研究・文献研究 11-12. 【講義・演習】研究計画書とは、研究計画書の書式とその作成方法(ゼミナールの手引き配付・模擬研究計画書の作成) 13. 【講義】研究を伝える、学会発表・論文作成など(看護研究の課題についての説明) 14-15. 【演習】卒業研究発表会への参加・質疑応答(卒業研究発表会の演題要約レポートの作成) | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：自らの経験や既修得の全ての知識が、卒業研究への理解を深めます。 事前にテキストを読み自分の取り組む内容や分からないことを把握して授業に臨みましょう。</p> <p>事後学習：毎回の授業内容の振り返りおよび提示された課題に取り組みましょう。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義前のテキストの通読および概要の理解については、30分から1時間程度の時間が必要になります。 ・課題の作成については、提示された内容によって時間は異なりますが、学習した内容を整理した上で自らの学びや考えをまとめられる時間を充分確保しましょう。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 90 | 文献クリティーク、模擬研究計画書作成、全体を通しての学び | | |
| その他 | 10 | 卒業研究発表会の要約、授業への取り組み姿勢 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・この授業は卒業研究に向けて、研究手法の理解と自らの研究課題が定まることを目指しています。 ・提示した課題は授業内でも活用し、理解を深めていきます。 ・全ての課題は担当教員が添削し、課題に対する全体の傾向を必要に応じ講義の中で説明します。それにより、個々の自己課題の確認ができるようにしていきます。 ・提示された課題は期日までに必ず実施し提出してください。 ・提出した課題レポートは、成績評価後に返却します。 | | | | |
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・宮下玲子・宮芝智子・小野博史：系統看護学講座 別巻 看護研究，第2版，医学書院，2024. | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・初年次伝える力向上委員会編集：こう学習すればわかる 聴く・読む・調べる・書く コツはこれだ！，第5版，飯田短期大学看護学科，2024. ・桂敏樹・星野明子：かんたん看護研究(改訂第2版) さがす・つくる・仕上げる，南江堂，2020. ・早川和生：JJN スペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方，第2版，医学書院，2012. | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|-------------------------------|--------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 3 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | ゼミナール (卒業研究) N34093 | 通年 | 演習 | 2 | |
| 担当教員 | 学科教員 | | | | |
| 授業の概要 | ゼミナールは、看護研究の授業で学習した知識や方法を基盤に自らの研究課題を明らかにして問題解決に向けた研究計画書又は研究論文を作成して提出し、卒業研究発表会で発表する。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を明らかにする。 2. 研究課題に関連する文献検討を十分に行う。 3. 研究目的とその意義を明確にする。 4. 研究課題解明のための適切な研究方法を選定する。 5. 指導教員から必要な研究指導を受けつつ、自らが研究遂行の主体であることを自覚する。 6. 自ら行った研究過程または研究計画書をまとめ、研究発表会で発表する。 7. 看護研究における倫理規定を理解して研究過程を進める。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 授業計画 | <p>【前期】</p> <p>1-2. 指導教員ガイダンス、リサーチクエスションの明確化 3-4. 文献検索、研究テーマ決定、ゼミナール研究題目提出用紙 (教務課提出) 5-10. 文献取り寄せ、文献リスト表作成 11-15. 文献クリティーク (合同ゼミ抄読会を含む)、卒業研究フォーマット準備</p> <p>【後期】</p> <p>16-25. 研究計画書又は研究実施・研究論文執筆 26-27. 卒業研究 (推敲・校正) 完成 (教務課提出)、研究計画の概要及び抄録提出 28-30. 発表準備・ゼミナール単位の練習、卒業研究発表会の発表 (Microsoft PowerPoint 利用)</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナールは、その分野の知見がどの程度のレベルに達しているかということが大切になり、研究目的に到達するまでの過程 (研究プロセス) がより重視されますので自ら主体的に学び、指導教員から十分に研究指導を受けることが重要となる。 ・事前学習としては、2年次の科目「看護研究」をしっかり振り返っておくことが必須です。 ・事後学習としては、指導教員の研究指導を受けつつ積極的かつ主体的に各自の研究課題に取り組むこと。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | ・準備学習は 30～60 分程度、個人により変動する。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 20 | 卒業研究発表会口頭発表 (発表) | | |
| | レポート | 50 | 研究計画書又は研究論文 (内容) | | |
| | その他 | 30 | 主体的な研究への取り組み姿勢や指定された課題提出 (態度) | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文を目指している方は、指導教員が決まり次第、速やかに準備を進めましょう。 ・ゼミナール (卒業研究) の手引きは、必ず熟読して執筆すること。 ・研究指導を受ける場合は、指導教員に事前アポイントメントを取ること。 ・研究進捗状況は、指導教員に適宜報告すること。 ・演習時間は、指導教員に自分が必要時間数を受講しているか確認すること。 ・卒業研究は、ゼミナール指導時間数不足や提出期限に遅れた場合、再履修の可能性があります。 | | | | |
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究コーディネーター編集：2026 年度 ゼミナール (卒業研究) の手引き、飯田短期大学看護学科、2025. ・宮下玲子・宮芝智子・小野博史：系統看護学講座 別巻 看護研究、第 2 版、医学書院、2024. | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・初年次伝える力向上委員会編集：こう学習すればわかる 聴く・読む・調べる・書く コツはこれだ！、第 5 版、飯田短期大学看護学科、2024. ・桂敏樹・星野明子：かんたん看護研究 (改訂第 2 版) さがす・つくる・仕上げる、南江堂、2020. ・早川和生：JJN スペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方、第 2 版、医学書院、2012. | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|--------------------------------------|-------|-----------|
| 対象学生 | 看護学科 3 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 統合実習 N34094 | 後期 | 実習 | 3 | |
| 担当教員 | 服部 さゆり | | | | |
| 授業の概要 | 各領域別実習を終えた3年生が学ぶ最後の臨地実習です。実習目的を、1) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力を培う、2) 医療チームの一員として看護を実践し、看護管理の必要性を学ぶ、3) 対象の擁護者としての自覚を深め、看護師に求められる倫理的感性を培うの3項目として、臨床に即した看護実践の実習を行います。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者を受け持ち、限られた時間内で優先順位を考えながら看護実践し判断できる。 2. 各専門分野での学びを基に安全・安楽で対象に添った確かな技術を提供し、看護の評価ができる。 3. チーム医療に関わる多職種との連携・協働を知り、看護管理について理解を深める。 4. チームアプローチを中心とした看護実践を通して看護管理に関する理解を深める。 5. 看護における倫理について考えるとともに、患者を尊重し倫理的態度をとることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 授業計画 | <p>【履修要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次の領域別実習で単位不認定の科目がないこと。 <p>【実習展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間は、学内実習を含めて3週間である。 ・病棟配置は、実習初日のオリエンテーション前に掲示します。 ・学内実習は、1週目の水曜日まで複数受け持ち患者のシミュレーション演習や看護技術練習を行います。 ・看護管理実習は、1週目の木・金曜日に行います。 ・看護実践実習は、2週目以降に看護師のシャドーイング、複数受け持ち患者の看護実践と実習を行います。 ・実習中のカンファレンスは、学生リーダーが実習担当教員と相談しながら実施しましょう。 ・詳細は、実習要項を参照すること。 | | | | |
| 事前・事後学習について | <ul style="list-style-type: none"> ・統合実習自己課題学習の目標は、領域別実習を行いながら考え統合実習で学びを深化させましょう。 ・未経験や不安の残る看護技術は確認し、適宜看護技術練習をしましょう。 ・医療チームの一員として看護実践するための知識（優先順位や時間管理、病棟チームの機能）や看護管理者の役割について授業内容の復習を行いましょ。 ・限られた時間で対象理解を深めるために、健康段階に応じた看護の視点を復習することも必要です。 ・カンファレンスやレポート課題で「チームの一員としての複数受け持ち看護の実践」「看護管理の実践」に関する学びを具体化しましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・上記学習を行い、最善の状態を実習に臨めるように自己管理してください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 100 | 学習への取り組み姿勢・実習態度を含め、統合実習評価表に基づき評価します。 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・実際の看護援助場面は、実習担当教員や実習指導者が適切な看護技術であったのか振り返りを促し直接指導・助言を行います。 ・実習記録や提出物は、実習担当教員や実習指導者が記録コメントや直接口頭で指導・助言を行います。 ・指定された提出物を遅延した場合は、一部評価の対象になりません。 ・実習上の課題や指定された提出物は、提出期限を厳守してください。 | | | | |
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・上泉和子他：系統看護学講座 看護の統合と実践 [1] 看護管理, 第11版, 医学書院, 2024. | | | | |
| 参考書 | | | | | |